

---

逃走中firstseason **スーパーマリオスタジアム編**

アクアイド

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

逃走中firstseason スーパーマリオスタジアム編

### 【コード】

N9996V

### 【作者名】

アクアイド

### 【あらすじ】

ベースポールアイランドから、場面を切り替え各地でハンターという生命体から逃げる46人……。そして、その逃走中を狙う影……。彼らの長い戦いが今、幕を切って落とされた……。

## 始まりと賞金と人数（前書き）

小学6年生ですが、頑張って小説を作りたいです。

## 始まりと賞金と人数

アクアイド「今回から初めて書きます。出来れば見てください。」

マリオ「早く始める！」

アクアイド「すぐ始めるから、待ってる！」

ルイーダ「今回は何人でやるの？」

アクアイド「46人だ！」

全員「多っ！」

アクアイド「待て！スマブラXでも36人いるから！そして、3日間逃げ切れば、500万円もらえる！」

全員「長っ！」

クツパ「ちよつと待て！いくらなんでも長すぎるぞ！」

アクアイド「賞金が多いからいいじゃん！」

クツパ「・・・分かった・・・」

今回はキャラ、マップ紹介！

**始まりと賞金と人数（後書き）**

マリオ「ところで、ハンターは何人だ？」

アクアイド「3人。」

マリオ「よし頑張るぞ！」

45人（マリオ以外）「おう！」

## 参加者とマップと説明(1)(前書き)

特撮好きなので、仮面ライダーオーズのようなサブタイトルになっています(ただし時々)。

また、行を変えて投稿するようにします。

## 参加者とマップと説明(1)

参加者46人の説明　スーパーマリオスタジアムミラクルベースボールのキャラ。

ちなみに能力はファミリーベースボールから。今回はミラクルベースボールで言うバランス、テクニクタイプのキャラ。

マリオ

一応主人公。だけど性格が悪い時もある。

一人称は俺。

足は少し早い。ミッションには賞金関係以外行かない。

ルイージ

他の作者さんの逃走中ではひどい目に逢うことが多い。

一人称は僕。

足はマリオより少し早い。ミッションには基本行く。

デイジー

元気な、サラサランドの姫。

一人称は私。

足はやや遅い。ミッションにはハンター関連のみ行く。

キャサリン

オカマだが、ヨッシーに好意を寄せている。

一人称はあたし。

足は普通。頼りたいので、ミッションには前半のみ行く。

キノピオ（赤・青・黄・緑・紫）

キノコ頭の住民。

一人称は赤が私で青が僕で黄がワイで緑と紫が俺。

足は少し早く、黄・赤・紫・緑・青の順に早くなる。

ミッションには、基本行く。

ヘイホー（赤・青・黄・緑・黒）

仮面を被った兵隊。

一人称は僕だが、黒のみ俺。

足は普通で、青・黒・赤・黄・緑の順に早い。

ミッションには行かない。

クリボー

一回踏むだけで倒せる、敵。

一人称は俺。

足はやや遅い。ミッションには行くが、協力系は行かない。

ノコノコ（緑・赤）

立つことのできる亀。

一人称はオレッチ（マリストのカメキからとっている）

足は普通で、緑のほつが若干速い。

ミッションの参加は気まぐれ。

ピーチ



キノコ王国の姫。

一人称は私。

足はやや遅い。ミッションには基本行く。

ワルイージ

ワリオの相棒。悪いことを考えることが多い。

一人称は俺。

足は遅い。ミッションには行かない。

テレサ

人気の高い敵、お化け。

一人称は僕。

足は意外に早い。ミッションには行かない。

キノじい

キノピオ族の長老。

一人称はわたくし。

足はかなり遅い。ミッションには行かない。

パタパタ（赤、緑）

羽根の生えたノコノコ。

一人称は私（ノコノコと同じでパレットから取った）。

足はやや早い。ミッションには基本行く。

カメック（赤、青、黄、緑）

魔法使いの亀。

一人称は私。

足はかなり遅く、緑・青・黄・赤の順に遅くなる。  
ミッシヨンには行く時と行かないときがある。

カロン（白・緑・黒・青）

骨になったノコノコ。

一人称は俺。

足は普通で、黒・青・白・緑の順に早くなる。  
ミッシヨンには行かない。

参加者とマップと説明(1)(後書き)

続きは一週間後までかな。

## 参加者とマップと説明(2) (前書き)

参加者とマップと説明(1)の続き。今回はスピード、パワータイプ。

## 参加者とマップと説明(2)

ヨッシー

緑色の恐竜。

一人称は私。

足が一番速い。ミッションには結構行く。

デイデュー

帽子をかぶったサル。

一人称はオイラ。

足は結構速い。ミッションにはマリオと同じで賞金関係のみ行く。

ベビーマリオ

マリオの幼少時代。

一人称は僕。

足は速い。ミッションには行かない。

パタクリボー

羽根の生えたクリボー。

一人称はオイラ。

足はやや速い。ミッションには行かない。

マール(青・赤・緑)

貝殻の民族。

一人称は私。

足は速く、赤・緑・青の順に速くなる。  
ミッションには行く。

ドンキーコング

ネクタイを付けたゴリラ。

一人称は俺。

足は遅い。

ミッションには行かない。

クッパ

トゲの生えた亀。

一人称は吾輩。

足は一番遅い。ミッションには行かない。

ワリオ

悪いマリオ。

一人称は俺。

足は遅い。ミッションはマリオと同じ(r y

クッパJ r .

クッパの子供。

一人称は僕。

足は意外に速い。ミッションには父が行かないと行かない。

キングテレサ

テレサのキング。

一人称は俺。

足は遅い。ミッションには行かない。

モンテ（青・赤・黄）

ヤシの木が生えた民族。

一人称は俺。

足は遅く、黄・青・赤の順に遅い。

ミッションにはマールレが行くなら行く。

マップ

ベースボールアイランド（スーパーマリオスタジアム ファミリー

ベースボールの舞台）

エントランス

港

マリオスタジアム

ピーチリンク

ヨッシーパーク

ワリオシティ

DKジャングル

次回スタート！

参加者とマップと説明(2) (後書き)

クツパ「吾輩の説明適當すぎるだろ!」

アクアイド「間違つてないからいーじゃん!」

クツパ「.....」



## オープニングゲームパート1（前書き）

一応言っときますが、ギャグ要素があります。



「アクアイド」ではくじを引け。なお、鎖にはアイテムもあるからな。」

「マリオ」鎖46本あるからな！」

ルイージ「5番！アイテムが引けそうだ！」

マリオ「38番か。ひけなさそうだな。」

緑へイホー「うわあ、15番。たいていここでハンター放出するんだよなあ・・・」

1番目は青キノピオ。

青キノピオ「じゃあ、青紫ひきます！」

「ワルイージ」1番目からは引かないよな。」

「グイツ！ ガゴン！」

3体のハンターが放出された・・・

「ワルイージ」まじかよ!?!」

油断していたワルイージ。青キノピオに抜かれ・・・

「ポン」

「ワルイージ」ぐわあ〜！」ワルイージ確保残り45人



というワルイージの妄想だった。

45人「妄想かよ!」

青キノピオ「今回は本当にひくよ!」

## オープニングゲームパート1（後書き）

逃走中同盟の皆さんとも仲良くしていきたいです。

## オープニングゲームパート2 (前書き)

文字がまだ足りない…

## オープニングゲームパート2

青キノピオ「えいつ！」

グイッ！

シーン…

青キノピオ「セーフなので、逃げますね。」

青キノピオはそう言うとワリオシティのほうに行った。

この後、テレサが薄ピンク、黒ヘイホーが黒、クツパが黄土色を出してセーフ。

5番目はルイージ。

マリオ「ルイージー！おまえはほかの小説ではひどい目にあってるから頑張れよー！」

ルイージ「黄緑を引く！」

ルイージ「てえいやっつっつっつあああああー！」

マリオ「気合入り過ぎ！」

グイッ

シーン……



ルイージ「セーフだ！何か書いてある・・・」

そこには冷凍銃と書いてあった！

ルイージは冷凍銃をもらい、去って行った。

その後、12番手の黄色へイホーが赤を引いて足の速さを2倍にできるスピードシューズを、15番手の緑へイホーが水色を引いて全部で1時間使える羽根を、19番手のヨッシーが白を引いて逃走者の位置を知らせるナビをゲットした。

20番手はへイホー。

へイホー「銅色引きます！」

残り28人「渋い！」

グイッ！

シーン…

へイホー「この鎖」「ハンタードール」「って書いてあります！」

マリオ「なんだそりゃ！」

アクアイド「自分が確保されたときに、5分間の間に誰かを確保すれば復活できるというものなのだが・・・」

29人「え？」

アクアイド「実は陰で（公開するつもりはない、それにつまらない）逃走中を3週間前にやったのだが、このハンタードールを着た逃走者がほかの逃走者を確保した後に熱中症になって倒れた。」

キングテレサ「それでどうなったんだ？」

アクアイド「・・・3日後に息を引き取った。」

29人「ええっ！」

アクアイド「嘘。」

29人「きつぱり言うな！」

「アクアイド」というわけで今回は、ハンターバッジを用意している。」

「ハイホー」ありがとうございます！」

その時。

ハンタードール「グオオッ！！オマエラオスオマエラオス！」

何とどこからともなくハンタードールが襲ってきた！

29人「ええっ！」

そしてその後から3人の人影・・・

いったい何者なのか・・・

## オープニングゲームパート2（後書き）

突然の展開！

## 急展開！デビルハンタードール（前書き）

この場にはいない逃走者

- 1 番目青キノピオ
- 2 番目テレサ
- 3 番目黒ヘイホー
- 4 番目クツパ
- 5 番目ルイーージ
- 6 番目黄キノピオ
- 7 番目赤マーレ
- 8 番目青モンテ
- 9 番目デイディー
- 10 番目ドンキー
- 11 番目赤ノコノコ
- 12 番目黄ヘイホー
- 13 番目ワリオ
- 14 番目クリボー
- 15 番目緑ヘイホー
- 16 番目パタパタ
- 17 番目ワルイーージ
- 18 番目緑キノピオ
- 19 番目ヨツシー

ヘイホーはまだ逃げていない。

つまりここにいるのは27人。

そして、次回は長い技の名前が出てきます。

後、今回は名前の後に何番に引くかが出てきます。

## 急展開！デビルハンタードール

変な奴1「俺達は新たな帝国を作り、この逃走中を支配しようとしている。」

マリオ(38)「逃走中だけかよ！」

変な奴2「その名は超集団メルザス。」

青ヘイホー(26)「(こっちの質問無視しやがったー！)」

変な奴3「そして、ハンタードールは使われなくなった恨みを利用してデビルハンタードールとなったのさ。」

緑マーレ(37)「デビルハンタードール・・・」

アクアイド「正体を見せる！」

変な奴1「いやいやいや、見せたら小説としての面白みが無くなるじゃん。」

キングテレサ(29)「小説の はな話すなー！」

変な奴3「というわけで、正体は見せられないんだ。」

ベビィマリオ(34)「じゃー、スター。」

変な奴3人「え」

変な奴1「てかさつきから変な奴ばつか書くな！」

ベビィマリオ「じゃ、正体を見せるために」

ベビィマリオ「パワフルベビィアターック！」

変な奴3人組「ぐわっ！」

正体はいかに！？

マリオ「続くんかい！」

アクアイド「だって更新したの昼だし、昼飯食わないと。」

パタクリボー（42）「ならしょうがないな。」

ちなみにベビィマリオがスターと言った理由はパワフルベビィになるためです

（スターもちゃんと持ってた）

急展開！デビルハンタードール（後書き）

ルイージ「僕たち前書きと後書きしか出てないね。」  
緑へいホー「次回はきつと出れますよ！」

## 超決闘！デビルハンタードール集団（前書き）

ここにいる逃走者

マリオ

デイジー

キャサリン

赤・紫キノピオ

赤・青ヘイホー

ノコノコ

ピーチ

キノじい

緑パタパタ

青・赤・緑・黄カメック

白・緑・黒・青カロン

ベビイマリオ

パタクリボー

青・緑マール

クッパ jr

キングテレサ

赤・黄モンテ

これにアクアイドを足して28人になる。

デビルハンターが脅威を見せる！

ちなみに今回も番号つきです。



## 超決闘！デビルハンタードール集団

俺達の正体は・・・

アルファ！

ベータ！

ガンマ！

アルファ「俺はメルザスの最強の王。」

ベータ「俺はアルファの次に強い隊長。」

ガンマ「そして俺はベータの次に強い副隊長だ！」

マリオ（38）「やっと出てきたな！」

アルファ「だが、俺たちは戦わない。」

グリーンカロン（31）「何！？」

ベータ「戦うのはこいつらだ！」

と、ベータが言うと、後ろからデビルハンタードールがなんと99  
9体出てきた！

ガンマ「この1000体ハンターに勝てるかな？クッククク・・・」

といい3人は不気味に去って行った。

青ヘイホー(26)「マスクブーメラン(予備のマスクをブーメランとして投げる)！」

スパッ!

ガンマ「イテッ!」

不気味に…去って…行った…

ブルーカロン(36)「青ヘイホー、雰囲気をぶち壊すな!」

青ヘイホー「すみません。」

それでも去って行った。

そして1000体のデビルハンタードールが28人に襲いかかった!

アクアイド「行くぞみんな!」

27人「おう!」

こうして死闘が始まった!

なお、どうして隠れた19人が気付かないかは考えてはいけない。

19人「結局出番なしかよ!」

ここから番号なくなります

マリオ「ウルトラファイア！」

デイジー「ローズ五月雨ニードル！」

キャサリン「スーパー吹き飛ばし！」

赤・紫キノピオ「スーパーキノコボム！」

デビルハンタードール達「グワアア！」

マリオ「アヒルみたいだな！」

デビルハンタードール「グワツグワツグワツ」

マリオ「本当になった！」

デビルハンタードール達「サスナボケー！」

ドカドカドカ！

マリオ「ぎゃあああああ」

マリオ「行くぜ赤モンテ！」

赤モンテ「おう！」

マリオは天高く飛んで行った！

デビルハンタードール達「ナンダ？」



ガガガガガガガガガッ！

デビルハンタードール達「ダァァァ！」

ピーチ「ヒステリックボム！」

ズガガガガドーン！

デビルハンタードール達「デュワァァァァァァァァァ！」

デビルハンタードール達「ジイサンニナニガデキル！」

キノじい「必殺！杖突風！」

ビュオオオオオオオオオオオ！

デビルハンタードール達「グワァァァァァァァァァ！」

その他もろもろありまして。

残りの逃走者「俺たちの活躍カットかよー！」

ついに倒したのだ！

やったぜ！

アクアイド「じゃあ21番目は誰だ？」

キャサリン「あたしよー！」

キャサリン「銀を引くわ！えい！」

ぐいっ！

ガゴン！

3体のハンターが放出された・・・

キャサリン「キヤーーーーー！」

「ポン」

キャサリン「ああ・・・」キャサリン確保残り45人

さらに・・・

ズテッ！

なんとワリオ、転んでしまった！

「ポン」

ワリオ「なんでこういう時に転ぶんだよー！」ワリオ確保残り4人

マリオ「ついに始まったか・・・」

赤キノピオ「何々メールが届いています」

パタパタ「港にてキャサリン確保 多分引いたんでしょうね・・・。

「

黒へイホー「ワリオ確保残り44人　なんで2人も減ったんだ!？」

ついに本格的スタート!

## 超決闘！デビルハンタードール集団（後書き）

のちに超集団メルザスの事は全逃走者にメールで送られました。



**驚き！店員の正体！そして苦渋の選択・・・（前書き）**

今回は戦隊好きじゃないとわからないネタが多数あります。  
後、全員戦隊好きとしています。

驚き！店員の正体！そして苦渋の選択・・・

青キノピオ「まずは、食糧補給をしなくては。」

マリオスタジアムの店へ行く青キノピオ。

そこには・・・

？「あ、いらっしやい！」

青キノピオ「あなたは！激走戦隊カーレンジャーの、レッドレーサーの、陣内恭介さんですよね！」

普通は激走戦隊カーレンジャーの皆さんは自動車会社ペガサスで働いています。

知らない人は検索してね。

恭介「どうしたの？」

青キノピオ「ってことは、他の店員も・・・」

その頃ピーチリンクの店

ブラッディカロン「ウィース。食べ物買いに来たぜ。」

？「あ、いらっしやい。」

ブラッディカロン「あ、イエローレーサーの志乃原菜摘さん！」

菜摘「雇われてここに来たの。」

ヨツシーパークの店

青へいほー「すみませーん。」

?「はい、なんでもございますか?」

青へいほー「ブルーレーサーの、土門直樹さん!」

ワリオシティの店

黄色カメック「入らせてもらいますよ。」

?「誰?」

黄色カメック「あ、ピンクレーサーの、八神洋子さん!」

DKジャングルの店

赤ノコノコ「アイテムを買わないと・・・」

?「おう、いらっしやい!」

赤ノコノコ「グリーンレーサーの、上杉実さんじゃないですか!」

そう、全ての店の店員はペガサスの社員である。

雇ったのはアクアイド。

46人「お前かよ！」

プルルルル！

ルイージ「メール？」

テレサ「ミッション1これから、裏切り者の投票をする」

赤マーレ「残り時間71時間までに裏切り者の投票をせよ」

緑キノピオ「投票しないと強制失格」どうする・・・

マリオ「こいつだけだよ。」

ピーチ「あなただけよ！」

グリーンカロン「こいつしかいないよな・・・」

ぶるるるるるる

ヨッシー「なぜ平仮名表記!？」

紫キノピオ「投票が終わった。」さて誰になったのかな・・・

驚き！店員の正体！そして苦渋の選択・・・（後書き）

次回初の正統派ミッション！

8人の追加戦士を解放して！（前書き）

mission2 始動！

missionの数はそれほど多くないが、長編になりそうだ…

8人の追加戦士を解き放て！

マリオストーリーの地図各地にて

キノコタウン

チヨロプー「いよいよか」

ノコノコ村

キノピコ「早く行きたいな」

ゴツゴツ山

ベビィルイージ「絶対逃げ切るでしゅ！」

テレサのお屋敷

ボスパックン「大丈夫かなあ…」

ジャンボル島

ディクシー「逃げ切るぞー！」

フラワーランド

ハンマーブロス「俺たちブロス族を認めてもらおうぜ！」

ファイアブロス「了解！」

ブーメランブロス「おう！」

車掌「準備はいいか!？」

係員「大変です!電気が無くなっています!さらに・・・」

係員「今電車がある所に、隕石が落ちてくるとのこと!」

車掌「何!？」

所変わって

ルイージ「12時スタートか・・・」

ちなみに今日は、小説を書き始めた8月21日の午後0時。

つまり逃走劇の終わりは、8月24日午後0時。

その頃

アルファ「電気を奪ったのも、隕石を落としたのも俺達さ。」

ベータ「ふっ・・・隕石が落ちれば、あの8人は死も確実だな。」

アクアイド「こんなことをするのはメルザスしかない!」

プルルルルル

青キノピオ「何でしょうか…:mission2!？」



黄へいホー「マリオストーリーのさまざまな地域から逃走エリアに向かうミラクルベースボールの隠しキャラの逃走者の乗る電車の電気が奪われた。」

緑キノピオ「残り70時間30分になると隕石が落ち8人が死ぬ。死ぬ!?さらつとかいてやがる!

嘘。なんだよー!」

ブラッディカロン「ただ、逃走中に参加できなくなる。」

黄色カメック「阻止するには港にあるレバーを引け!今71時間だな。」

ベビィマリオ「ここは行く!」

色々な人が行くようだ。

ベビィマリオ「さあ、着いたぞ。あれ?」

どうしたことが、レバーが下がらない。

その近くに手紙が置いてあった。

ベビィマリオ「読めない・・・」

そりゃそうですよ、赤ちゃんだもん。

そこをタイミング良く、

ルイーダ「あれ？どうしたの？」

ルイーダが通りかかる。

ベビィマリオ「これ読んでくだちやい・・・」

ルイーダ「悪いが、このレバーはマリオ ピーチ ヨッシー ワリオ ドンキー クッパの順にしないと下げられない。そして、レバーを下げられるのは、ミラクルベースボールで同じ球団だった者だけだ！  
アルファ」

ベビィマリオ「そんなあ！マリオの球団の人と、ピーチの球団の人が来ないと、弟を助けられないなんて！早く呼ばなきゃ！マリオの球団の人！ピーチの球団の人！」

ルイーダ「あの一？」

ベビィマリオ「誰か来てー！」

ルイーダ「あのすみませんが話を・・・」

ベビィマリオ「気のせいかな隣にだれもいないのに声を感じるよ」

ルイーダ「メガレンジャーEDの気のせいかな歌わないでよ！しかも替え歌で！」

ベビィマリオ「え？」

ルイーダ「あの僕……マリオの球団の者なんです……」

ベビィマリオ「うっかりしてまちた！さあ引いてくだちゃい！」

ルイーダ「はあ……何で僕はこんな扱いばかり……」

ガチャン！

運転士1「電力が復旧しました！」

車掌「よし発車しろ！」

プルルルル

アクアイド「あれ？ルイーダからだ……」

ルイーダ「レバー引いてから何分後に来るの？」

アクアイド「5分だよ。ん？あー！」

ルイーダ「どうしたの？」

エントランスにある  
牢獄

ワリオ「どうした！？」

ヨッシー「う……あ……」





何とか足が速いことに恵まれたようだ・・・

紫キノピオ「危ねえ・・・」

ベビィマリオ「ん!？」

紫キノピオ「あ、チビ。」

ベビィマリオ「早く引いてくだちやい!」

グイッ

ベビィマリオ「やったあー!」では早速・・・」

グイッ

運転士2・3「電力来ました!」

車掌「では出発!」

紫キノピオ「やったな!」

ベビィマリオ「はい!」

パン!

仲良くハイタッチ!

と、そこに・・・

アナウンス「快速港行き、終点港です。」

中からチヨロプーが出てきた。

チヨロプー「よろしくな〜！」

紫キノピオ「ああ、よろしく〜！」

次回に続く！

8人の追加戦士を解放して！（後書き）

レバーを下した時間（次回も書く）

チヨロプー 70時間55分

キノピコ・ベビイルージ70時間50分



封印されし8人の追加逃走者（前書き）

アクアイド

顔 ハイホーの仮面

体 普通

つまりアクアイドがどんな表情をしているかはハイホーと同じように調べる。

## 封印されし8人の追加逃走者

ハンターB「ひでーよ！何いきなりレイピア撃つんだよ！」

アクアイド「俺の好きなヨツシーをいきなり狙うからだ！」

ハンターB「分かった。これからは遠くで見つけてから狙う。」

一方

裏切り者「紫キノピオは捕まらなかったかー。」

裏切り者が次に目を付けたのは・・・

テレサ「ジャングルはいいねー。」

DKジャングルにいるテレサだ・・・

裏切り者「テレサ、DKジャングルの橋付近にいます。」

テレサ「僕はジャングルと言えば仮面ライダーアマゾンを思い出すね。アクアイドはほとんどの特撮好きだからね。って、あれはハンターじゃないか！」

しかし、

裏切り者「あつちにも誰かいるな・・・テレサのハンターと一緒に挟み撃ちさせるか・・・」

作戦は成功するのか!?

その頃

アクアイド「なあ、今からハンターになってみる気はないか？」

ルイーダ「え？」

アクアイド「今なら、missionやってるまでに誰か確保すれば、いいもの3つあげるぜ！」

ルイーダ「え!?!やるやる!!」

アクアイド「じゃあ、ハンターバッジを・・・」

ルイーダはハンター……バッ………ジを付けた!

ルイーダ「ライダー……キ………クみたいに言っな！」

アクアイド「とにかくお前はハンターになったわけだ。」

アクアイド「ちょっと待ってな。」

裏切り者「?、DKジャングルの石像にいます。これで20万円！」

ブルルルル

裏切り者「はい、裏切り者です。」

アクアイド「今からミッション終了までルイーダがハンターになっ

た。」

裏切り者「ルイージにも逃走者の場所を教えられるってことですね？」

アクアイド「ルイージが確保すれば、お前も10万円だ。」

ルイージ「裏切り者は捕まえないうよ。誰？」

アクアイド「クツパだよ。」

ルイージ「しーっ！そんなに大きな声で言ったら読者さんに聞こえるじゃないか！」

アクアイド「嘘！」

ルイージ「また!？」

アクアイド「ほんととはな・・・」

ルイージ「うん。分かった。」

その頃テレサと同じく通報されたのは・・・

赤マーレ「きゃー!」

赤マーレだ・・・

テレサ「逃げなきゃ!」

赤マーレ「早くしないと！」

「ポン」 「ポン」

なんと、互いを追いかけていたハンターがもう1人を確保した！

テレサ「何ハンターつれて来てんだよー！」

赤マーレ「そつちこそ！」

テレサと赤マーレは殴り合いを始めた！

クリボー「テレサと赤マーレがDKジャングルにて裏切り者の通報により確保残り42人」

アクアイド「なんだ！？テレサと赤マーレが殴り合い始めているぞ！？」

ルイージ「ゴルゴムの仕業か！」

3人「絶対違う！」

その頃

キングテレサ「ボスパツクンは仲いいから・・・」

ガチャ

運転士4「電力が届きました！」

その頃港に

アナウンス「快速港行きです。」

中からキノピコが出てきた。

さらにもう1両からベビィルイージが出てきた。

キノピコ「よろしく！」

ベビィルイージ「よろしくー。」

紫キノピオ「ああ。」

次回、ルイージが逃走者に牙をむける！

封印されし8人の追加逃走者(後書き)

ボスパックン 70時間46分

**表の2番手と裏の1番手（前書き）**

訂正

アクアイドの体

身長がヘイホーより20cm高い

服はヘイホーの物

あと、missionが終了しないと

追加逃走者は逃走者として認められない。



## 表の2番手と裏の1番手

プルルルル

マリオ「何だ？通達1!？」

キングテレサ「今からmission終了までルイージがハンターとなる。マジかよ・・・」

裏切り者「よし、これで20万円・・・」

裏切り者「ルイージと共同作戦を狙うか・・・」

ルイージ「さて誰狙おうかなー。」

その頃

パタクリボー「どうしようか・・・行こうかな・・・」

ピーチリンクの花壇の中に隠れているパタクリボー。

しかし、行くとハンターに見つかる危険性もある。

パタクリボー「!」

目の前にハンター・・・

パタクリボー「行ってるそばからくんな!」

だが、パタクリボーはスピードタイプなためか、なかなか差が縮まらない。

だが、そのまま港へ行ったために・・・

紫キノピオ・ベビィマリオ・キングテレサ「ハンター連れてくんない！」

何とハンターはパタクリボーを素通りして3人の方向へ行く！

3人はいったん別の方向へ逃げることにした。

ハンターの視界がとらえたのは・・・

キングテレサ「俺かよ！」

ヨッシーパークへ向かう。

だが逃げた先に・・・

クリボー「ええつと、食糧も確保したし・・・」

クリボー…

ダツダツ！

クリボー「どうしたんだキングテレサの奴・・・まいいつか・・・」



「ポン」

グリーンカロン「くっ……」

ノコノコ「あれ、もうメール？さっきかかってきたばかりなのに……」

クツパ「ワリオシティにてグリーンカロン確保残り40人初めてクツパ軍団が確保されたな……」

青キノピオ「すみません……何か後で買いますので……」

いいんだよ、それで、青のキノコ少年。礼もしない幽霊の王様よりずっとましだよ。

キングテレサ「ヘックシュン！」

その頃

プルルル

ルイージ「どうも、ルイージです。」

裏切り者「こちら裏切り者。いい標的（ターゲット）を発見したぜ。」

ルイージ「分かった！」

裏切り者「ワルイージ、ヨッシーパークメリーゴーランド付近にいます。」

ルイージ「ハハハ！ワルイージさえ確保してしまえばいい物はいた  
だきだ！行くぜ、俺！」

もはや彼は正義のルイージではなくなってしまった。彼は、欲望だ  
けを求める、悪のルイージとなってしまった。

その頃

パタクリボー「折角来たんだし……」

ガチャ

運転士5「出発だ！」

その頃一方

ポスパツクン「到着！」

今、ワルイージはルイージに狙われている。

だが、そのことを知らないワルイージ……

どうなる！？

表の2番手と裏の1番手(後書き)

ディクシー70時間41分

## ルイージの決断（前書き）

ルイージの運命。

## ルイージの決断

ルイージ「ワルイージ、お前を確保する！」

ワルイージ「ふん、お前みたいなやつには捕まらねえぜ！と、言いたいところだが・・・」

ワルイージ「お前、みんなを裏切ってまでやるのかよ！」

ワルイージ「お前は、兄に何回も負けてばかりで確かに弱い。だけど、そんなことをしてまで・・・」

ワルイージ「お前、やるのかよ！」

アクアイド「お前、悪者のくせにいいこと言うねー！」

ワルイージ「くせに！？もう一回言え！」

アクアイド「るせーな。俺に逆らうと・・・」

バリバリバリ！

ワルイージ「ギャー、レーザーカー！」

ルイージ「分かった。俺はもうハンターの仕事をしない。」

ワルイージ「良く言った。お前はいい奴になるぜ！」

プルルルル



ルイーダ「あれメールだ・・・アクアイドと裏切り者から・・・」

「mission終了までに誰も捕まらなかった場合強制失格」

「誰か捕まえたなら焼き肉おごるぜ。もちろん特上のを二人だけで！」

ルイーダ「・・・・・・・・・・」

「ポン」

ワルイーダ「だおおおい！やめるんじゃないのか!？」

ルイーダ「強制失格は嫌だし、焼き肉を食いたいし。ごめんね！僕、ライバルだけには勝ちたくて！」

ワルイーダ「バカ野郎——————!」

プル

マリオ「着信音みじかつ！何々ワルイーダがヨッシーパークにてルイーダと裏切り者により確保。よくやった、それでこそ俺の弟だ！」

裏切り者「やったなルイーダ！」

ルイーダ「約束の焼き肉行こーね！」

裏切り者「特上コース食べさせてやるからな！」

港

「ディクシー」とうちやーく!

しかし、時間は残り5分!

ブロス達は助かるのか!?

## ルイージの決断（後書き）

焼き肉の後日談も書くつもり。

残り5分のタイム・リミット(前書き)

今回は3つのいい物登場。

## 残り5分のタイム・リミット

ブロス達「あと5分・・・まずいぞ・・・」

クツパ「誰もいつとらんと言うのか!？」

クツパj「お父さんの足じゃ無理だよ!」

そうか息子が行くか・・・

クツパj「今はワリオシティだけど、行ってくる!」

しかし・・・

ハンター「あ、いた!」

見つかる・・・

クツパj「わあ、ひどい!」

逃げた先に・・・

黄キノピオ「え!？」

「ポン」

一言で片づけられた・・・

ぷーる〜ぷるるるるるるる〜

紫キノピオ「あーあ 日本の中につつか誰だこんな着メロにした奴！」

緑ヘイホー「ワリオシティにて黄キノピオ確保残り38人。」

全員「おい！なぜ記念すべき40を切る確保となるワルイージの残り人数を書かなかった！」

ワルイージ「記念ってなんだよー！」

ドガガガガガ！

全員「ぎゃあああああああああ！」

アクアイド「いーじゃん、別に。」

クツパジャー「気を取り直して・・・」

残り1分

クツパジャー「急げ！確か発射に10秒かかるからあと50秒！

残り20秒

ファイアブロス「こんなので死ぬの嫌ー！」

残り15秒

クツパジャー「は、早く！」

残り10秒

ブーメランプロス「だれかこい」

残り5秒

4

クツパジャー「つ、着いた！」

3

ハンマーブロス「早く！」

2

クツパジャー「引くよ！」

1!

クツパジャー「えーい！」

ガゴン!

0。

運転士6「発車！」

その1秒後に隕石が落ちた!

ブロス達「やったー！」

その5分後

ブロス達「よっしゃー！」

クツパジャー「みんな良く来たな！」

ハンマーブロス「ジャー様、あとで焼鳥屋へ！」

クツパジャー「それでいい。」

その頃

クツパ「ルイージ、紫キノピオ、ベビィマリオ、キングテレサ、パタクリボー、クツパジャーの活躍で逃走者は全員無事だった。息子やつたな……」

黄色モンテ「あれまだ書いてある……ハンターにならないか？」

ハンターと裏切り者は、賞金がもらえなくなる代わりにハンターに確保されず、確保人数×10万がもらえる。

アクアイド「ま、立候補するのは……」

ルイージ「もしもしハンターになります。」

アクアイド「ですよー」



マリオ「ハイルージハンター立候補。そうだよなあ。」

ルイージ「そんなことより物くれていいんじゃない？」

アクアイド「まず一つ目は……」

ジャジャジャーン

アクアイド「現金50万円〜！」

ルイージ「なぜドラえもん!？」

アクアイド「俺が見てるのは戦隊の他にドラえもん、スケダンがあるぜ！」

ルイージ「ここで言うことじゃない！」

ヨッシー「スケダンは、スケツトダンスの略だったりします。」

ルイージ「だったりって!?!それになぜそこで君!？」

アクアイド「50万を無条件で手に入れられる!2つ目は……」

ジャジャジャーン!

アクアイド「スターライトボール〜！」

アクアイド「このボールは、合計で100分使え、敵の目くらましに使える。ゴーグルを付けて使えよ。3つ目は……」

ジャジャジャジャジャジャジャジャジャジャジャジャーン！

ルイージ「長い！」

アクアイド「入れ物とお湯と醤油・塩・味噌・ラーメンそれぞれ2袋入り〜！」

ルイージ「結構なげーな、名前！」

ルイージ「よし、行こう！」

こっからどうでもいい逃走者の会話。

紫キノピオ「なあ、ゴーカイイエロー・ルカ役の市道真央っているじゃん？」

ああ、いるね。

紫キノピオ「それ今日（金曜日）やる、サキよみ ジャンBANG  
！にいたるらしいよ。」

そうなんだ、今日見てみよう。

次回から、ルイージと裏切り者のコンビネーション炸裂！

残り5分のタイム・リミット（後書き）

次回から時間が過ぎていきます。

## 途中経過 1 (前書き)

裏切り者は mission に行くやつで、キャプテンにはいない。  
今回は追加逃走者の説明。

## 途中経過 1

チヨロプー

マリオ世界のモグラ。

一人称はオイラ。

足はやや速い。missionには行かない。

キノピコ

キノコの女性。

一人称は私。

足はめちやくちや速い。missionには行く。

ベビルイージ

ベビィマリオの弟。

一人称は僕。

足はかなり速い。missionには行ったり行かなかったり。

ボスパツクン

大きいパツクン。

一人称は俺。

足はかなり遅い。missionには行かない。

ディクシー

女のサル。

一人称は私。

足は普通。missionには行かない。

ブロス（緑・赤・青）

結構強い亀。

一人称は俺。

足は遅く、青・緑・赤の順に遅くなる。

missionはクツパ軍団が行くなら行く。

8人を今の38人に足して46人になる。

これまでに確保された逃走者

キャサリン

ワリオ

テレサ

赤マール

クリボー

グリーンカロン

ワルイージ

黄キノピオ

次回はmission3!

途中経過 1 (後書き)

ルイージ「今日の夜は何ラーメン食べようかな・・・」



欲望の2倍賞金(前書き)

MISSION3の内容とは.....

## 欲望の2倍賞金

プルルル

赤モンテ「あ、メールのmission3届いてた。」

ディディー「今から69時間までに、3つずつ別の店でメダルを買い、エントランスへ持ってくれば、賞金を2倍にする。行く！」

行くのはどうやら、ディディーとマリオのようだ。

一方

プルルルルル

ルイージ「裏切り者、何か狙いを見つけたら教えてよ。」

裏切り者「了解」

黄へいホー「さて、動こうかな。」

！！

黄へいホー「あ……………」

「ポン」

鉢合わせする…………

そう、動くところなることがある。

ブルーカロン「ピーチリンクにて黄へいホー残り45人」

グリーンカロン「早速確保者が出たか…」

キノピコ「ここなら・・・」

キノピコは、マリオスタジアムの砂の中に隠れている。

キノコなので大丈夫。

今回はやや短め！

## 欲望の2倍賞金(後書き)

次回、ディディーとマリオがメダルを探し始める！

リターン・ハンターズ(前書き)

ハンターが牢獄に集結・・・!

## リターン・ハンターズ

マリオ「よし、マリオスタジアム、ワリオシティでメダルを見つけた！」

ヨッシーパーク

直樹「はい！」

マリオ「メダル！」

直樹「ありがとうございます、でございます！」

マリオ「よし、行くぜ！」

その頃ディディーは・・・

ピーチリンクのメダルを取って、DKジャングルへ向かっていた。

しかし、店に入っている途中にハンターに見られていたことなど知らない・・・

実「メダルやな。」

ガチャツ

実「いらっしやい、黒い人！」

ディディー「え、黒い人？」

ハンターC「見つけた！」

ディディー「ぎゃあああああああああ」

実「ちよつとお客さん、金は!？」

逃げた先に……

誰もいなかった。

ディディー「いねーの!？」

しかし、距離は開いている。

だが……

緑へいホー「ヨッシーパークって隠れやすいよね。」

緑へいホー……

緑へいホー「うわっ!？」

何と石につまずいてしまった!

ディディー「わっ!」

ディディー、足を引っ掛けて転んでしまった!

さらに、ディディーが起き上がった時、はずみで緑へいホーがピーチ

リンクの噴水まで吹っ飛ばされてしまった！

デイディー「ああ早くにgo」

「ポン」

言わせる気はなかった・・・

黄モンテ「ヨッシーパークにてデイディー確保残り44人」

マリオ「ハイ、メダル。」

アクアイド「よし、お前の賞金を倍にしよう。」

赤キノピオ「mission3の結果、マリオが1000万円になった」

緑キノピオ「やるねえ・・・」

その頃牢獄

ハンターA「なんだよいきなり」

アクアイド「紹介しよう。ハンターD君だ。」

ハンターD「よろしくー！」

びびびびびるるるるる

マリオ「何か着信音変だな・・・」



クツパ「ハンターを強制的に1人増やして4体にする、だと!？」

クツパ「まあ、確保ペースの問題がな・・・」

その頃

緑へいほー「あれ?ここは・・・」

目を開けるとそこは花壇の近くだった。

カロン「大丈夫か？」

緑へいほー「ああ・・・大丈夫・・・ってハンター来た！」

ハンターD「最初の獲物だ!どっちか捕まえてやる!」

カロン「このままじゃ・・・」

緑へいほー「こうなったら・・・僕が捕まる。」

カロン「そうか・・・俺はお前の分まで頑張るよ」

しかし・・・

緑へいほー「やっぱり嫌-----!」

ビュー-----ン!

なんと、緑へいほーは神にも勝る勢いで逃げて行ってしまった!



## リターン・ハンターズ（後書き）

ハンター1体増加して不利になってしまった逃走者！

## 夕飯タイム！（前書き）

今回はルイージと裏切り者の夕飯や、その他いろいろ。  
ちなみオープニングゲームをしたのは港です。

夕飯タイム！

ワリオ「良く考えてみたら、何でオープニングゲームで俺様捕まっ  
たんだよ！もう引いてただろ！」

アクアイド「あれは港の近くに隠れてたから。」

黄へいほー「そついう理由でさらつと流すのな…」

この後何もなく3時間が過ぎた。

一方

紫キノピオ「さて、ゴミ箱の中にもう一度隠れるか。」

パカ

ハンターA「！」

紫キノピオ「あ、先客が夕飯食ってたか。別のところ行くか。」

ハンターA「いい奴だ、俺を居させてくれるって。」

紫キノピオ「ハンターも飯食うのか・・・ん？ハンター？」

2人「あ」

ハンターA「待てー！」

紫キノピオ「遅いわ！」

ハンターA「それお前が言えるセリフかよー！」

しかし、気づくのが遅かったせいではなかなか差が縮まらない。

だが・・・

青モンテ「アクアイト早く小説に出せよ・・・」

青モンテ・・・

ビュン！

青モンテ「なんだ？」

「ポン」

青モンテ「あれはハンターから逃げてたのかよー！」

キノじい「ワリオシティにて青モンテ確保残り42人」

紫キノピオはもちろん自分が原因なことなど知らない…

その頃

ルイージ「このラーメン容量多すぎる・・・」

裏切り者「ならこの私と食べよう。」

ルイージ「じゃあ塩味食べよう。」

裏切り者「夏でも夜は意外に冷え込みますからね。」

ルイージ「塩がきいてるね！」

その後

キングテレサ「よし食べたし、備えるか！」

しかし、全員の腕にあるリングが悲劇を起こす！

夕飯タイム！（後書き）

次回はmission4！



呪われた稲光の輪（前書き）

mission 4!



アクアイド「だってハンターは裏切り者と違って捕まえるまでが仕事だから！」

一方

黄モンテ「なんで！？なんで！？光ってる！」

逃走者全員の腕に取り付けられたリングが光りだした！

ブルルルル

キングテレサ「来たmission4！」

ベビルイージ「今君たちの腕で光っているのは稲光の輪だ」

赤キノピオ「残り64時間になるとステージすべての電気が消される」

クツパ「阻止するには5つのどれかの数字の組み合わせをどれかのステージで入力しなければいけない」

クツパ「さらに、阻止してから10分以内に同じ色に発光していた逃走者とカードキーを合わせないと強制失格 えええ〜！難しい！」

ちなみに、色は赤、青、黄、緑、水色がある。

ハンマーブロス「ついでに、マリオスタジアムで青マーレ確保残り41人」

マリオ「ついでって何だよ！」

ルイージ「僕は青。」

裏切り者「僕も青です。」

ルイージ「よし、手分けして探そう！」

呪われた稲光の輪（後書き）

最大の危機！

**電撃 沈黙 恐怖（前書き）**

今回から名前の後に色がつきます。

電撃 沈黙 恐怖

マリオ（黄）「やばい！早く行かねば……」

緑カメック（青）「早くしなきゃ危ない！」

しかし……

裏切り者「緑カメック、ピーチリンク球場前にいます。」

緑カメック「よし、ここに4つの数字がある。3817……」

カチッ

緑カメック「あれ？青はここじゃねえのか……ってえ!？」

「ポン」

緑カメック「くっそ！」

パタクリボー（水色）「ピーチリンクで裏切り者により緑カメック確保残り40人」

黒ハイホー（赤）「やばいな、つかまってきてやがる……」

青キノピオ（緑）「よし、この数字、7291を入力！」

カチッ

青キノピオ「やった！ヨツシーパークの組み合わせだったんですね！」

緑「ヨツシーパーク」

ヨツシー（水色）「がんばりましょう、青へいホーさん！」

青へいホー（赤）「がんばりたいんですけど、前からハンター！」

どうなる！？

恭介「行き止まり作成セット入荷したよー！」



電撃 沈黙 恐怖（後書き）

人気があるのか？

**急ぐぜ！電撃放出阻止のために（前書き）**

今回も色入り。

**急ぐぜ！電撃放出阻止のために**

緑ヘイホー（青）「ワリオシティにつきました。さて、認証装置は……」

ハンターC「！」

緑ヘイホー「ああっ捕まるわけには！」

だがいく先に……

黄色モンテ「ハンター！」

ファイアブロス「ええっ！」

緑ヘイホー「こうなったら3人で逃げます！」

しかし……

黄色モンテ「しまった力が……」

「ポン」

ファイアブロス「ああっ捕まえてしまった！」

緑ヘイホー「一回逃げましょう！」

何とか球場に逃げてこれた。

ファイアブロス（赤）「この認証装置は5914か・・・」

カチッ

ファイアブロス「あれ、違うのかここは。」

緑ヘイホー「では僕が。」

カチッ

緑ヘイホー「あれ？違う！」

ファイアブロス「じゃあさっき走った意味はなんだったんだよー！」

ドンキー（水色）「ワリオシティにて黄色モンテ確保残り39人ついに40切ったかー…」

裏切り者「次はお前だ。これで60万・・・」

裏切り者「ドンキー、マリオスタジアムレバー近くにいます。」

ドンキー「ほかの逃走者見つけないとな・・・」

ハンターA「よし気づかないように・・・」

その時！

？「あわわわわわわわわ！」

ドンキー「なんだなんだ！？」

ハンターC「待ちやがれ！」

緑パタパタ（青）「だれかー！」

ドンキー「なーんだ……つてハンター！」

ハンターA「よし……」

ドンキー「逃げなきゃ！つてえ！？」

今、彼は緑パタパタの追いかけているハンターともに緑パタパタと行き止まりに追い詰められている。

つまり、最早逃走不可能……

「ポン」「ポン」

裏切り者「裏切り者の通報によりドンキー 普通に緑パタパタ確保  
残り37人」

その頃DKジャングル

青へいほー「どうしましょうヨッシーさん!？」

ヨッシー「ここは逃げます！よい……」

2人「ドン！」

ズデッ！

なんと、2人ともずっこけた！

ハンターB「チャンス！」

ズデッ！

ハンターもこけた！

ハンターB「痛あ！」

ヨッシー「今のうちに逃げましょう！」

青へいほー「はい！」

一方DKジャングルの近くで……

赤へいほー（黄色）「うわあ！」

ハンターD「俺から逃げられると思うな！」

差が縮まっっていく……

赤へいほー「それならさっき買った……行き止まりセット！」

その正体は！？

急ぐぜ！電撃放出阻止のために（後書き）

テレサ「赤マーレこの野郎！」

赤マーレ「何だと白い吹き出し！」

激しすぎるため、いまだにだれも手が出せない。

漆黒と稲妻の影（前書き）

色入り。



## 漆黒と稲妻の影

プルルルル

ルイージ（青）「さっき裏切り者とハンターは64時間までにカードキーを差し込まないと強制失格って言った。」

裏切り者（青）「がんばりましょう！」

プルルル

ヨッシー（水色）「いろいろな人からの証言をもとにして表を作りました。緑ヘイホー いい仕事をしていいですね。」

違う物

赤 ワリオシテイ

青 ピーチリンク ワリオシテイ

表は更新します。

緑ヘイホー「青キノピオさん、あなたはどこで発光停止したんですか？」

青キノピオ「僕は、緑をヨッシーパークで停止させました。」

緑ヘイホー「よし……」

ブルルル

クリボー（黄色）「発光が緑の人はヨッシーパークへ！だつてさ。」

クツパ（緑）「本当か!？」

現在緑に発光している逃走者

クツパ

キングテレサ

デイジー

ハンマーブロス

黄色カメック

ブルーカロン

緑ヘイホー「そつえば、今から何分前に停止させたんですか？」

青キノピオ「7分前・・・って、ああっ！」

緑ヘイホー「早すぎです!」

漆黒と稲妻の影（後書き）

間に合うのか!?

その頃DKジャンゲル

テレサ「僕はどこへでもお前を追いかける!」

赤マーレ「立場を逆にしてやる!」

早く終わらせろ。

**踏切忍者只今参上！（前書き）**

行き止まりの正体は！？

踏切忍者只今参上！

赤へいホー「行き止まりセット！行けーっ！」

バン！

その正体は！？

一方

緑へいホー「僕は青の番号を探すので行きますね。」

青キノピオ「じゃあ、また会えたらいいですね。」

一方緑

デイジー「早くヨツシーパークへ行かなきゃ！」

しかし・・・

ハンターD「行かせるかぁ！」

デイジー「こんなときにハンター！？」

彼女はピーチリンクにいたため、花壇を使ってかわせた。

デイジー「ちよつと遠く来たわね・・・」

キングテレサ「行くぜ行くぜ行くぜい！」

しかし・・・

裏切り者「今番号探してるんだけど・・・キングテレサ、Dkジヤングル川付近にいます。」

ルイージ「よし、行くよ!」

キングテレサ「あれはルイージ!」

ルイージ「!ぎゃ オバケこわいー!」

裏切り者「何してんの・・・」

キングテレサ「はっはっはっ!なんだお前!」

だが。

裏切り者「あつちに誰がいるな...」

裏切り者「ルイージはあつちの逃走者を確保して!キングテレサは別のハンターに任せる!」

ルイージ「わかった!」

先にいたのは・・・

カメック「やべえ!」

カメック・・・

ルイーダ「カメック！」

ハンターC「只今参上！」

キングテレサ「あ・・・」

「ポン」「ポン」

ルイーダ「40万キタ

。。。)

！」

裏切り者「やった、これで70万・・・」

青キノピオ「裏切り者によりキングテレサ ルイーダによりカメック確保 残り35人 そんなことよりも時間が1分しかないんですよ・・・」

残り50秒

ブルーカロン「デイジーさん急ぎましょう！」

デイジー「急ぎましょー！」

残り30秒

デイジー「やっと入ってきたのに・・・」

ブルーカロン「ここでハンター!?!」

残り25秒

ブルーカロン「俺囮になるよ。」

デイジー「ええっ!？」

ブルーカロン「だから、青キノピオを！」

デイジー「分かった！」

残り20秒

デイジー「うおおおおおっ！」

ブルーカロン「頑張ってください。デイジーさん……」

「ポン」

ブラッディカロン「ヨッシーパークにてブルーカロン確保残り34人って、カロン俺しかいねえ！」

デイジー間に合うのか!？

行き止まりセットは……

カンカンカンカン!

2人「踏切かよーっ！」



しかし！

踏切に顔ができた！

踏切忍者「踏切忍者只今参上！」

いったいどうなる！？

## 走る2影の忍

残り15秒

デイジー「着いた！7291！」

デイジー「やった！消えた！」

残り4秒

青キノピオ「早く！」

3

デイジー「えいっ！」

シューイン

青キノピオ「危なかった……」

青キノピオ デイジー missionクリア

踏切忍者A「拙者は赤へいホー殿に使える者！」

踏切忍者B「私も拙者の名でよばさせてもらおうじゃないか！」

ハンターD「何だよ！？」

踏切忍者「拙者達は鉄道に関するもので戦う者！」

攻撃内容とは！？

一方

黒へいほー「あっそうだ、マリオスタジアムのヤシの木の上登れば  
逃走者の位置が分かるぞ。」

上っている間

黄色カメック「ヨッシーパークに隠れてて良かった。」

ハンマーブロス「俺もよかった。」

黄色カメック「よしカードキーだ！」

シューイン

黄色カメック ハンマーブロス missionクリア

クッパ「くそう、ワリオシティから行くのは疲れるな・・・」

残り45分

踏切忍者「踏切の上についてるもの手裏剣！」

赤へいほー「正式名称は何なんでしょう・・・」

ドガガガガッ！

ハンターD「ぎゃあ！」

赤へいほー「やったあ！」

黒へいほー「どこも見えるぜ！」

早く終わり

色あてツアー出発進行です！（前書き）

緑へいホー「僕が活躍！」

色あてツアー出発進行です！

緑へいほー「よし、もっと皆さんのお役にたてるように…」

ワリオシティにいる緑へいほー。

近くにファイアブロスがいたが、緑がトイレに行っている時にハンターに追われて出て行った。

ヨッシー「あれ、何でしょうか？」

青へいほー「行ってみましょう！」

緑へいほー「赤・黄色・水色に発光しているお客様大歓迎！（自分が青で、緑は分かっているから）今なら楽しく会話しながら自分の色を今ならなんと無料で探すことができます！」

ヨッシー「すいませーん。」

緑へいほー「はい、加入チェック終わりました。と言いたいんですが……」

ヨッシー「あれ？いつの間にかこんなメールが！」

「黄色に発光している逃走者はワリオシティへ！」

それは1分前

マリオ「赤へいほー、クリボー。一回やってみるぞ。」

赤へいほー「はい、5914。」

カチッ

クリボー「おおっ、消えてる！」

マリオ「じゃあ、カードキー認証しよう！」

シュイン

マリオ「よし、やった！」

マリオ クリボー 赤へいほー missionクリア

緑へいほー「なるほど、黄色はワリオシティなのか…」

というわけ。

緑へいほー「じゃあ、メンバーも揃ったことですし、ツアースタートです！」

その頃

ファイアブロス「ぎゃあああああ」

ハンターに追われるファイアブロス…

しかも…

デイクシー「何で私もー！」

しかし、2人とも足取りが遅くなり・・・

と、その時！

ガンツ！

ファイアブロス「ギャア！」

デイクシー「キャア！」

ウイーン・・・

なんと、ヨツシーパークに来ていたときによそ見をしていたため、観覧車の中に入ってしまった！

ファイアブロス「い、今起こったことをありのままに話すぜ！」

デイクシー「それはいいから」

ファイアブロス「ショボーン（´・`・´）」

一方ツアーズ

緑ヘイホー「DKジャングルにつきましたね。」

緑ヘイホー「では、番号を・・・」

ピピッ



青へイホー「やりました！登録完了ですよ！」

ヨッシー「だけでも、同じ赤の人を探さないといけないんですよ？」

そこに・・・

黒へイホー「遠くから来てみたけどここが赤か・・・」

ピピッ

黒へイホー「ヨッシャ、認識成功だー！」

青へイホー「あ、黒へイホーさん！」

黒へイホー「なるほどお前も赤だったのか・・・」

シューイン

青・黒へイホー missionクリア

青へイホー「じゃあ、僕らは行きますね。」

そういうと去って行った。

しかし・・・

裏切り者・ルイージ「ツアーズを追えば、青が分かるぞ…なーんてことはしません！」

裏切り者「僕らには時間がいっぱいあるんですから！」

ルイージ「再び手分けして行こう！」

そしてルイージ

ルイージ「あっあれは……」

赤ノコノコ「あんまり出てないっすねえー……」

赤ノコノコ……

ルイージ「よし、行くぜ！」

赤ノコノコ「ってルイージきたあ！」

しかし、いきなりルイージは姿を消す。

赤ノコノコ「ああ、よかった……」

ルイージ「簡単に僕はあきらめないよ！」

いきなり出てくるために処置も取れず……

「ポン」

赤ノコノコ「ああ 油断したっス……」

パタパタ「ルイージにより赤ノコノコ確保残り33人やべつ、私と同じ色の逃走者やられた!」

ルイージ「よっしゃ60万来た!これで勝つる!」

ツアーズは・・・

緑ヘイホー「ピーチリンクにつきましたね。」

ヨッシー「もうハンターきました!」

緑ヘイホー「ええっ!?!?・・・よし、逃げ回った後認証装置に行きましよう!」

ヨッシー「はい!」

逃げ切れるのか!?

色あてツアー出発進行です！（後書き）

僕は午前7時から午後9時までしかパソコンを使えないので……

貝から生まれたテレ太郎（前書き）

今回はおとぎ話風。

## 貝から生まれたテレ太郎

残り30分

テレサ「くらえ！合体テレサショット！」

ドガガガガガガ！

赤マーレ「ギャー……！」

ポチャン

テレサ「やったー！勝ったー！」

テレサ「やったやったやったやったあ〜！」

ポチャン

テレサも落ちてしまった！

その頃牢獄

緑パタパタ「あんまりやってない牢獄DEトークです。」

むかーし昔、といっても8月21日……

ワルイージ「なんだ？」

アクアイドと20人の逃走者がいました。

注：赤ノコノコはまだ牢獄についていません

前回の確保者の続き

黄色ヘイホー

デイディー

カロシ

青モンテ

青マーレ

緑カメツク

黄色モンテ

ドンキー

緑パタパタ

カメツク

キングテレサ

ブルーカロシ

赤ノコノコ

46 - 13 || 33人

20人の逃走者は牢獄の中にいて、アクアイドは管理をしていました。

すると海のほうから、赤い貝に入った白い物体がどんぶらこ、どんぶらこことこちに向かってくるではありませんか。

20人「おいなんだこの展開！」

赤い貝殻をアクアイドが手で軽く叩くと、白い物体が元気に生まれました。

テレサ「おぎゃー！おぎゃー！」

黄色へいほー「なんじゃこりゃー！」

アクアイドはその物体に、テレ太郎という名前を付けました。

テレ太郎はそのアクアイドのおかげですぐに育……

テレサ「いい加減にしろー！僕はもう立派に育ってるー！」

テレサ「必殺！超合体テレサショット！」

ズガーーーン！

アクアイド「ぎゃああああやめろー！」





アクアイド「ああ、出すよー!」

テレサ「そういえば今日で空から日本を見てみよう終わりですね。」

赤マール「結構楽しいと思って言ったのに…」

そういうことは後回しにして

クツパ「はあはあ・・・やっと着いた・・・」

ハンマーブロス「俺とカードキー交しましょう!」

シュイン

クツパ missionクリア

ツアーズ

ヨツシー「何とかかわしました・・・」

緑ヘイホー「ピーチリンクが青じゃないと水色とわかるので、ここから別行動です。」

ヨツシー「はい。後は水色の人を待つだけですな。」

その頃

赤ノコノコ「はあ　　って何すかこれ!」

テレサ「あつ、アクアイドが間違えて爆弾を打つたんですよ！」

赤マーレ「そうよ！ちよつとこんなことあるわよ！」

赤ノコノコ「いや絶対あんたたちやりましたよね！？」

2人「いや知らない！」

赤ノコノコ「そうですか・・・」

その頃、ハンターに追われる者が…

次回から3回ぐらいでmission4完結させたいな

貝から生まれたテレ太郎（後書き）

青へいホー「黒へいホーさんとはすぐに別行動をとりました。」

緑へいホー「さっマリオスタジアムへ…ってあれ？あそこで誰か…」

発光停止×ハンター（前書き）

今回から本格的にmission4。

## 発光停止×ハンター

緑へイホー「ああつ、あそこにいるのは……」

ボスパツクン「不味い……不味いぞ……」

緑へイホー「ボスパツクンさん!？」

ボスパツクン「こうなったら……」

ボスパツクンはあるシューズを履いた。

なんと、ボスパツクンはすごい速さで走りだした!

ハンターD「な……何……………!？」

なんと、逃げてしまう!

緑へイホー「さっきのは一体!？」

ボスパツクン「ああ、この疾風シューズを付けたんだ。」

緑へイホー「あれ、ボスパツクンさんは僕と同じ青なんですか。」

1分後

ボスパツクン「はあはあ・・・はぐれてしまった・・・」

しかし10秒後

緑ヘイホー「何だいたじゃないですか。ではカードキーを・・・」

シュイン

緑ヘイホー　ボスパツクン　missionクリア

その後緑ヘイホーによりほとんどの逃走者がmissionをクリアしたのだが・・・

残り5分

ノコノコ「運悪くハンターばかりっスッ！」

ベビイルイージ「ああ、全く見つかりまぢえん・・・」

幸運にも、この2人はどちらも黄色に発光している。

しかし、2人ともピーチリンクのため、離れている・・・

ノコノコ「あ、ベビイルイージさん。」

ベビイルイージ「黄色はワリオシティでちたよね・・・早く行きましょう！」

だが・・・

ハンターA「あつと、えさが来た！」

2人「こんな所で！」

まいたのだが……

残り2分

何とかピーチリンク脱出したのだが……

ノコノコ「やばいっすよ！急がないと！」

残り30秒

ノコノコ「やっとワリオシティっすよ！」

ベビルイージ「うん！急ご……」

ハンター4人「俺たちから逃げれると思うな！」

2人「ギャー！」

しかし……

ベビルイージ「今逃げながら番号を打ち終わりました！」

ノコノコ「逃げながらカードキーします~~~~~！」

スカッ



2人「ギャアーーーーー外れたーーーー！」

しかしUターンして・・・

シュイン

ノコノコ「やったーーーーー！」

「ポン」

ノコノコ「あああああああ~~~~~!!.....」

ベビルイージ「な、何とか.....」

赤キノピオ「mission結果は全員成功！良かった！」

紫キノピオ「しかしノコノコ確保残り32人残念だな...」

次回から朝までの特別編です。

発光停止×ハンター（後書き）

赤ノコノコ「何でオレッチが修理の手伝いしてるんスカ!？」

アクアイド「わりーね、人手が足りないんで。」

## 会話をしながら途中経過

赤ノコノコ「今までに確保されたのは、

キャサリン

ワリオ

テレサ

赤マール

クリボー

グリーンカロン

ワルイージ

黄キノピオ

黄色ハイホー

デイディー

カロン

青モンテ

青マール

緑カメック

黄色モンテ

ドンキー

緑パタパタ

カメック

キングテレサ

ブルーカロンの

赤ノコノコ

ノコノコ

すよね。」

ハンターE「また牢獄壊すなよ！」

テレサ「はい。」

その頃メルザス本部

アルファ「ベータ、報告があると聞いたが・・・」

ベータ「はい、二人の新幹部を連れてまいりました。」

ベルーガ「俺は無限の力を秘めた戦士、ベルーガ！」

ジャド「私は万物の創生者、ジャド……」

アルファ「ははっ、明日が楽しみだ……はっはっはーっ！はははh」

カン！バシャ！

アルファ「ぎゃあああああついあひえあげつつxげs d s d w t  
y xぐ」

ベータ「（最早言葉にすらなっぺねー！）」

ガンマ「何ココアこぼしてんだよ！」

アルファ「ぐgただhかcんjjふあおふおあ」

それから3時間たって

テレサ「ふう、やっと牢獄の修理が終わった……」

ハンターF「って鍵がねえー！ー！ー！」

見ると、海にカギがあった。

アクアイド「よし、あの鍵をとったものを復活させる！」

25人「ええーっ！いきなり!？」

鍵を手に入れるのは！？

会話をしながら途中経過（後書き）

誰が復活するのか！？

## 復活者、蘇生。

テレサ「まさかあいつが復活するなんて……」

その頃

青へいほー「樽の中に隠れていれば、しばらくは安全ですね……」

その時

パカッ

青へいほー「開いたあああああああ！」

？「えつちよっm」

青へいほー「ああもう駄目だ僕は確保されるんだああああ！このやる！このやる！」

ドカッ！バキッ！

？「ギヤア！」

青へいほー「あ、あなたは……」

黄色へいほー「ひどすぎるよ同じへいほー族だというのに……」

青へいほー「あれ、あなたはもう確保されてたんじゃ……」





**復活者、蘇生。(後書き)**

今回で第1章完結、次回から第2章です。

闇のメルザス、恐怖の挑戦状（前書き）

2日目が始まる・・・

ちなみに黄色へイホーが復活したので33人です。

## 闇のメルザス、恐怖の挑戦状

2日目 午前6時 残り54時間

マリオ「2日目が始まったぜー！」

全員「イエー！」

アルファ「と言いたいところだが・・・」

マリオ「ちょwww押すなしwww」

アルファ「デイメンジョンレーザー！」

マリオ「ぎよわあああああああああ！」

メルザスゾーン

アルファ「さて・・・奴らに最初の挑戦状を送るか・・・」

アルファ「スペクターアイ！」

ベータ「ベクターエンド！」

ガンマ「ステープレイズ」

バツ！バツ！バツ！

スペクターアイ「私はアルファ様に仕える最強の騎士。」

ベクターエンド「拙者はベータ殿に仕える最強の忍者。」

ステープレイズ「俺はガンマに仕える最強の盗賊！」

アルファ「ベルーガ、ジャド。手下を呼び出せ！」

ベルーガ「サジタリア！」

ジャド「マジアーク！」

サジタリア「僕はベルーガに仕える最強の狙撃手さ。」

マジアーク「私はジャド様に仕える最強の魔導士……」

アルファ「お前らはこの逃走者たちを死に追いやるために作られた、5人の戦士。」

アルファ「お前らを今からベースボールアイランドに送る。」

シュン！

スペクターアイ「ここが逃走エリア……」

ベクターエンド「まずは港を攻めるといいでござる。」

4人「了解！」

ピピピピ

赤カメック「何だメールか・・・mission5？」

その時

ハンターB「何かこつちでメールの音がしたような・・・」

赤カメック「おっとハンターだ・・・」

何とか見つからなかった・・・

ベビィルイージ「港にメルザス5人の手下が出現した。」

ベビィマリオ「残り53時間になると警察の取り付けた装置が発動し20人のハンターが発動される。」

黒ヘイホー「20人も増えるのか・・・」

赤キノピオ「阻止するには53時間までに5人を倒さないといけない。」

マリオ「これは行かないと！」

港

スペクターアイ「さて、何人来るかな・・・」

ドドドドド

ベクターエンド「ああ、来たでござるよ。って！？」

5人「えええー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！」

マリオ「みんなで5人を倒すぞー！」

32人「おおーっ！」

ステープレイズ「残り逃走者全員かよーっ！」

ドカドカドカドカ！

スペクターアイ「これは……」

ベクターエンド「ぎゃあああああー！」

ステープレイズ「これはいくらなんでも度を超えすぎだろ！」

サジタリア「数の暴力はんたいーい！」

マジアーク「こっから我々が逆転できるのは……0%です……」

5人「ぎゃああああああああー！！！」

そのまま5人を倒しmissionクリア

ルイーダ「ということがないように、アクアイド、テレサ、赤マー  
レと共闘する。つまり参加できるのは2人まで。」

名乗りを上げるのは誰と誰なのか……

闇のメルザス、恐怖の挑戦状（後書き）

メルザスの手下の力は・・・



刺・客・強・力（前書き）

裏切り者を出そうかとも思いましたが・・・実はこの後裏切り者の  
missionがあるので出しません。  
予想して、感想に送ってみてください。

刺・客・強・力

スペクターアイ「私たちはフェアに戦いたいです。あなた方が人集めるまで勝負をしません。」

アクアイド「悪いが、もう来てるんだよな。」

アクアイド「名乗ってみようぜ！アクアイド！」

ルイージ「ルイージ！」

青キノピオ「青キノピオ！」

テレサ「テレサ！」

赤マーレ「赤マーレ！って何で私たちが戦ってるの！」

アクアイド「まあお前らは手伝い係だ。でも終わったら50万円やるから。」

テレサ・赤マーレ「分かった！」

アクアイド「よし、みんな行くぞ！」

ステープレイズ「目からビーム！」

ルイージ「木下ベツカムかよ！」

ジュバババババ！

5人「ぐはああ！強い！」

ベクターエンド「忍法！火炎手裏剣！」

マジアーク「ブリザードレイピア！」

サジタリア「レイヤーボウ！」

スペクターアイ「必殺！亜空大切断！」

5人「ぎゃああああああ！」

青キノピオ「どうすんですか！？やられまくりですよ！」

アクアイド「だったらマリオパーティミニゲーム攻撃！」

ルイーザ「そうか！だったら強いものあるしね！」

アクアイド「じゃあまず初代から！」

スペクターアイ「結構まずそうな攻撃してきそうですね・・・気を  
つけましょう！」

4人「了解！」

アクアイド「ボムヘイわたしー！」

アクアイド達は全く投げない！

ステープレイズ「どうした？怖気ついて投げられなくなったか！？」

アクアイド「今だー！」

スペクターアイ達「ボムヘイが飛んできた瞬間

どっがあああああああ！

ステープレイズ「あれは時間差攻撃！？」

一方

キノじい「大丈夫ですかなー。」

あんまり出番のないキノじい。

だが・・・

ハンターC「あいつならな・・・」

キノじい「な、ハンターですと！？」

老人がハンターに勝てるわけもなく・・・

キノじい「そうはいきますかな？」

すると、ハンターに何かを付けた。

すると・・・

ハンターC「ぎゃああああああ！逆走してる！」

今キノじいがつけたのは「逆走バツジ」。

付けると、20秒間だけだが前に進めなくなる。

だが戻った先に……

キノピコ「きゃあ!？」

キノピコ……

いきなりだったため、体制が取れなかった……

「ポン」

キノピコ「いきなりでしてくるとか……」

赤キノピオ「マリオスタジアムにてキノピコ確保残り32人 あゝ  
っ・ピコちゃん捕まっちゃったか……」

黒ヘイホー「ふっ……早くも2日目最初の確保者が出たな……」

青ヘイホー「こうしてみると、1日に22人つて結構まずいぞ……  
しかもあの日は半日。もしかしたら全滅の危機もあるかも……」

そんな青ヘイホーの前に……

赤キノピオ「あれ、青ヘイホーさん？」

青ヘイホー「赤キノピオさん、僕ちよつと取り込んでるので、また今度……」

赤キノピオ「はい、また。」

だが1分後……

裏切り者「青ヘイホーヨツシーパークジェットコースター付近にいます。」

青ヘイホーが通報された……

青ヘイホー、逃走なるか！？

刺・客・強・力（後書き）

最後に・・・

アクアイド「相手5人を相手にクツパの気持ちー！」

ルイージ「フルボッコゲイキター！」

ドカドカボカドカ！

5人「最後がこれかよーっ！」

COCCOSって戦闘用具売ってるところだけ(前書き)

今回から話が崩壊します。



COCCOSって戦闘用具売ってるところだっけ

そういえば、この文字を読んでも人って誰だっけ？

月村サトシ「何で俺がこんな役を！」

全員（アクアイド含む）「あ、お前だったんだ。」

月村サトシ「何でアクアイドも混ぜてんだよ！お前がやったんだろ！」

ルイージ「そういえば、月村サトシの正体って誰なんだろう？」

アクアイド「みんな、知りたいよねー。」

全員「ねー。」

月村サトシ「しょうがない、俺の正体は……」

月村サトシ「マサラタウンの、サトシです。」

全員「嘘つくなー!」

バツコーン!

月村サトシ「ぐわあああああ!」

本編に戻る

ルイージ「さつきからマリオパーティミニゲーム攻撃してるけど全然効いてないよ!」

赤マール「どうするの!? アクアイド!」

アクアイド「こうなったら・・・COCOS料理攻撃!」

全員「・・・はあああああああ!」

アクアイド「まずは喰らえ、ココツシユのトリプルソース攻撃!」

バシヤアアア!

サジタリア「うわあ、ミックスベリーとメイプルと抹茶ソースのぶっかけかよ!」

ステープレイズ「おい、なめてみると全部の味がするぞ!」

ベクターエンド「そりゃ普通だろ!それとなめんな!」

スペクターアイ「私たちがこんなものに倒されると思っているのですか!？」

だが……

スペクターアイ「!?!?何・動けない……だと……」

アクアイド「そりゃあ戦闘用に改造して、粘りが出るようにするぐらい、やってるよ。」

ステープレイズ「おい、溶かせよ!」

青キノピオ「はい、はい。ホットキャラメルオレ攻撃!」

バシャアアアア!

ステープレイズ「あっちーーーーー!」

アクアイド「ここでこの小説を読んでいる皆に注意だ。COSのホットオレは熱いから、保護者の人に入れてもらおう。」

マジアーク「余計だつーの!」

ルイージ「続いてステーキについてるペレットはさみ攻撃!」

ジュワアアアア!

ステープレイズ「あああああああああああああああ」

アクアイド「おおつ、地面とペレットで挟んでいる！」

1分経過

アクアイド「できたぞ、ステーキプレイズ焼きだ。」

全員「誰が食うかー！」

だが。

テレサ「ねえ、あれ食べていい？」

アクアイド「いいぞ、ちょっと待ってな。」

グサーツ！

ステーキプレイズ「槍がフォーク代わりかよー！」

アクアイド「さっ、食べな！」

パクッ

テレサ「ぎゃああまずい！こんなの誰が食べるんだよ！」

全員「お前だろー！」

ステーキプレイズ「ふざけんな！エクストミサイル！」

ドガーツ！

アクアイド「俺だけ、何とかよけられたようだな・・・」

次回から本格的に崩壊！

全員「予告すなー！」

**COCCOSって戦闘用具売ってるところだけ（後書き）**

スーパーマリオくん第21巻の第2面で、赤、ピンク、黄色がウナ  
ボンに吹っ飛ばされて水色ヨツシーがツツコミを入れているときに、  
水色ヨツシーの体に変なものが付いているのだが・・・これは一  
体？

カオスすぎて人類には早すぎるバトル（前書き）

完・全・崩・壊

## カオスすぎて人類には早すぎるバトル

マジアーク「どうされますか！？私たちは押されていますよ！？」

ステープレイズ「こうなったら、ゲームやアニメ、本の中に閉じ込められている物体を実体化する「実体化ビーム」を使って、ドラクエナインのボスを全員復活だ！」

シューーン！

スペクターアイ「まずはお前が行け！妖毒虫ズオー！」

ズオー「タカ！トラ！バッタ！タトバ！タトバタトバ！」

アクアイド「ってそれはオーズだろー！」

パーン！

ズオー「ドワアアアア！」

ルイージ「出た！アクアイドのツッコミビンタ！」

シューウウウウウウ・・・

5人「ええええええ！？死んだの！？弱っ！」

アクアイド「いいや、ズオーが弱いんじゃない。俺が強いんだ。」

アクアイドの力が強すぎたのか、ズオーは一発で死んでしまった！



ベクターエンド「まだまだ！まだこっちはたくさんのボスがいるのだから！」

ルイージ「僕は変身出来るのだから、負けるはずがない！」

ベクターエンド「え！？変身！？」

ルイージ「変身！」

「スリー・ツー・ワン」

ルイージ「宇宙キター！」

アクアイド「フォーゼ……だと……」

ルイージ「仮面ライダーフォーゼ タイマンはらせてもらっぜー！」

赤マーレ「性格変わったわね……」

アクアイド「どうでもいいから、早くバトルだ！」

かくしてバトルは始まった……

ブルドーガ「グオオオオオ！」

突進攻撃！

ヒョイ！

ブルドーガ「グ、グワアアア！」

ザバーン

赤マーレ「こんなの、よければ済む話よ。」

青キノピオ「病魔パンドルム対策のワクチンを作ったんですが……  
・注射器がないですね……!?」

青キノピオ「そうだ！魔神ジャダーマのしっぽを使えば……」

ブスツ！

ジャダーマ「ぎゃあああああ！」

痔にはボラギノール

アクアイド「ボラギノールネタしてる場合か！」

ブシャ

パンドルム「ぎゃあああああ！」

何故かジャダーマも消えてしまった！

続く

### 3人キャンペーン、はちゃめちゃバトル

ブルルル

実「おう恭介、どうした？」

恭介「今全然活躍ないだろ？だから、キャンペーンでいいアイテムを逃走者にあげるんだよ！」

ブルル

緑マーレ「通達2ね。」

赤キノピオ「各エリアの店がキャンペーンを開始した。3人で店に行くと、それぞれで違うアイテムが3人に渡される。しかし、一回渡すとその店ではキャンペーンが終わる。急いでいけ！」

ヨッシー「どうしましょうか・・・今ヨッシーパークにいるんですが・・・」

逃走者と、1番近いハンターを探せるナビを持っているヨッシー。

そのヨッシーに・・・

クッパjr「あ、ヨッシーじゃん。一緒に行こう！」

ヨッシー「待ってください、今1番近い逃走者探してますから。」

ナビで出たのは「黒ヘイホー」。近くに「ベビイルイージ」もいる。

だが、その2人の後ろにハンター！

プルルル

黒エイホー「ヨッシー、どうした？」

ヨッシー「黒エイホーさん、後ろにハンター！」

そうこうしているうちに見つかってしまった！

黒エイホー「しょうがない、このまま店へ！」

しかし・・・

黒エイホー「うわぁ、マジかよ！」

クツパジャー「こっち来るなあー！」

ヨッシー「4手に分かれましょう！」

1の道 ヨッシー

2の道 黒エイホー

3の道 クツパジャー

4の道 ベビイルイージ

ハンターが行ったのは3の道・・・

クツパジャー「ええ〜！？こついつときは端が狙われるお約束でしょ！？」

アクアイド「そんな縛りにとられる筋合いはないね」

「ポン」

クツパ「何！？息子が確保されただど！？」

デイジー「残り31人。だいぶ減ったわね……」

一方

青へいほー「しまった！通報されている……」

実は先ほど青へいほーは店で新しい商品「地獄耳センサー」を付けていた……

青へいほー「ハンターが来ないうちにと……」

青へいほーは何とか裏道を使い、気付かれずに進んだ……

港に着いた青へいほー

青へいほー「店で釣り用品を買ってきたので……」

青へいほー「アクアイドさんから聞きました。このあたりは鮪とか、なんか沖合に行かないといない魚が釣れるって言ってました。」

その時、釣り竿が揺れた。

青へいほー「こ、これはすごい揺れだ！」

バツシャーン！

青ヘイホー「ギャーシユモクザメー！顔がハンマーに似ている鮫釣れたー！」

アクアイド「何、ハンマーの鮫！？貸せ！」

青ヘイホー「あつその魚、僕が釣ったんですよ！」

牢獄

緑カメツク「思うんだけど、これまでにほかの逃走者に巻き添えにされて確保された逃走者って結構いない？」

これまでに巻き添えになって確保された逃走者

クリボー

グリーンカロン

黄色キノピオ

青モンテ

黄色モンテ

キノピコ

その頃

大怪像ガドンゴ「アクアイド、俺の名前がわかるか？」

アクアイド「ええつとだいかいぞうってことは分かるんだけど・・・」

ガドンゴ「早く答えろ！」

アクアイド「だいか・・・だい・・・だいかい・・・」

アクアイド「大改造劇的ビフォーアフター！」

ガドンゴ「全然ちがーう！」

テレサ「今日改造するのは、このシュモクザメです。」

ガドンゴ「お前まで乗り気になってんじゃねー！」

テレサ「改造は簡単。頭に鉄を付けるだけで人並み外れた力を発揮します。」

アクアイド「喰らえ！シュモクザメハンマーアタック！」

テレサ「待つて！それはギユメイ將軍にやって！僕がこいつを倒す！」

その頃ヨツシーパークの店

黒ヘイホー「全員そろったな・・・」

ウィーン

直樹「はい、3人でのご来店でございますね。では、ここではブーツを取り扱っています。A、B、Cの中から好きなブーツを選びください。」

ヨッシー「じゃあ、私はBにします。」

黒ヘイホー「俺はC!」

ベビルイージ「僕はAでしゅね。」

ヨッシー「いったいどんな効果が……」

戦闘場

アクアイド「喰らえー! シュモクザメハンマーアタック!」

ギユメイ將軍「くっ……!」

アクアイド「コラー!!!!!!」

ギユメイ將軍「何で怒られんのー!」

アクアイド「こういう打撃攻撃はな、喰らった方向と逆の方向に吹っ飛び、頬をその方向に向け、「ぐっはああああああ!」と言いながら吹っ飛ぶのが礼儀だぞ!」

ギユメイ將軍「分かった……」

アクアイド「喰らえー!」



バツコーン！

ギュメイ将軍「ぐっはあああああああ！」

シューーン！

ステープレイズ「ああっ、まさか貴様！」

アクアイド「そうだよ、あのようなことを使って2回攻撃を喰らわせたのさ！」

あとがきはオーレンジャー涙目のカーレンジャー発言2連発。

### 3人キャンペーン、はちやめちやバトル（後書き）

「UAOHの書き方に対して」

恭介「うあおーって書いてんじゃない、これだって」

「UAOHの言い方に対して」

実「ああくなんや遊園地の人やん！」

マリオ「あれ？なんでゴレオンが抜けてんの？」

アクアイド「つい軽はずみでやってしまった。後悔はしているが反省はしていない。」

ヨッシー「ゴレオンは犠牲になったのだ・・・」

ドミノロードを飛ばせ(前書き)

仮面ライダーZ X。



その頃ニュースでは

ポーン

？

ムーチョ（特別出演）「6時15分になりました。サンライズ速報の時間です。」

さっきのは時報かい！

スタッフ「あ、ムーチョさん！こんなニュースが・・・」

ムーチョ「たった今すごい速報です！なんと新しい星座が見つかりました！」

赤ヨツシー「よう！リポーターの赤ヨツシーだ！さっそく聞き込みをしていくぜ！」

レミー「あの星座は、ドラクエナインのゲルニック將軍に似ています。」

中略

ムーチョ「・・・というわけでたった今、キノコ政府はあの星座の名前をゲルニックがフクロウなのでフクロウ座という名前にすることになりました！以上、ムーチョでした！この後はボタンバタバタ天気予報です！」

全員「最後いるか!？」

ルイージ「グレイナル！お前を倒す方法を俺は思いついたぜ！」

グレイナル「なんだそれは！？」

ルイージ「お前の顔を切ることだ！」

グレイナル「できるかー！」

ルイージ「それができるんだよな！」

「チェーンソー・オン」

ギガガガガガ！

グレイナル「ぐわあああ！」

ルイージ「なーんてね。切れるわけないじゃん！だけど……」

「ロケット・ドリル・リミットブレイク」

ルイージ「ライダーロケットドリルキック！」

ドガーッ

グレイナル「ごわああああ！」

シュン！

アノンは、立ったまましゃべらない……

しかも倒れて・・・

バシャーン！

全員「自滅かよー！」

サジタリア「こんなので大丈夫なのか？」

マジーク「まだいるので・・・40%の確率で勝てますが・・・

」

低っ！

ぬしさま「ぐおおおお！」

ステープレイズ「ぬしさま！そうだ！津波だ！」

ぬしさまの大ジャンプ！

テレサ「皆、集まれ！」

テレサたち「おおーっ！」

ぬしさま「ん！？何！？？」

話せるのなら最初からしゃべれ！

テレサたち「それー！」

ひょい！

ぬしさま「のわーっ！」

スペクターアイ「宇宙行っちゃった……」

赤マーレ「はははははは！」

石の番人「笑うな！」

赤マーレ「痛い！なににするの医者！」

医師の番人「医師じゃねーぞ！ってかアクアイド！勝手に変えんな！」

アクアイド「わりーね！これもらってくれ！」

ビュン！

ドガーッ！

パカッ！

石の番人「な、なんだ！？」

次回、石の番人変身！



## 第1回戦隊クイズ大会！

石の番人「な、何だ！？スライムー！？」

シュン！

ショックで消えてしまった！

アクアイド「そういえば、新しいmission出さなきゃいけないの忘れてた！」

4人「はあ！？」

アクアイド「4人で戦ってくれ！」

4人「そんなのありかよ！」

アクアイド「そうそう、フェアにやらないといけないんだから・・・

」

シューン！

マジアーク「のあああああ！」

マジアークさんがログアウトしました

ルイーダ「強制ログアウト！？」

アクアイド「じゃあな！」

スペクターアイ「そうだ！ドラえもんの秘密道具「ウルトラミキサ」でボス同士を合体すればいいんだ！」

ベクターエンド「なるほど、それは楽しいものを……」

ルイージ「そうだ！こっちも秘密道具で対抗だ！」

3人「なるほど、やってみよう！」

プルルルル

クツパ「なんだ？mission6か！」

マリオ「今から牢獄付近で、第1回戦隊クイズ大会を始める！1位になると賞金が2倍になる。賞金かあ…行こう！」

だが、マリオはこの先を読んでいなかった……

デ이지ー「しかし、2位だと何もないが、3位になると賞金が半分になり、4位になると……強制失格!？」

黄色ハイホー「4人までですか……行きません！」

青ハイホー「嫌ですよ、賞金が無くなるなんて。」

誰もが自粛する中……

マリオ「やったあ 賞金が2倍！これでおれもお金持ち！早く行かなきゃ！」

「ポン」

ハンターD「――（隙が）見えた！」

マリオ「何だと――――――――――  
――――っ!？」

クツパ「何!? マリオ確保!? こういう主役は3日目ぐらいまで残るのに……」

ヨツシー「ええっ! マリオさん確保!? 残り29人って……」

このマリオ確保は瞬く間に世界へ知れ渡った……

### 新聞1面記事

「「逃走中」マリオ確保! なんと1日もたたないうちに確保!」

ニュース

ムーチョ「た、大変です! なんと逃走中でマリオ選手が1日もたないうちに確保されてしまいました! ―（成せばなる何事も）」

赤ヨツシー「後ろで流れてんのは何!？」

シュシュトリアンです。

国際サミット

マメーリア王国長官「今回の本題はマリオが1日たたずに確保されたことだが……」

マリオ「大袈裟すぎー！」

アクアイド「大変なことになったな……」

緑キノピオ「まさかこんなに早く確保されるとは……」

デイジー「でも、これまでの確保ペースから行ったらおかしくないわね……」

mission5終了まであと30分

会場にて

アクアイド「1人目来たねえ……」

黄色カメック「あんまり出番がないから、来てみたよ！」

アクアイド「じゃあ、お前は赤コーナーな！」

それから1分

アクアイド「2人目か……」

緑ヘイホー「僕の特撮知識を見せてあげます。」

アクアイド「お前青コーナーでいいよな？」

さらに1分たって

アクアイド「お、2人も来たぞ！」

パタクリボー「来たぞー！」

チヨロプー「来たんで！」

黄色カメック・緑ヘイホー「熊焼け小焼けでまた明日、いいないなく、にーんげんつておいしいだろな売買、いいないなくみんなで仲良く永眠るんだろな、僕もでんぐり返つて売買。」

アクアイド「何縁起の悪い歌歌つてんだよ！パタクリボーは黄色コーナー！チヨロプーは緑のコーナーに座りな！」

全員が席に着いたところで・・・

アクアイド「さあ始まりました！第1回戦隊クイズ大会！勝って賞金を2倍にできるのは誰なのかーっ！」

アクアイド「問題1！金曜と土曜に今東映チャンネルで放送しているのは！？」

ピポン！

アクアイド「青コーナー！」

緑ヘイホー「忍者戦隊カクレンジャー！」

アクアイド「不正解！」

緑へいほー「えっ!?!」

アクアイド「ですが、そのカクレンジャーが放送していたのは何年!?!」

ピボン!

アクアイド「緑コーナー!」

チヨロプー「1994年!」

アクアイド「正解!10ポイント入ります!」

アクアイド「第2問!激走戦隊カレンジャーのボーゾックは……」

ピボン!

アクアイド「赤!」

黄色カメツク「芋羊羹で巨大化!」

アクアイド「しますが、この芋羊羹よりいい物があると言ったのはLレオネネとTテルリン!さて、Tテルリンは何がいいと言ったでしょう!?!」

次回に続くんだよなあ。

**第1回戦隊クイズ大会！（後書き）**

感想で、勝ってほしいキャラや、答えを受け付けます。





ベクターエンド「まあいいか・・・手裏剣乱れ！」

トトトトトトトトトトトトトトトトト!

テレサ「危ないなあ…ポルターガイストショット！」

しかし、何も出ない。

ステープレイズ「え・・・まさか、空想攻撃？」

だが!

ドガーツ!

ステープレイズ「ぐはあ! 見えない球なんてありかよ!」

スペクターアイ「私が参る! 裂空斬!」

ズバーツ!

4人「ぐあああああああ!」

ステープレイズ「あ、しまった! 急用があるの忘れてた!」

3人「え!?!」

ステープレイズ「俺帰る!」

3人「ええ!」

ルイーダ「ファイアジャンプパンチ！」

バツコーン！

サジタリア「ひゃあああああああああ……」

青キノピオ「とどめの、必殺直線弓！」

シュパーン！

サジタリア「なあああああああああ……」

スペクターアイ「倒すとはなかなかの腕……光線剣！」

ビビビビビビビビ！

赤マーレ「きゃあ！」

テレサ「痛たたたたた！痺れるから、ミラージュバリア！」

カーン！

ベクターエンド「おい、こっちに戻ってきてるぞ！」

バリバリバリバリ！

2人「ぎゃあああああああ！」

その時……

謎「ははははは！2人をいじめる4人組をこの手で倒す！」

4人「なんだあいつ!?!」

正体は次回へ

一方逃走中

黄色カメツク「いきなりかよ！」

緑ヘイホー「これは……」

パタクリボー「賞金2倍が良かったな……」

チヨロプー「まあ、強制失格じゃなくてよかったじゃん。」

だが、ワリオシティに足を踏み入れると……

ハンターA「発見！」

緑ヘイホー「あわわわわ、みなさん、ハンターです。2手に分かれ  
ましよう！」

ハンターの行く先には……

黄色カメック「やべーぞ！こっちか！」

チヨロプー「ひでーな！これ！」

黄色カメックは足が遅かったため・・・

「ポン」

黄色カメック「ああ・・・終わりかー！せっかく賞金2倍にできると思ったのに・・・」

そんなに甘くない、それが逃走中・・・

チヨロプー「スピードタイプだから捕まらない！」

しかし、足の速さが少しずつ遅くなっていく・・・

「ポン」

チヨロプー「ちょっと待てアクアイド！スピードタイプは挟み討ちされないかぎり絶対捕まらないんだろ！？」

アクアイド「そんな決まりだれが決めた？」

プルルルル

ブーメランプロス「ワリオシテイにて黄色カメック チヨロプー確保残り27人 なんかクツパ軍団減ってきたな・・・」

行き当たりばったり投稿者（後書き）

突如現れた謎の影！その正体は！？

**電撃じかけの稲妻基地（前書き）**

今回は書きたいことがいっぱいあるので、長編。

## 電撃じかけの稲妻基地

リザーブマン「俺はさすらいのヒーロー、リザーブマン・・・俺はいじめる者を」

アクアイド「ああっ！今はとてつもなくこの先の展開をさっさと書いてしまいたい気分なんだよ！悪いけど、3人には死んでもらう！」

3人「え」

しかし何も起こらない

リザーブマン「よし、良かった！喰らえ、リザーブビーム！」

ビシャー！

4人「うわ！」

その頃牢獄

アクアイド「よし、できた・・・」

黄色キノピオ「なんや、そりゃ？」

アクアイド「復活ダーツ。」

全員「やったー！」

アクアイド「あ、いっとくけどマリオとディディーとワリオの的は

無いよ。」

3人「な、なんでさ!?!」

アクアイド「金に目がくらむやつに復活はさせないね。」

3人「復活させるよー!」

アクアイド「じゃあ3人には新兵器鉄拳制裁ロケットで港に飛ばされる権利を与えよう。」

バシユーン!

ドガーッ!

3人「のわあああああああああああああああああああああ  
・  
・  
・」

牢獄逃走者「はあ……」

その頃

ルイーダ「こいつ強い!」

赤マーレ「これは私たちも倒される危険ありね……」

その時

青キノピオ「あれ?なんかあつちから来てませんか……」



ひゅっひゅっひゅっ……

3人「ぎゃあああああああ……！！！！！！！！！！」

リザーブマン「ちょ、ちょっとこっち来てるよー！」

2人「えー！」

ドカーン！

6人「ぎゃあああああああ……」

ブルルル

ヨッシー「ルイージ・青キノピオ・赤マール・テレサの活躍により  
幹部の手下5人を倒すことに……」

アクアイド「あつ！書いてる途中だけどスケダン始まった！ちよっ  
と中止……」

ヨッシー「ええ！？最後まで言わせてk」

クッパj「言わせねーよ！」

黄色カメック「うまい！一本取られた！座布団1枚！」

全員「何言ってるの！」

アクアイド「まあ、今回は料理番組の要素が含まれてるみたいだし、  
皆で見ようぜー！」

全員「ああ！でもロケットパンチが出る機械でテレビを見るって・・・」

30分後・・・

アクアイド「面白かったな今日も！」

ブルーカロン「ああ・・・めちゃくちゃで面白かった。でも逆に恐ろしい・・・」

メルザスゾーン

アルファ「俺たちの攻撃をかわすとは・・・」

ベータ「ま、いいだろ。この作戦を使おうぜ。」

ガンマ「これが作動すれば、逃走者も無傷では済むまい・・・」

プルルル

ベビイマリオ「え！？通達3!？」

赤キノピオ「現在、メルザスがこの島に雷を落とそうとしている」とが分かった。」

ハンマーブロス「残り48時間になると、雷が落ちるが、対策が分からない。」

ルイージ「ちよっとちよっと・・・」

緑マーレ「これはちよつとまずいかも……」

ブルルル

青キノピオ「なんですか？通達4!？」

ボスパツクン「江戸時代、5人組という制度があり、共同で責任を負うという物があった。」

ファイアブロス「そこで、その5人組という制度を導入する。」

デイジー「ここには書かないが、配られたケータイの色で何チームが分かる。」

ルイージ「一人が捕まると、その色のチームだけを追うハンターを導入する。これは辛い……」

クツパ「そうだよな、赤カメツク……」

赤カメツク「待ってください!」が「」って書いてあります。」

クツパ「今の逃走人数が26人のため、4人を復活させる。」

ピーチ「え、26?27じゃないの?」

ノコノコ「言い忘れたが、緑キノピオが確保された。え!？」

1分前

緑キノピオ「良かった・・・成功したんだな。」

紫キノピオ「ああ、良かったぜ！」

ハンターB「!？」

2人「やべっ！」

しかし、二人とも疲れ、スピードが落ちて10m範囲内に入っていた・・・

紫キノピオ「おい、あれ。」

緑キノピオ「あれって？」

紫キノピオ「帽子だよ!ぼ・う・し!」

さらに2分前

菜摘「あ、3人できたの!？」

緑キノピオ「はいよ!」

菜摘「ここは帽子を取り扱っている店。」

赤カメツク「俺Cな。」

紫キノピオ「じゃあ、Aにするわ。」

緑キノピオ「俺はBだな。」

緑キノピオ「あ、そうか！行くぜ！」

二人は帽子をかぶった。

紫キノピオ「おお、すげーぞこれ！風に乗ってるぜ！」

紫キノピオの付けた帽子は「ウイングハット」

風が自分に向かって吹き、速く走ることができる。

だが、緑キノピオのかぶった帽子は…

緑キノピオ「のわあああ！なんだこりゃ！」

緑キノピオは「ハンターマグネットハット」

これを付けると、ハンターに引き寄せられてしまう！

紫キノピオ「悪い効果の帽子だったか・・・」

「ポン」

緑キノピオ「おいハンター！これは俺がやったんじゃない！帽子が悪かったんだ！」

運がない・・・

アクアイド「緑キノピオはなしな。」

プルルル

裏切り者「おいなんだよ・・・また？mission7？つてえ！残り52時間までに裏切り者に投票した逃走者が1人でも確保されていない場合、裏切り者を強制失格にする！？めちやくちやだ！」

黄色ヘイホー「なお、裏切り者のケータイに投票者のナビを搭載する。」

裏切り者「まあ、ナビがあるならいいか・・・」

アクアイド「さて、ダーツルーレットを行うのだが・・・」

アクアイド「mission5で活躍した4人に、まず復活した逃走者がアイテムを手に入れることができるので、4色のダーツをそれぞれ当ててもらい、次に俺が復活ルーレットを当てる。投げたダーツの色と同じ色のダーツが当たった逃走者が、アイテムを貰う。さらに、今5人組制度があるので、ダーツの色のチームになる。」

というわけで。

全員「セーレーナ！セーレーナ！セーレーナ！」

テレサ「東京フレンドパークのダーツゲームじゃねー！」

赤マーレ「赤

青キノピオ「青

テレサ「黄

ルイージ「緑

4人「それ！」

トントントントン！

アクアイド「えーっと、結果は赤が「逃走者ナビ」青が「高圧レーザ」黄が「激辛チョコレート」緑が「キックシューズ」に決定。」

アクアイド「ちなみに的は、遅く確保されたほど、ミッションに参加したほど、的は大きくなる。」

アクアイド「じゃあ行くぜ！必殺4本投げ！ワタア！」

トントントントン！

アクアイド「よし、赤は「クツパジャ」青は「キングテレサ」黄は「緑パタパタ」緑は「キノピコ」に決まったぞ！おめでとう！」

4人「やったあ！」

黄色モンテ「頑張れよー！」

グリーンカロン「俺たちの分まで頑張れよー！」

次回、裏切り者の最大の危機！

**電撃じかけの稲妻基地（後書き）**

今回は長かった・・・



その手があったか(前書き)

裏切り者に投票した逃走者は6人。

その手があったか

プルルル

デイジー「何：また通達5？」

青へいほー「今から15個の宝箱を設置する。ただ、そのうち6個は鍵がないと開けられない。」

紫キノピオ「って、もう1個あった！鍵穴は・・・ないな！」

だが・・・

ハンターB「あ！」

紫キノピオ「さっきのハンター！」

だが、先ほど逃げたせいで早さが格段に落ちている・・・

紫キノピオ「このままでは追いつかれてしまう！こうなったら宝箱が役に立つ！」

ハンターB「逃げられんのか！？」

パカッ

「ミクロ望遠鏡」50m先まで見えます

ハンターB「あゝあ。」

紫キノピオ「賞金がほしい！でも、望遠鏡じゃ・・・」

ハンターB「よし、今だ！」

紫キノピオ「？そうだ！」

コロコロ・・・

ハンターB「うわっ！」

コケッ！

なんと、望遠鏡を転がしてハンターを転ばせた！

紫キノピオ「こうすればよかった！」

ハンターB「その手があったか！」

その頃

裏切り者「おっ、ピーチリンクに一人いるね・・・」

その逃走者は・・・

ピーチ「平和ね。」

ピーチ「・・・」

確保できるのか！？

**裏切り者返り討ち作戦！ その裏にあった衝撃の逃走者！**

ピーチ「まあ、ハンターは来てないわね・・・」

ハンターC「だが、ここにいたりして！」

ピーチ「いきなり!?!」

足が少し遅めなうえに至近距離で見つかったため、逃走できるわけがないー（いや逃げれたら本当に奇跡ですよ）・・・

「ポン」

ピーチ「ああ、捕まった・・・」

ハンマーブロス「ピーチが裏切り者の通報により確保、残り29人、さらにグリーンチームだったためグリーンハンター1体追加。何やつてんだよ!」

色はレッド、ブルー、イエロー、グリーン、ピンク、パープルがある。

ハンマーブロスの色は・・・言わなくても分かるよね。

一方

キノじい「いついときはワリオシティの裏道に隠れてっど。」

しかし・・・

ハンターD「悪いけど、引つかからないよ!」

キノじい「な、なんと!？」

行き止まりだったため、逃げる事ができない・・・

「ボン」

キノじい「行き止まりが悪かったですね・・・」

キングテレサ「裏切り者の通報によりキノじい確保残り28人、さらにピンクチームだったためピンクハンター1体追加」

その頃

裏切り者「す、すごい!」

なんとリーダーに、4人の反応!

裏切り者「1人はドンキーがやったんだって」

1人はもう確保されている。残り5人。

しかも・・・

赤へいホー「あーあ、やる事が無いなあ・・・」

裏切り者「あつ!もう1人も出てきた!赤へいホー、ヨッシーパークメリーゴーランド付近にいます。」

赤へいほー「うわああああ！ハンターが2体も!？」

ハンターA・B「2体もいれば、捕まる！」

赤へいほー「ぎゃああああ！」

「ポン」

裏切り者「よし！2人もいればさすがに捕まるね……」

謎「発見！」

裏切り者「な、何！ハンターに見つかったのか!？」

しかし顔を上げると……

赤へいほー「僕ですよ！」

裏切り者「ぎゃああ、逃げろー！」

ピューー！

赤へいほーはオープニングゲームでハンターバッジを入手していました

裏切り者「はあはあ、良かった……」

「ポン」

赤へいホー「甘い！砂糖しか使っていないケーキほど甘い！」

裏切り者「な、なぜ！？つてか意味わからん！」

ブルルルル

デイジー「裏切り者の通報により赤へいホーが確保されたがハンターバッジで返り討ちにして裏切り者確保、残り27人ついに裏切り者確保ね……」

ルイーダ「さらに、通達6今から、裏切り者発表をする。見たい奴は来い。」

というわけで……

アクアイド「観客はデイジー、青へいホー、紫キノピオだけか……  
まいいや、始めるぞ。」

アクアイド「まずは、裏切り者が確保した逃走者のクレジットだ。」

裏切り者に通報されて確保された逃走者

テレサ

赤マーレ

ワルイーダ

青マーレ

緑カメツク

ドンキー

キングテレサ

ピーチ

アクアイド「では、フルボツコタイムを開始する。はい、熱線銃。」

8人「それっ！」

バシーツ！

裏切り者「ぎゃあああああああ！」

アクアイド「そして、裏切り者の正体だ！」

バツ！

全員「ああっ!?!」

その正体は!?!?



赤キノピオ「……………」

全員「あ、赤キノピオ—————っ!?」

赤キノピオに投票した5人が出てきた。

なんと、5人は奇遇にも、全員レッドチームだった!

赤ヘイホー

クツパジャー

黄色カメツク

ブラッディカロン

デイジー

赤キノピオ「き、君たちはなぜ…」

友よ、君たちはなぜ、悪魔に魂を売ったのか?

赤ヘイホー「カメンツノー!」

クツパジャー「タートルツノー!」

黄色カメツク「マハウツノー!」

ブラッディカロン「ブラッドツノー!」

デイジー「フラワーツノー!」

5人「頭脳獣じゃない!」

バシューーン！

月村サトシ「ぎよわああああ！」

赤へいホー「裏では手を組んで戦っていたのさ・・・」

デイジー「確かに遠くまで離れてちゃ分からないけど・・・」

その作戦やいかに！？

一方

ルイージ「な、何！？」

ベルーガ「お前に用がある。気絶してもらいたい。」

ジャド「そうです。我々の実験につきあってもらいましょう・・・」

ババーツ！

ルイージ「なっ・・・！！」

ルイージ、この危機を回避できるのか！？

そして5人のとつた作戦とは！？

**裏切り者返り討ち作戦！ その裏にあった衝撃の逃走者！（後書き）**

次回から話が大きく変わります。

## 悪夢の生贄ルイージ（前書き）

レッドチームの連係プレイと、赤キノピオの旅路は今度にします。

## 悪夢の生贄ルイージ

ルイージ「な、なぜ僕を狙う!？」

ベルーガ「決まってるだろ!お前はハンター・裏切り者だからだ!」

ジャド「そうだよ。しかしお前は逃走者を暗殺する生贄に過ぎない・」

ベルーガ「そう。暗殺計画はお前の死で始まる!」

ルイージ「やらせるかつ!」

ジャド「逆らうな!クリスタルアロー!」

バシユ!

ルイージ「ぐあっ!」

ルイージは口から血を吐いた。

ベルーガ「行くぞ!閃光剣!」

ルイージ「何、閃光!？」

バシツ!」

ルイージ「ぐあああ」

ルイージは声を出さずに倒れた。

そこに・・・

発表会の終わったレッドチーム。

赤へいほー「お前らは！お前らは・・・」

5人「誰だっけ？」

2人「どひゃーーーーー！」

ズコー！

2人がこける。

ルイージ「今がチャンス！プレグナサンダー！」

バジューン！

ベルーガ「あわわわわ！」

ジャド「させるか！フレイムアロー！」

グサーツ！

ルイージ「グハーツ！」

ルイージはまた倒れた。

2人「誰だっけ？とは、何だよ！」

5人「だって最初いなかったじゃん！」

ベルーガ「ああ、もういい！ロックマン4のボスに実体化ビーム！」

バリー！

ジャド「しかも、今回はウルトラミキサーで合成したんです！負けません！」

ファラオリングマン「まず俺が相手だ！」

ベルーガ「こいつは、ファラオマンとリングマンをミックスしたファラオリングマン！ファラオショットにリングブーメランをまとったサークルリングで攻撃する！」

ファラオリングマン「喰らえ！サークルリング！」

ヒュン！

バシューッ！

ブラッディカロン「ギャーツ！」

赤へいほー「ブラッディカロンさん！」

ベルーガ「よししどんどん行けー！」

ファラオリングマン「サークルリング乱れ打ちー！」

バシユバシユ！

ドドドドドカーン！

5人「うわー！」

ジャド「思うんだけどさ、丸い球に輪って、土星じゃない？だから、ドセイショットにすれば？」

ベルーガ「それじゃカッコ悪いだろ！サターンショットも考えたけど・・・」

ジャド「じゃあ、それでいいじゃん。」

ベルーガ「だけどさ、俺はシンプルがいいの！」

赤カメツク「今攻撃していいかな・・・まいつか！ファイヤービーム！」

シュイン！

2り「ぎゃー！」



## ルイージ・ヘルガ（前書き）

せつかく50話が迫ってることだし、50話は記念といつこととで特別な話を作る。

ちなみに裏切り者の話を何時に回すかは不明です。

## ルイージィヘルーガ

赤ハイホー「ファラオリングマンには、どうやって対抗します!？」

赤カメツク「行くぞ! ナパームビーム!」

ファラオリングマン「そんなもの通用しない!」

赤ハイホー「だったら、ナパームをまとったキラーライダー喰らえ  
ー!」

ファラオリングマン「何ー!」

ドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドド  
ドカボカシャーン!

ブラッディカロン「・・・なんかすごい音したな・・・」

赤ハイホー「ほら! 赤カメツクさんがめちゃくちゃ強い魔法をかけ  
たから、僕までズタボロになっちゃったじゃないですか!」

ファラオリングマンは倒されていた。

ベルーガ「この5人衆の2人に勝てると思ってるのか?」

ベルーガ「ジャド、連携攻撃だ!」

ジャド「煉獄放射!」

ベルーガ「それをまとったクロス真空！」

ズバアアアアア！

5人「ぐおわあ！」

ベルーガ「真空乱射ーっ！」

ズズズバーツ！

ブラッディカロン「のわあああああ！」

スパーン！

なんと、ブラッディカロンの体が切断された！

デイジー「ブラッディカロンの体が！」

しかし

カタカタカタカタ・・・

シャキーン！

ブラッディカロン「俺は体を切断されても大丈夫だ！」

ジャド「何やってんだよ、ベルーガ！」

ベルーガ「なら、ブラッディカロンにはこれをプレゼントしよう！」

ブラッディカロン「それはいいね、何をくれるんだ？」

ベルーガ「サンダーハンマー！」

バツカーン！

ブラッディカロン「ぐわあああ！」

ブラッディカロンが粉々に砕けた！

赤カメツク「何！？」

ブラッディカロンは4人の手で元通りになった。

ブラッディカロン「こんな奴どうやって倒すんだよ！」

赤へいほー「そうだ、5人の力を1つに合わせて攻撃です！」

5人「行くぞ！全員の気力を1つにするんだ！」

シューーン

赤へいほー「この剣は・・・闇を打ち砕く閃光の剣シャインソード

！」

デイジー「この剣は全員の力を合わせると、最強の真空波が撃てる  
！」

5人「いくぜ！ライトレーザー！」

シューイイイイイイイイン！

2人「ぐわああああ！」

ジャドは粉々に砕け、ベルーガは瀕死の傷を負った。

ベルーガ「ここで終わるわけにはいかない！チェンジビーム！」

ビーーーーー！

ベルーガはルイージに向かって光線を放った。

ベルーガ「ぐあああああああ！」

すると、ベルーガが息をなくし、代わりにルイージが動き出す。

ルイージ「!？」

デイジー「大丈夫!?ルイージ!？」

ルイージ「・・・うっ、・・・う・・・う・・・はあはあ、こ、こ  
は・・・？」

赤カメック「（なんかこのシーンどっかで見たことのあるような  
・・・）」

ルイージ「・・・クックック・・・フハハハハ！乗り移りに成  
功したぞ！残念だったな！これで逃走中は私のものだ！」

デイジー「ル、ルイージ!？」



ドカーン！

その時、一筋の光が走った。

その時、ベルーガの姿は消え、正気に戻ったルイージが目を開けた。

ルイージ「こ、ここは……」

デージー「正気に戻ったの！？ルイージ！」

ルイージ「まあ良かった、ベルーガとジャドがいなくなったことだし、行くか……」

クツパj「良かった……」

その頃

アクアイド「よし、この島を救う方法が見つかった！」

ドンキー「どんなんだ!?!」

アクアイド「どうやら、電流が最も多く流れるエリアの、クツパj「ルーム、デージーシップ、ルイージマシオンに雷が落ちるらしい。だから、その三つのエリアを移動させれば、エリア封鎖をまぬがれる。」

デェディー「そんなことできるの!?!」

アクアイド「ああ、一つ手段がある。」

一方

ガンマ「とんだことをしようとしたベルーガとジャドが倒されたか・  
・・・」

ベータ「俺たちの作戦に対して、アクアイドがああの例の作戦を使うらしいぜ。」

アルファ「そうだな。だけどさせないよ・・・俺のせつかく考えた作戦を無駄にするわけにはいかないからね・・・」

次回、ついにmission 8 始動！その内容は!？



**緊急指令！エリアを移動せよ**

午前10時 残り50時間

プルル

ガンマ「位置に着いたか、ベータ？」

ベータ「ああ、さつさと奪おうぜ。」

アルファ「この宝玉がなければ作動しない・・・なら作動させないだけさ。」

そして3人は宝玉と呼ばれる物を奪っていった・・・

アクアイド「!?!?!?・・・宝玉がない・・・!」

プルルル

ルイージ「mission8!ついに来た!」

デイジー「雷からこの島を救う方法がいにわかった。それは、解放されていないエリアの、ルイージマンション、デイジーシップ、クツパジャールームを動かすことだ。」

青キノピオ「だが、その動力源となる宝玉がアルファ、ベータ、ガンマに奪われた。」

青ヘイホー「残り48時間になると、電撃が流れ、逃走エリアにハ

ンターが雷とともに36体登場し、40体になる。」

緑ヘイホー「まずは、3人から宝玉を奪う。ガンマがデイジーシッ  
プのオレンジ色、ベータがルイーザマンシヨンの緑色の宝玉、アル  
ファがクツパジャールームの黒色の宝玉を持っている。」

黄色ヘイホー「宝玉をアクアイドに渡すと、見つかりにくい所に、  
そのエリアに入るためのバッジが10個あちこちに隠される。その  
バッジをつけてエリアに行くと、48時間5分にそれぞれのエリア  
が出港する。」

黒ヘイホー「また、トイフィールドにいけば、ミニゲームをしながら  
ら新エリアへと向かえる。しかも勝つと賞金が2倍になる。しかし、  
3つの宝玉をはめなくてはならない。」

紫キノピオ「なお、賞金と逃走時間があまりにも不平等なので、賞  
金を2000万円に増やす。いいじゃん。」

青ヘイホー「まずは2人と、3人を見つけましょう！」

ベビィマリオ「うん！分かった！」

赤モンテ「そうだな、しかしせっかく3人いるんだ、店に入ろう。」

ガチャ

実「おお。ここにはバッジが置いてるで。」

青ヘイホー「じゃあ、僕はここにします。」

赤モンテ「Aかな。」

ベビィマリオ「Bにするね。」

ガチャ

実「また来てなー。」

赤モンテ「いやー。いいもの買ったよ。」

ベビィマリオ「?・・・ねえ、あの人・・・」

そう言つて、ベビィマリオは1人の人を指した。

見かけない、怪しいフードをかぶっている。

青ヘイホー「あー、ここにアルファとか、ベータとか、ガンマとかいう人見かけませんでした?」

怪しい旅人「知らないな!俺がガンマだから!ゼクロスレーザー!」

ビシュン!

3人「うわっ!」

ガンマ「避けたか。でも、これはどうかな?ゼクロスバニッシュ!」

バシューッ!

なんと、球が無数に分裂した!

バリバリバリ!

3人「ぐあーっ!」

諸に食らってしまった!

青へいほー「くそっ・・・強すぎる!」

ベビィマリオ「そうだ!このバッジを付けてみよう!」

カチッ

ベビィマリオ「いくよー・・・って速――――

これは「マツハバッジ」

付けている間、合計で5分間時速200kmで走れる。

赤モンテ「解説!それ本当か!?速すぎるぞ!」

ガンマ「うわああああ!止まれ!」

ベビィマリオ「速すぎて止まれない!」

ガチューン!

2人「ぎゃああああ!」



バシューーン！

アクアイド「まさか、あれは芝居だったのか！」

ガンマ「そうだよ！ベビィマリオは一時的に操っていたのさ！」

青ヘイホー「そういえば、こんな銃が宝箱に入ってたんですが……」

ガンマ「それは冷凍銃！」

青ヘイホー「そうとわかれば……喰らえ！」

ビシューーン！

ガンマ「のわーーーーーっ！」

ガンマは凍結した！

青ヘイホー「どうすんのこれ？」

アクアイド「まあ、ベータかアルファに聞いてみよう。」

ベビィマリオ「うわあ！あっちにハンター！」

青ヘイホー「とりあえず3手に分かれましょう！」

ハンターの行く先にいたのは……

赤モンテ「こっちに来た！」

赤モンテ・・・

赤モンテ「こうなったらバツジで起死回生だ！」

効果次第では、助かる可能性がある。

その効果はどうなるのか！？

## ハンター全滅恐怖予報（前書き）

そういえば、今日で小説を書いて2カ月になる。



## ハンター全滅恐怖予報

赤モンテがつけたバツジの効果は・・・

赤モンテ「おお、重力が味方しているように走れる！」

重力抵抗バツジ 重力の力を行く先に引き付け、速く走れるようにする。

だが、行き先に・・・

黄色へいほー「赤モンテさん、黒へいほーさん！ハンターが・・・」

黒へいほー「マジかよ！こっちからも来てる！」

赤モンテ「何ー！」

黄色へいほー「そんな反応をしたってことは・・・ハンターが来てるんですね・・・」

おきのどくですが ぼっけんのしょ あかもんて きいろへいほー  
くろへいほー はきえてしまいました。

3人「ドラクエかい！」

しかし、黒へいほーが・・・

黒へいほー「そうだ！靴があった！」

2人「あ、キャンペーンで取ってたの。」

すると・・・

グイーツ・・・

黒ヘイホー「なんだこのばねみたいな靴は・・・」

ヒューン！

黒ヘイホー「ぎゃああああああああああ・・・」

「スプリングブーツ」

3回、ばねを使って大きく飛ぶことができる。

黄色ヘイホー「って、僕ら結局確保じゃないですか！」

「ポン」「ポン」

赤モンテ「行き先が悪かった・・・」

マリオ「赤モンテ、黄色ヘイホー確保、どちらもイエローチームだったためイエローハンター2体追加。残り25人。ひどいなあ・・・」

デイディー「結構難しいよね、ハンターが増えると。」

キノじい「そういえば姫！」

ピーチ「何？」

キノじい「キノピオを光線で打つとは！」

ピーチ「あのととき正体分からなかったから！」

キノじい「姫失格です！姫を次世代に渡してください！」

ピーチ「ええええええええ！」

キノじい「でも、やっぱり今のほうがいいです！」

ピーチ「良かった・・・」

青へいホー「これは、80%の確率で全滅が予想されますね・・・」

緑へいホー「そんなに高いのか・・・」

青へいホー「まあ、追加逃走者がいるんなら低くなりますけど。」

緑へいホー「にしても、なんでそんなに高いんだ？」

青へいホー「最初始めの追加逃走者が出るまでに誰も確保されていなければ、54人。その半分が27人。もう半分の切っているうえ

に、まだ2日残っているからさ。」

緑ヘイホー「そうなのか……？　なんか見ない奴が……」

メルザスの一員だと確信した2人。

勝つことはできるのか？

## 2人ならできる友情のパワー

青へいほー「行きます・・・必殺！不意打ち突き！」

槍がベータの心臓めがけて飛ぶ！

ベータ「見切った！妖刀奥義その1「十字妖魔斬」！」

ズバツ！ズバツ！

青へいほー「なっ・・・！」

なんと、槍を十字切りした！

緑へいほー「くらえ、スペリオルシュートアタック！」

ベータ「妖刀奥義その2「両断龍牙斬」！」

ズバツ！

緑へいほー「ぐわああああああああ！」

両断して中身が真っ二つ・・・にはならなかった！

ベータ「ええ！何で真っ二つにしないの!？」

アクアイド「だってさ、そんなことしたら残酷表記タグつけないといけないじゃん？」

ベータ「何で止めたんだよ！」

アクアイド「だってさ、まだ小学校も卒業してない少年が残酷な書き方するか？」

ベータ「同じ小6の竜斗っていう作者さんは残酷表記小説書いてますけど…」

アクアイド「こまけえこたあいいんだよ！」

ベータ「良くなーい！俺にしたら緑へいほー殺成功だったかもしれないんだぞ!？」

青へいほー「ー（今攻撃していいかな・・・）」

緑へいほー「ー（いいと思うが…）」

2人「ツインレポリューションレーザー！」

キキキキキ・・・

2人「発射！」

ピルルルルル！ジュバーン！

ベータ「ぐわああああああ！」

ベータ「ほら！こんな事話してたから、ダメージ受けたじゃないか！」

アクアイド「お前が先に話持ってきたんだろー！」

2人「エックススパイラルアタック！」

2人が交差しながらRVソード・激走切りしながら突っ込んでくる！

ベータ「そんなもので倒せると思っているのか！？」

2人「2人ならきつとできる・・・」

青へいほー「友情ゆうじゆうのじゆうパワー！」

緑へいほー「友情ゆうじゆうのじゆうパワー！」

緑へいほー「おい！なんで「ゆ」と「パ」がワントempo早いんだよ！」

青へいほー「そっちこそ、こっちから言えばなんで「ゆ」と「パ」が遅いんですか！」

ベータ「おい！前見ろ！」

2人「えっ？ぎゃああああああ！」

ガン！

ここはヨッシーパーク。観覧車にぶつかってしまった！

しかも・・・

カンコンガンバーンドーンバチーンガッターン！

アトラクションで反射し、アトラクションがめちゃくちゃ!

観光客の悲鳴「キヤードアーワーヒャー!」

ノコノコ「はい、牢獄からのニュースです。たった今の情報によると、ヨッシーパークに突如出現した2体の回転した謎の物体が倒したアトラクションの数は58、被害者は約1000人に上ります。」

ベータ「何やってんだあいつら……つてえ!?!」

バチーン!

ベータ「ぐはっ!油断した……」

ストツ

青へいほー「……ひょーだ〜……まいりまちたか〜……」

緑へいほー「ひゃいつたか〜……」

ベータ「ふらふらだな……まあいい。宝玉は返そう。」

アクアイド「ちょっと待て、牢獄へ来てほしい。」

省略

ベータ「……でこのガンマを溶かしてほしいと?……そうだな……アルファに溶かしてもらおう。」



アクアイド「ま、アルファを捕まえるまでの辛抱か……」

一方

緑マーレ「マリオスタジアムって見晴らしがいいからほかの場所よりはいいと思うけど……」

マーレで唯一残っている緑マーレ。

その後方に……

ハンターD「あっ……」

ハンター……

緑マーレ「こういう時に捕まりたくない……なぜなら新エリアを観光できない……観光といってもエリア構造を調べるため……！ハンターがこんなところに!？」

しかし、気付いた時の距離はわずか10m。

だが……右の道から……

アルファ「どこがいかなかった・・・」

黒の宝玉窃盗犯・・・

アルファ「なんだその言い方！」

緑マーレ「あ！良かった！私の身代わりになれ！」

バシッ！

緑マーレがアルファを地面にたたきつけた。

アルファ「がつ！」

ハンターD「うわっ！」

アルファに躓き、ハンターDが転んだ。

その隙に緑マーレは行ってしまった。

ハンターD「何こんなところで寝てんだよ！」

アルファ「さっきの一部始終を見てたんなら、意味わかるだろ！」

アルファ「メカニカルレーザー！」

バシッ！

ハンターD「ぎゃああああ！」

アクアイド「・・・まいつか。」

プルルル

「マリオスタジアムにてアルファがハンターを破壊したためハンター3体に減少」

アルファ「はあはあ・・・さっきのでエネルギーをほとんど消費してしまった。」

謎「隙あり！」

ズガッ！

アルファ「なっ！？誰だ！」

クツパ「吾輩だ！こここのところ全然活躍なかったから・・・」

クツパ「メールで居場所が分かった！」

アルファ「アクアイド何してんのさ・・・」

クツパ「ファイヤー！」

ゴオオオオオオオ！

アルファ「ぐわあああああ！」

アルファ「まあ、黒の宝玉は返す。」

アクアイド「はい、氷を溶かしてー。」

アルファ「インフェルノ！」

ゴワアアアアアアアア！

ガンマ「ぎゃあああああ！」

氷が解けたガンマは半焼けしていた。

3人「ま、次に会う時を楽しみにしてるよー！」

シュン！

クツパ「さて、ここに来る途中にこんなバッジを拾ったのだが・・・

┌  
アクアイド「そうだったな。バッジの色が宝玉の色に比例するエリアに乗れる。クツパは緑だから、ルイージマンションに行くといい。

クツパ「ああ！」

3分後

クツパ「よし、一番乗り！」

クツパ missionクリア

次回、バッジ争奪戦！

新エリアに向けての序章（前書き）

現在の逃走者

ルイーダ

デイジー

青・紫キノピオ

赤・青・緑・黒ヘイホー

デイクシー

赤カメック

赤・緑パタパタ

ブラッドイカロン

ヨッシー

ベビイマリオ

ベビイルイージ

キノピコ

パタクリボー

緑マーレ

クツパ

クツパ jr

キングテレサ

ボスパックン

緑・赤・青ブロス

## 新エリアに向けての序章

ブルル

赤へいホー「宝玉が3つ揃ったので、5人組の制度をなくしてカラ  
ーハンター4体をトイフィールドバッジに変えている所には  
らまく。」

ブルル

アクアイド「どうした？赤へいホー。」

赤へいホー「赤キノピオはどうするんですか？」

アクアイド「裏切り者は無しだよ。」

クツパ「おっ、さっそく黒発見。」

一方

キングテレサ「トイフィールドに入りたんだけど……」

一方デ이지ーシップ

ブーメランプロス「結構早く見つかった良かった。」

ベビールイージ「本当でしゅね。僕はルイージマンションに行く。」

ブーメランプロス missionクリア

1分後

ハンマーブロス「よし、これで新エリアに行ける……」

ボスパックン「ああ。」

ハンマーブロス ボスパックン missionクリア

ルイージマンション

ベビイルイージ「あ、兄ちゃん先に来てたの。」

ベビイマリオ「じゃあ、入ろう。」

ベビイマリオ ベビイルイージ missionクリア

クッパjrルーム

赤へいホー「着いた……」

赤へいホー missionクリア

1分後

クッパ「着いたあ……」

クッパjr「やったね父さん！新エリアが見れるよ！」

クッパ「おいこらやめろ！」



クツパ クツパ jr missionクリア

デイクシー「バッジはどこかな・・・」

手探りで探すデイクシー。

そこに・・・

ハンターB「！」

ハンター・・・

少しずつ近づいてくるハンターに対し、デイクシーは気付かない。  
最早逃走しても遅かった・・・

「ポン」

デイクシー「え？ちよつとさっきの隙を突かれた!？」

ルイージ「デイクシー確保残り24人」

といいつつ、ルイージマンションに入っていく。

ルイージ missionクリア

キングテレサ「花壇の中に…あった!」

2分後

キングテレサ「着いた！さあ、トイフィールドを楽しむか！」

キングテレサ missionクリア

残り60分

それから40分

アクアイド「後、1分前に雷を避けるために動くから、あと19分！」

パタパタ「はい〜！」

これまでの途中経過

デージーシップ

ブーメランブロス

ハンマーブロス

ボスパツケン

青キノピオ

パタクリボー

キノピコ

ルイージマンション

ベビィマリオ

ベビィルイージ

ルイージ

紫キノピオ

青ヘイホー

緑ヘイホー

黒ヘイホー

クツパ jr ルーム

クツパ

クツパ jr

赤ヘイホー

ヨッシー

赤カメック

緑パタパタ

mission未クリア

パタパタ

ブラッディカロン

トイフィールド

デイジー

キングテレサ

ファイアブロス

15分後

パタパタ「ああ、良かった！緑のバッジ見つかった・・・」

1分後

パタパタ「危ない危ない・・・」

パタパタ missionクリア

そして残ったのは・・・

ブラッディカロン「一体どこにあるんだよ・・・トイフィールド・・・」

トイフィールドを狙うブラッディカロン・・・

ブラッディカロン「観覧車のゴンドラの中にはさすがに無いだろうな・・・」

良く見ると

ブラッディカロン「・・・あった。」

ブラッディカロン「急げ！もう30秒しかない！」

しかし行く途中で・・・

ハンターA「!?!」

ブラッディカロン「な、ハンター!?!」

20

ブラッディカロン「横とびだ！それーっ！」

ハンターA「あーっ！しまった！」

10

9

8

7

6

ブラッディカロンとハンターAの距離10m

5

4

3

2

1

ブラッディカロン「はあはあはあ……」

間に合った……

ビシャアアアッ！

全てのエリアはもう進んでいる……」（トイフィールドを除いて）

プルルル

マリオ「おう。ミッションは全員クリア！良かった……」

ピーチ「？そういえば、トイフィールドに向かったアクアイドは？」

デイディー「まさか……おいら達置かれたままとかないよ……」

緑キノピオ「ええーっ！？まじかよ！」

全員「俺たちどうなるのー！？」

牢獄におかれた30人の逃走者の運命は！？

## 脱走者の影侵攻（前書き）

今回から始まります

「スーパーマリオスタジアムキャラの別アニメ・別ゲームなりきり  
1発芸」

全キャラが誰かのマネ、アニメのキャッチコピーを言います。

その元ネタを後書きに書きます。

当ててみてくださいという、単なる小さいクイズです。

今回はマリオ。

ちなみに、不定期で別の小説にも書きます。

あと、必ずやるわけではありません。

マリオ「月は出ているか？」

## 脱走者の影侵犯

あれから1分

黄色へいほー「いつたい僕らはどうなるんですか……」

プルルル

マリオ「ん！？あれ？俺のケータイからは鳴ってないぞ！？」

赤ノコノコ「おいらのケータイだけ！？」

ピーチ「ちよつと読んでみて！」

赤ノコノコ「mission 9。今から、復活ゲームを開始する！」

全員「おおーっ！」

赤ノコノコ「エリアのどこかに隠されている4つのトイフィールド  
バッジをゲットし、トイフィールドに入れば復活できる。」

黄色へいほー「ということは、最低4人しか復活できないということ  
とですか……」

アクアイド「今から牢獄を開放するが、39体のハンターがいると

」

ガコン



30人「探すぞ！行くぜー！」

しかし

ハンター24・39「発見！」

30人「ぎゃああ！いきなりかよー！」

「ポン」

捕まったのは・・・

ワリオ「いきなり終わりかよー！」

さらにハンター24に・・・

黄色ハイホー「うわあ！もう一体のハンターがこっち来た！」

さらに並行して・・・

デイディー「ひゃああああー！」

黄色キノピオ「いきなりかーい！」

しかし、距離が少しずつ縮まっていく。

デイディー「おい！黄色ハイホーどうすんだよ！っていなーい！」

黄色キノピオ「あの奴、どこかに隠れたのか！？」

「ポン」「ポン」

黄色ハイホー「近くに茂みがあったのでそこに逃げ込みましたが・

・ほかの2人に悪いことをしましたね・・・」

マリオ「ワリオ デイディー 黄色キノピオ確保 残り27人  
い  
きなり3人も・・・」

だが

テレサ「なんだ、浅いマンホールの中にあっただじゃん。」

赤マーレ「おおっ！キノピオの石像の目に！」

1分後

テレサ「よっしゃーっ！復活だー！」

赤マーレ「テレサが先に入っているけど、せっかくだし入りましょ  
ー！」

テレサ、赤マーレ復活

プルルル

赤キノピオ「え！もう2人も復活！？後2人が・・・ま、が」

「ポン」

ハンター3「あんな声を出したら見つかるに決まってるじゃん！」

ハンター4「あいつ馬鹿だね。」

残りは26人。

生き残ってくるのは誰なのか！？

## 脱走者の影侵犯（後書き）

今回の1発芸は

「機動新世紀ガンダムX」  
のキャッチコピーでした。

## トイフィールドは危険な競技場

ジユゲムの雲「トリックオアトリート！」

ジユゲムの雲が赤ノコノコの持っているイカフライを指した。

ジユゲムの雲「実は・・・ジユゲムさんとはぐれてしまって・・・腹が減って動けなくて・・・」

その頃

アルファ「おい、また2人も連れてきたのか？」

ラーミラ「私は聖剣伝説3の技を全て暗記して全て覚えた、召喚士ラーミラです。」

ベータ「何でもこいつ、学生時代に聖剣伝説3をやりすぎて、ポーズも全部取ってたせいで、全ての技を覚えたらしい。」

アルファ「ガンマ、お前は最強の刺客らしいな。」

レーヴァス「ぐあああああ！ぐおおおおおおお！」

アルファ「・・・何だこいつ。」

ガンマ「こいつは改造変化人間レーヴァス。殺された動物をあまりにも悲しむあまり、全ての記憶と人間としての本能を忘れた。しかし、それと引き換えにあらゆる物体に変化することができるようになった。」

レーヴァス「・・・ああ・・・そうだ・・・」

アルファ「初めから普通に喋れよ！」

赤ノコノコ「そうすか・・・じゃあ、全部与えマスよ。」

ジュゲムの雲「ありがとう！これはお礼です。」

なんとそれはトイフィールドバッジだった！

赤ノコノコ「やったー！」

赤ノコノコ 復活

プルルル

マリオ「ここまででテレサ、赤ノコノコ、赤マーレが復活したが、残る1つは実はアクアイドが持っている。」

ノコノコ「そのトイフィールドb」

「ポン」

ワルイージ「バッジを手に入れるにはトイh」

「ポン」

黄色モンテ「フィールドに行きアクアイドの元へたどり着け。ただしt」

「ポン」

赤モンテ「途中での長く険しい迷路などの困難を潜り抜けなくてはならない。しかも8人しか出場できない」

「ポン」

緑キノピオ「ちなみに先ほど4人確保された」

黄色ハイホー「……………」

黄色ハイホーは偶然にもトイフィールドエリアにいた。

ウィーン……

ジュゲム「はい、こちらトイフィールドアスロン受付です。」

黄色ハイホー「出場します。」

ジュゲム「はい、ではここにあなたの住所、電話番号、郵便番号にいつも食べている米の種類、ガールフレンド、性別に仮面の中身、それに……………」

黄色ハイホー「手続きややこしすぎだろー!」

ジュゲム「では、8人そろつまで、1番の控室で待っていてください。」

黄色ハイホーが扉をあけると、机の上に昼食なのか、天ざるうどん

があつた。

だが、こんなのだかにうどんなんて食べている場合では無くなる。

アスロンの恐ろしさは、黄色へイホー、そして残り7人に降りかかる・・・



## トイフィールドは危険な競技場（後書き）

今回はちょっと早めのハロウィンネタです。

## 着くまでが競技

黄色へイホー「とつても気前のいい店だこと。」

といいながら、そばつゆに海老天を乗せ、一口。

やわらかとした感触が口の中へ入ってきた。

続いて、普通に一口。

さくつとして、感触がいい。

その頃外では

青モンテ「ただ、トイフィールドへ着きゃいいんだろう!」

しかし・・・

ハンター4体「発見!」

囲まれた・・・

「ポン」

青モンテ「な、何…?」

それだけでは無かった・・・

「ポン」

青マーレ「え……」

「ポン」「ポン」「ポン」

あちこちから聞こえてくる確保の音……

「ポポポポ  
ン」

ドンキー「挨拶の魔法かよ！」

チヨロプー「ああよかった！着いたよ……」

省略

チヨロプー「控室待ちかー。まいいか、机の上の釜飯を食べよう。」

その後

黄色カメック「遠い……」

「ポン」

黄色カメック「ああ、駄目だ……」

緑カメック「よし。」

省略

緑カメック「この控室、意外と何でもそろってんだな。机の上に焼

き魚とごはん、味噌汁があるように。」

緑キノピオ「よし、行けるぜ……」

しかし、ハンターが10体も現れた！

緑キノピオ「こうなったら！」

なんと、緑キノピオは10体のハンターをステップで抜き去った！

ハンター26「ま、まじか……」

ハンター23「この俺たちを潜り抜けるとは……」

2分後

緑キノピオ「よし、着いたぜ。」

省略

緑キノピオ「ここが4号室ってことは……もう3人も来てるのか。」

そんな時

緑キノピオ「あの机に乗ってるのって！？おおーっ！これは！」

上には何があつたのか！？

スタート！アスロンエキサイト！（前書き）

到着逃走者

黄色ハイホー

チヨロプー

緑カメツク

緑キノピオ

スタート！アスロンエキサイト！

緑キノピオ「これはいい！松茸ご飯じゃないか！」

一方

トイフィールド前

クリボー「はあ、着いたぜ・・・」

ノコノコ「着いたっス・・・」

ワルイージ「っ、着いた・・・」

グリーンカロン「これまでどれだけハンターに追われたことか・・・

」

一気に4人も来た。

それから3分後

ピンポンパンポーン

アナウンス「控室にいらっしやる8名様は、すぐに会場へお越しください。」

5分後

黄色ハイホー「すごいな・・・ノコノコさんも来てる・・・」

ジユゲム「みなさんは、これから7つのステージを通ってもらいます。」

グリーンカロン「頑張って行くぜ！」

アクアイド「そして、1番でここに来れたやつが復活！」

8人「行くぜー！」

スタート！

アクアイド「ステージ1はマグマステージ！金網に手をかけたり、綱渡りで進んでいくぞ！」

ノコノコ「こ、こついうところはどつしても足が竦むな・・・」

緑カメツク「ホレ。」

ポン。

バシャーン！

ノコノコ「あちあちあちあち！」

ノコノコ「良くもやったな！」

ドン！

バシャーン！

チヨロプー「なんでー！」

バシャドカバキブシ！

黄色ヘイホー「まったく、何やってんだか。先に行こう。」

緑キノピオ「いえーい！一番乗り！」

緑カメツク「早っ！」

ここまでの順位

1位緑キノピオ

2位黄色ヘイホー

3位緑カメツク

ほか測定不能

アクアイド「ステージ2はブリザードステージ！滑って思うように動けないぜ！」

緑キノピオ「う、うわああ！滑る！」

ツーーーーー！

ゴーン！

ワルイージ「いてえ！」

居たのかよ！



ワルイージ「お前が言うな！」

省略

ノコノコ「したらダメだろー！」

アクアイド「いよいよ最後のステージ！ステージ7はラビリンスステージ！」

黄色ヘイホー「あら、行き止まり！？」

全員なかなか出て来れない。

20分後・・・

アクアイド「来た来た！」

来たのは・・・

グリーンカロン「やったー！復活来たー！」

ブラッディカロン「やったな、グリーン！」

次回から特別編に入り、今回で1クール終了です。

スタート！アスロンエキサイト！（後書き）

ちなみに新エリアに行くまでに時間はたっていないとします。  
2クールは残り47時間からです。

トイフィールド1〜3ターン目（前書き）

記念すべき50話目。

トイフィールドで1番になると賞金2倍です。

## トイフィールド1〜3ターン目

牢獄はトイフィールドの物置におかれることになった。

アクアイド「さて、トイフィールドを行うか。」

復活した4人は観客です。

ルール

20ターンの間、バッターと野手を交換しながら戦う。

パネルの内容

30 30点もらえる。

60 60点もらえる。

90 90点もらえる。

120 120点もらえる。

きのこ ボールをはじく。

ファールゾーンフェンス 飛距離ボーナスを貰えることがある。

ホームランゾーン 500点もらえる。

ジャックポットパネル

このパネルに当たると下記のいずれかのゲームが発生。

きめられたパネルを撃て！

先に出たパネルだけを撃つ。

〇〇風船を撃て！

きめられた条件の風船を撃つ。

隠されたスターを探せ！

4つの箱からスターの入っている箱を選ぶ（運ゲー）。

勝った者が賞金を総取りできる。

野手は、左からボールのスピード、ボールのコース、バッターのおじやまアイテムをスロットで決める。

撃ったボールを取った野手が次のバッター。

アクアイド「じゃあ、デイジー、ブラッディカロン、キングテレサ、ファイアブrosのスロットを回すな。」

スロットは「キングテレサ」と出た。

アクアイド「じゃあ、始めのバッターはキングテレサ。」

ちなみに全員300コインを持っている。

1ターン目 キングテレサ

スロットの結果は「スター」「左曲がり」「甲羅」になった。

ピッチャーマシン「スロットの結果読み込み完了。発射！」

バシユ!

キングテレサ「甘いわツツツ！」

カーン!

デイジー「早く行かないと！」

ファイアブロス「あの条件結構打てないと思ってたから油断した！」

当たったのは「60」「90」。

ファイアブロス「このやる！」

ドガツ!

デイジー「ちょっと!女を傷つけるなんてどっいっつもり!?!」

ファイアブロス「あ・・・いや・・・」

ブラッディカロン「今のうちに取っちゃえ。」

ポン

2人「やられた！」

ブラッディカロン「隙がありすぎるんだよ！」

2ターン目 ブラッディカロン

スロットは「?」「直線」「ボムヘイ」。

デージー「?」って?」

アクアイド「ランダムで選ばれる奴だよ。」

ピッチャーマシン「発射！」

カロン!

しかし、撃った方向はファイアブросの行き先!

ファイアブрос「よっしゃー、60コインは貰った！」

ブラッディカロン「させるかあ!ボムヘイ！」

ファイアブрос「・・・へ?」

ドカロン!

ファイアブрос「ぎゃあああああ!」

おじさまアイテムの攻撃を喰らった場合、バッターに60コインを



支払う。

パネルは「30」「60」ではねた。

デイジー「ああ、急がないと！」

しかし・・・

ボン！

キングテレサ「ああーっ！消えちゃった！」

この場合、引き続きバッターがバッターをする。

3ターン目 ブラッディカロン

観客席

テレサ「ポテトうまい！」

赤マーレ「こっちのナゲットもなかなかよ。」

赤ノコノコ「2ターン連続でバッターか。どうなるんですかね。」

スロット「スペシャル」「？」「バナナ」

バシュ！

ブラッディカロン「うおっ！」

カン！

「30」に当たった。

デイジー「これは私が取るの！」

ファイアブロス「俺だ！」

キングテレサ「俺だよ！」

アタックの乱闘！

キングテレサ「ハッ！危ない危ない・・・」

ポン

ファイアブロス「チッ、思い出したか・・・」

デイジー「悪いけどそのボール、いただくわよ！」

ブラッディカロン「点はー内！野手はー外！」

ブラッディカロンは豆まきならぬバナナまきをした！

ファイアブロス「うおっ！？」

ドン！

ツウルツ！トウルツ！

デイジー「いたっ！」

キングテレサ「NO! OUT!」

野手全員60点マイナス

ポン

ファイアブロス「何とか取った・・・」

ブラッディカロン「チツ・・・」

グリーンカロン「このポップコーンキャラメルの甘みがあったいいね！」

テレサ「甘いより塩だろ！」

4人「試合に集中せい！」

トイフィールド1〜3ターン目（後書き）

成績

デイジー 240点

キングテレサ 390点

ファイアブロス 180点

ブラッディカロン 660点

トイ4 5ターン目・ブラザーラジオ1回目前半

4ターン目 ファイアブロス

スロット「フラワー」「直線」「甲羅」

バシユ!

ファイアブロス「フルスロットルエッジ!」

カーン!

高く上がり、なんと「120」パネルの上で止まった!

しかし・・・

キングテレサ「よっしゃー!俺の上だー!」

ファイアブロス「甲羅投げ!」

ドン!

キングテレサ「ホギヤ!」

「120」になった。

デイジー「いただき!」

次のバッターはデイジー。

5ターン目 デイジー

スロットは「スター」「左曲がり」「POUボール」だった。

デイジー「見切った！」

カーン!

3人「もらった！」

デイジー「させるか! POUボール！」

ドガア!

3人「のわあああああ！」

デイジー「やった! 良かった！」

アクアイド「アウト！」

デイジー「え!?! 何で!?!」

キングテレサ「俺が取った! だって浮いてるから！」

デイジー「し、しまった！」

成績

デイジー 180点

キングテレサ 390点  
ファイアブロス 300点  
ブラッディカロン 600点

おまけ

マリオ「イエーイ！特別編集特集企画！「マリオブラザーラジオ」第1回です！」

ルイーダ「いろいろなゲストの皆さんと、いろいろな特集をラジオ形式で伝えていきます！」

マリオ「今回は特撮の変なサブタイトル第1弾！ウルトラマン編！」

ルイーダ「1回目がピーチ、2回目がワリオ、3回目がドンキー、4回目にヨッシーのチームに来てもらいます！マリオとクッパのチームはいつかやります。今回はピーチキングダムです。」

ジャジャジャーン！

ピーチ「はいどうも！」

デュード「はいはい。」

マリオ「まあ、今回はウルトラマン編だよ！」

ルイージ「まずは帰ってきたウルトラマンだよ！」

マリオ「この怪獣は俺が殺る」から見ていこう。」

ルイージ「誰かに邪魔されたのか？」

マリオ「はい、次。「暗黒怪獣星を吐け！」」

緑キノピオ「そんな事言うな。無理だし、そんなことしたら死ぬぞ！」

全員「そりゃそうだ。」

ルイージ「えーと・・・えっ!?「この一発で地獄へ行け！」こんなのあるの!?!」

マリオ「サブタイ怖すぎだろ！」

ルイージ「ウルトラマンAにしますか。まず、似たサブタイとして「鳩を返せ！」と「パンダを返して！」があるね。」

キノじい「私は、前者はとても小さいことで、後者は中国が日本に對して言っただけですね。」

マリオ「空飛ぶクラゲ」。短いのにシユールだな！」

ルイージ「命を吸う音」。怖い！音を聞いただけで命が吸われんの!?!」



全員「架空だから気にするな！」

ルイージ「分かった！」

マリオ「よし、タロウより後は後半に続く！」

トイ6ターン目・ブラザーラジオ1回目後半(前書き)

トイフィールドは10ターンに変更しました。

## トイ6ターン目・ブラザーラジオ1回目後半

6ターン目 キングテレサ

スロットは「キノコ」「直線」「ファイアボール」

バシユ!

キングテレサ「こんなもので外すかー!」

カーン!

パネルは「ジャックポット」で、「200」と書いてある。

ファイアブロス「よし、次は俺が出番を取る。」

キングテレサ「ファイアボール!」

ブラッディカロン「ぐわあああ!燃える!やられた!」

デイジーには当たらず、ファイアブ羅斯はボールを取った。

ジャックポットミニゲーム!

隠されたスターを探せ!

すると、4人の前に4つの箱が現れた。

デイジー「私はC。」

ブラッディカロン「じゃあ、Dにしようかな。」

キングテレサ「A。」

ファイアブロス「俺はBか。」

箱の内容は……

デイジー「何もなし」

ファイアブロス「コイン」

キングテレサ「クツパ」

ブラッディカロン「スター」

アクアイド「普通はスターを手に入れたやつがコインゲットして終わりなんだが……」

4人「？」

アクアイド「まず何もなしの奴は何もない。」

デイジー「普通じゃん！」

アクアイド「コインは10コインゲット。」

ファイアブロス「よっしゃー。これだけでも大切に使わなくては。」

アクアイド「クツパはコイン半分！」

キングテレサ「ゲーツ!?まじかよー！」

途中経過

デイジー 180点

キングテレサ 225点

ファイアブロス 310点

ブラッディカロン 740点

おまけ

マリオ「はいはい、続きをやって行くよ。」

ルイーダ「タロウと、80のOP画像が変わってから――（33話以降）は変なのが多くなったね。」

マリオ「はい、タロウからやって行くよ。」

ルイーダ「怪獣の虫歯が痛い!」「」

マリオ「だからどうした。」

全員「確かに。」

マリオ「タロウの首がすっ飛んだ!」「こえーなおい!」

ルイーダ「確か、エンマーゴに首チヨンパされたんだよね。」

ルイージ「あぶない！嘘つき毒きのこ」

キノじい「毒をもつ上に嘘まで付くんですか。」

キノピオ全員・キノじい・キノピコ「だけど、しゃべるキノコって初めて聞いたなあ。」

残り全員「お前らが言うな！」

ルイージ「ひきょうもの！花嫁は泣いた」

マリオ「そりゃ旦那さん困りますわな。」

ルイージ「ウルトラのクリスマスツリー」ってシンプルすぎ！」

マリオ「ウルトラ父母餅つき大作戦！」には南夕子が出てたな。」

デイジー「怪獣を塩漬けにしろ！」想像しただけで食欲の40%は軽く落ちるわ。」

マリオ「まあ、「あつ！タロウが食べられる！」ってのもあるんだけど、シンプルなんだが、大きいタロウを食うのか。胃がつぶれそうだな。それ以前に消化出来ない！」

ピーチ「怪獣サインはV」なんだかスポーツ的ね。」

ルイージ「歌え！怪獣ビッグマッチ」歌で戦うのかな？それにしてもタロウ多っ！」

マリオ「レオに入るぜ！つてか4話から6話まで「男と男の誓い」  
「泣くな！お前は男の子」「男だ！燃えろ！」つて！全部暑苦しい  
サブタイトルじゃねーか！」

青キノピオ「「おいらは怪獣大将だ！」」

マリオ「だからどうしたパート2。」

全員「確かにパート2。」

マリオ「80は33の次の34「へんてこりんな魚を釣ったぞ！」  
とか、後半は変なの多いな。」

ルイージ「「ボクは怪獣だ〜い」「」

マリオ「だからどうしたパート3。」

全員「だからどうしたパート3。」

紫キノピオ「「君はゼロ戦怪鳥を見たくないかい？」」

マリオ「見たくありません本当にありがとうございました。」

ルイージ「「あっ！キリンも象も氷になった！」」

マリオ「これ最終回だぜ？だから、新の80マニアは本当の最終回  
がメビウスの41話「思い出の先生」つて考えてることが多いよう  
だな。」

ルイージ「次回はメタルヒーローの予定です！ありがとうございましたま

した！」

マリオ「次回の小説に書く予定です。次回も見てくれよな！」



トイフターン目・ブラザーラジオ2回目前半(前書き)

今回のブラザーラジオはジライヤまでです。

## トイ7ターン目・ブラザーラジオ2回目前半

7ターン目 ファイアブロス

スロットは「?」「?」「ミニテレサ」

ファイアブロス「てえいやっ!」

カーン!

ファイアブロス「よっしゃ、飛んだぞ!90点行くか!?!」

だが・・・

キングテレサ「はいはいワロスワロス」

なんと、その居場所の近くにキングテレサがいた!

ファイアブロス「それなら・・・こつだ!」

その瞬間、ボールが消えた!

キングテレサ「あれ!?ボールがない!?!」

ファイアブロス「よっしゃ!」

気がつくと、後ろにボールが落ちていた。

「90」にある。

キングテレサ「よし、とった！」

ブラッディカロン「やらせるかつ！」

カシユウウウウウン！

デイジー「なぜ格闘ゲーム風！？」

キングテレサ「ごわあ！」

ブラッディカロン「よし、次のバッターゲット・・・」

前回からの変化

ファイアブロス 310 400

おまけ

マリオ「はいはい、今回もブラザーラジオいつてみよー。」

ルイーダ「今回はメタルヒーローの変なサブタイトルを見ていくよ。  
今回のゲストはワリオチーム！」

ワリオ「はいはい！ありがとうございますー！」

マリオ「宇宙刑事シリーズはまとめていくな。ギャバン最終話「ド  
ンホラーの首」」

ルイージ「なんかホラー要素満載なサブタイ・・・」

ワルイージ「シャリバンは「誕生日の約束 大空に夢をえがく飛行  
雲」なんて言う長いのばかりなのに、何でラスト前3話が「ミニ  
ー」「ガマゴン」「海坊主」なんだよ！」

ワリオ「確かにおかしい。」

ルイージ「シャイダーより「6年0組の不思議」0組はありません。  
」

マリオ「じゃあ、新年から月曜夕方になったジャスピオン行ってみ  
よう！」「日本列島を断て！ 浜名湖アタック作戦」浜名湖にいた人  
たちは海に沈みます。」

ルイージ「「ご用心！ 月給1億円さしあげます」別に用心しない、  
逆にそんなところに入ってみたいな！」

ワリオ「そうだそうだ！」

全員「お前は黙れ！」

ワリオ「まあまあ。「ミヨちゃんのキッスは百万馬力」」

マリオ「キスパワーつええWWW」

ルイージ「ジャスピオンはもうないから、スピルバンより「ムムム！ ワーラー新戦力」ヨウキ？」知らないんですか？ていうか聞かないで。こっちだって知らないよ！」

緑カメック「まんぷくりん・夢をパツクンしないでね」そんな言われかたされても……」

マリオ「さてメタルダーだが、日曜時代から狂って来てるな。「助けて！ 愛しのゴリちゃん逃亡日記」これ見た人に聞くけど、これほんとにゴリラが逃げたのか？」

黄色カメック「世界忍者戦ジライヤ。ワナワナ罾のパコ作戦」  
3回言うな。」

赤カメック「謎の謎は謎謎?!」どういふことっすか!？」

テレサ「忍法・ハナちようちん!」どこが忍法だよ!」

マリオ「こうしてみると、メタルヒーローって結構変なサブタイプ少ないな。」

ルイージ「次回はジバン以降もやって行くよ!」

## トイ8〜10ターン目(前書き)

今回は少し長めなので、ブラザーラジオは無しです。

## トイ8〜10ターン目

8ターン目 ブラッディカロン

スロットは「キノコ」「直線」「緑甲羅」

バシュ！

ブラッディカロン「そりゃ！」

長打になった。

ファイアブロス「よっしゃ、フライアウト！」

これではブラッディカロンは60コイン失わなければいけない。

ブラッディカロン「よし、甲羅投げ！」

ドカツ！

キングテレサ「アウチ！」

アクアイド「おっ、これは借り払い！」

借り払いとは・・・

言葉の意味を理解していないアクアイドが、フライアウトした時にアイテムを別の野手に当て、勝手に借りさせる技だ。

途中経過

ファイアブロス 400 460  
キングテレサ 225 165

9ターン目 ファイアブロス

スロットは「フラワー」「左曲がり」「バナナ」

ファイアブロス「行くぜ！」

カシューン！

鋭いライナー！

ドゴーツ！

ブラッディカロン「ドヒャー！」

なんと、体を捕らえた！

デージー「ゲット！」

ちなみに「60」

ファイアブロス 460 520

最終ターン デージー

でたのは「フラワー」「右曲がり」「サンダー」



デイジー「そりゃ！」

カーン！

打った方向に「150」

だが、3人はそこにスタンバイしていた・・・

デイジー「サンダー！」

3人「ぎゃあ〜！」

サンダーはどのような場所においても画面内の野手なら雷を落とすことができる恐るべきアイテム！

「150」だ。

キングテレサ「なんとかとった・・・」

ゲームセット。

アクアイド「では1位は・・・」

アクアイド「ブラッディカロン！」

ブラッディカロン「やった！勝ったぞ！」

アクアイド「ブラッディカロンには、2000万円を贈呈する。なお、これは確保されてももらえるので、牢獄の中に入る必要はない。ただ、復活はできなくなる。」

ブラッディカロン「なるほど・・・理解しました！」

一方新エリア

マリオ「全く、俺たちが金にくらむからって、何でテレサと赤マーレの代わりなんだ・・・」

ディディー「テレサと赤マーレがないからしょうがないだろ・・・」

ワリオ「おまえら、がんばれよ！」

？たち「はい！」

彼らの正体は！？

次回から第2クールに入ります。

## 新エリアに出向く謎の船

新エリアに潜む声の正体は・・・

赤ヨツシー「俺たちだ！1番目にしゃべった俺だ！」

青ヨツシー「俺は2番目にしゃべった！」

キングクルール「そして、この俺様が3番目にしゃべったんだぜ！」

そう、ファミリーベースボールで初登場した、新キャラ達だった・・・

17人がいるが、あとがきで少しずつ書いていく。

マリオ「こっち側のオープニングゲームも鎖を引くゲームにしようと思ったけど、アクアイドが、1回の小説で同じゲームを2回も使うのはどうかと思って、新ゲームを考案したらしい。」

その頃、4つのエリアはパウダーホワイトビーチエリアに到着した。

そう、ここは「Wii Sports Resort」の舞台として登場した、ウーファーアイランド。

ちなみに17人はウィンドパーク近くの平原にいる。

アクアイドはニュー・タウンの一角に住んでいる。彼に話しかければ自首も可能。

また、宝箱の中身を一新し、7個に減らした。

ワリオ「では、新ゲームに使う装置をセットするぜ！」

そう言つて17人の前に現れたのは、人間2人分ほどのルーレットが2つと、缶。

水色ヨツシー「どうやって遊ぶんですか？」

と、その時！

マリオ「・・・何だかやけにこの当たり暗くないか？」

すると赤ヨツシーが・・・

赤ヨツシー「お、おい！上を見る！」

青ヨツシー「な、何だあれは！？」

ブルークリッター「ふ、船！？」

ゲッソー「馬鹿言つな！空飛ぶ船があるか！」

ハナチャン「あ、赤い船・・・？」

ベビィピーチ「さすがにびっくり！こんなの見たことない！」

そう、彼らの前に飛び込んできたのは、空飛ぶ赤い船だった。

しかも、その船から、6人が飛び降りてきたのだ。

赤ヨツシー「お、お前らは誰だ！」

マーベラス「お前ら、楽しそうなことやってるな！俺たちにも関わらせる！」

青ヨツシー「マ、マーベラス・・・？」

そう、赤い船とはゴークイガレオンのことだった・・・

ジヨー「まあ、気晴らしにはなるだろう。」

ルカ「それに、人が集まってると気になるじゃん？」

マリオ「確かに。商店街で行列が並んでいるとつい入って行く主婦のことだな。」

全員「それ違う！」

ハカセ「だからさ、もっと多くの人でやってみようよ！」

アイム「何より、オープニングゲームの内容が気になります。」

鎧「そうですよ！皆さんでやりましょー！」

マリオ「とりあえず、新しいオープニングゲームの内容を言うぜ。  
「カンケリット」缶を蹴り、1から7までの数字が書いてあるルーレットのどれかに入ると、その分だけ俺たちのほうにあるルーレットが回る。内容は4つで、マスは8つ。3つは、クリア。2つはアイテムゲット。2つはハンターボックス進行で、30m離れたハンターボックスが2mずつ動く。ただ、このイベントは10回しか起こらない。またハンターは5体。1つがハンター放出だ。」

全員「長い解説だな！」

マリオ「だが、これだけじゃない！実はアクアイドがマスの位置を記憶できないため、マスの配置はやるたびに変わるんだよ・・・」

全員「ええっ！」

くじで順番を決めることになった。

今回は時間がないので明日キャラ解説です。

全ては運！カンケリット！

前回、ファミリーベースボール（+ゴージャイジャー）のメンバー23人は、カンケリットのルール説明を聞き、くじで順番を決めるところだった。

マリオ「実はベースボールアイランドにしようとは提案したのは俺なんだけど、反省点があった。

1つは「逃走エリア」良く考えてみたら、あの島普通の逃走エリアの0、7倍ぐらいしかないんだよ。なのにも関わらずこのウーファーアイランドは普通の1、2倍。このぐらいがちょうどよかったと反省。

2つは「逃走者」この時、46人も出したらあれだけ確保されるのは普通だったと反省。」

とまあ、23人がくじを引いた。

鎧「やった！追加戦士16番目の俺にふさわしく、16番目だ！」

黄色ヨツシー「11番。なんか可もなく不可もなくって感じだけど・・・出さないようにしなきゃな。」

ルカ「えっ！？1番目!？」

マーベラス「3番。マジか・・・」

青ヨツシー「あ、やった。23番目。」

1番目はルカ・ミルフィ。

ルカ「てやっ！」

カン、カンカーン……

入ったのは「3」

マリオ「こっちも3マス回して……」

クリア

ルカ「よし！」

2番目はゲッソー。

ゲッソー「それっ！」

カン！

「6」

デイディー「よし、6回。」

アイテムゲット

ゲッソー「これどうするの？」

ワリオ「アイテムゲットが出たら、このアイテムスロットを回し、止まったところのアイテムをゲットできる。」



ゲッソー「そりゃ！」

カン！

アイテムは「冷凍銃」

ゲッソー「よし、使いどころを見極めないと・・・」

全ては運！カンケリット！（後書き）

キャラ紹介1

赤・青・黄色・水色・ピンクヨッシー

赤は熱血、青はひねくれ者、黄色は普通、水色は秀才、ピンクは何故か男。

一人称は赤と青が俺、黄色と水色とピンクが僕。

ミッションには赤と水色は行く。青、黄色、ピンクは行かない。

## これが本当の人間差別（前書き）

キャラ説明は確保された逃走者を特に説明していきます。

## これが本当の人間差別

3番目はキャプテン・マーベラス。

マーベラス「とりゃ！」

カン！

カンカンコーン・・・

「2」で止まった。

ピンクヨッシー「もしかしたら、ハンター放出かも・・・」

クリッター「そ、そんな心臓に悪いこと言つなよ！」

クリア

マーベラス「よっしゃ！」

クリッター「はあ・・・」

ピンクヨッシー「ねえ、次は誰かい？」

ベビィデイズ「私よ！」

4番目はベビィデイズ。

ベビィデイズ「それっ！」

カンカーン・

「4」だ。

黄色ヨツシー「さて、内容は・・・」

ブルークリッター「内容によっては序盤から出されることもあるかな・・・」

ハンター2マス進行

ゴゴゴゴゴ

ハンターボックスが彼らに近づく・・・

ベビィデイジー「あ、ごめんなさい!」

赤ヨツシー「まあまあ。大丈夫。まだ28マス残っているんだから。」

鎧「そうですね!まだマスとの距離は十分にあるんですから!」

ベビィデイジー「分かった!」

ジヨー「さて・・・次は誰なんだ?」

全員「・・・」

ブラウンクリッター「あ、俺の番だ!」

全員「早く気付けー!」

5番目はブラウクリッター

タイニーコング「まあ、まだ出されてもこっちは余裕で逃げられるけど……」

ブラウクリッター「えいやっ!」

カンコン・

「3」。

ディディー「さて、回しまして……」

ハンター進行

ゴゴゴゴゴ

赤ヨツシー「何やってんだよ! 2mも縮まつちやったじゃねーか! どーしてくれんだよー!」

鎧「そうです! もう26mじゃないですか!」

ブラウクリッター「何で!?! さっきのベビィデイジー時はあっさり流してくれたのに!」

ハカセ「これが本当の……」

ジョー「人間差別・・・だな。」

この後、6番目のレッドクリッターが、3を出してハンター進行。もちろん赤ヨツシーと鎧に（ry

7番目のアイムが、5を出してクリア。

8番目の水色ヨツシーが、6を出してアイテムゲット。ウーファーイランドで出来るスポーツの効果それぞれ5分使えるスポーツキツトをゲットした。

黄色ヨツシー「9番目は誰だ？」

赤ヨツシー「俺だよ。」

ハナチャン「そういえば、ハンター進行を後で誰か出したらどうするんですか？」

赤ヨツシー「ああ、俺はここに残る。どうせ足早いし、よほどのことがないかぎり確保はされない。」

赤ヨツシー「行くぜ・・・とりやつ!!」

カコーン!

ワリオ「お・おう・・・威勢がいいな!・・・」

「1」が出た。

出た目はアイテムゲット。

マリオ「はい、アイテムスロット回して〜。」

赤ヨツシー「うりゃっ！」

無敵サングラス

赤ヨツシー「おっ！定番が来たな！」

この後、10番目のクリッターが3。ハンター進行し（ry

11番目の黄色ヨツシーが5を出し、クリア。

12番目のジョーが4を出し、クリア。

13番目のブルークリッターが6を出し、ハンター進行。もちろん

（ry

クリッター族「ていうか！俺たち全員ハンター進行してんじゃねーか！」

14番目のタイニーコングが2を出し、ハンターを進行させたが、

2人は言わなかった。どうやら悪人の時だけらしい。

15番目のベビィDKが6を出し、またしてもハンター進行。

この時点ですでにハンターボックスとの距離は16mに縮まっている。

7回もハンター進行が行われている。

ここまで来ると、ハンター放出をした逃走者が逃げ切るのは難しい。

青ヨツシー「確か16番目は……」

鎧「俺です！」



16番目は伊狩鎧。

鎧「よし……それっ！」

カンコローン……

「2」だ。

デイディー「つてか、今回普通に紹介されてる逃走者アイテムゲツト多くない？」

アイテムゲツト

マリオ「……またか。」

鎧「えい！」

植物育成キット

鎧「え？」

マリオ「まあまあ。これは外れじゃない。これは育てば、役に立つアイテムなんだから。」

鎧「……まあいいか。」

ファンキーコング「17番は俺だよ！」

17番目はファンキーコング。

ファンキーコング「えいや！」

「4」になった。

マリオ「さて、回すか・・・」

ハンター放出

残り逃走者「ええええ！」

ガコン

ハンター5体が放出された・・・

ハンターの狙いにあつたのは・・・

キングクルール「ぐわあああ！」

意外にも、一番足の遅いキングクルール・・・

キングクルール「こつなつたら！」

なんと、ファンキーコングとベビィピーチの腕をつかみ・・・

ベビィピーチ「え!?!」

ファンキーコング「な、何だ!?!」

キングクルール「道連れじゃあああああ!」

「ポン」「ポン」「ポン」

ベビィピーチ「ひどいでしゅー!」

ファンキーコング「なんてことすんだよ!」

キングクルール「これこそ!奥義道連れ!」

ハンター5体「どこが奥義だよ!」

するとケータイに・・・

「ファンキーとベビィピーチはホテルシーサイドスーペリアのテニスコートの牢獄に入ってくれ。キングクルールはそのまんま逃走してくれ。」

ファンキーコング「え!?!どういうことだよ!」

キングクルール「よっしゃー!神は俺を見捨てなかった!」

だが・・・

アクアイド「月村、牢獄から電話するってどういうことだ?」

月村サトシ「キングクルールの件だよ。」

アクアイド「まあ、いいだろ。」

月村サトシ「じゃあ、切るぜ！」

ガチャ

アクアイド「今のうちにさんざん喜ぶがいい。」

月村サトシ「なぜならお前には、今から地獄を見ることになるからな……。」

一方

ブルル

デイジー「ウインドパークでファンキーコング ベビィピーチ確保  
残り49人 一気に2人も……。」

ブルルル

青ヨツシー「えーと、mission10。だけど俺たちにとって  
は最初のmissionだな。」

そのmission内容は、始めからとしてはあまりにも衝撃的な  
missionだった……。

## これが本当の人間差別（後書き）

キャラ紹介2

ファンキーコング

結構外国の文化を取り入れてそうなコング。

一人称は俺。

missionには行く。

ベビピーチ

ピーチの幼少時代。

一人称は私。

missionには行くか行かないか。

キングクルール

新メンバーの中では足が一番遅い。

一人称は俺様。

missionには行く訳がない。

ベビデイジー

デイジーの幼少時代。

一人称は私。

missionはその時による。

ゲッソー

どのような場所も動けるイカ。

一人称は僕。

missionは・・・まあ行く。

ハナチャン

結構足の速いイモムシ。

一人称は私。

missionには行く。

キャプテン・マーベラス

ゴークイジャーのゴークイレッド。

一人称は俺。

missionには行く。

## 遊覧式通報部隊

青ヨツシー「何！？序盤でこんな高難易度なミッションを出してもいいのか！？」

ルイージ「前回、キングクルールがファンキーコング、ベビィピーチを道連れにした。」

デイジー「そのためウーフォーポリス部隊がキングクルールを指名手配した。」

ハカセ「キングクルールを5分以内に誰かが鎖鎌でとらえないとハンターが100体が増える。えっ！それだと瞬殺じゃん！」

キングクルール「うわっ！このために確保を無かったことにしたのか！」

キングクルール「よし、まずは森林公園へ・・・あの場所ならあまり気付かれないだろう・・・」

というわけでキングクルールは森林公園に着いた。

キングクルール「はあ、はあ、ここまでこれば来ないぜ・・・」

その時！

ガチャッ！

キングクルール「何！」

水色ヨッシー「僕の予想なら、ここに来ると思ったんですよ……」

キングクルール「な、何だと……」

mission10クリア

全員「mission短けえ！」

一方

マントの男「この3つの鍵を使えば、私の陰謀は完全に成功する……」

アカアイド「あれ？さっきまで保存していたmission用の鍵がない……」

ブルルル

緑ヘイホー「もうmission11ですか。」

クツパ「遊覧飛行用の飛行機3台に通報部隊3体が搭乗した。」

ルカ「彼らは逃走者の位置を見つけ次第通報をする。」

キングテレサ「帰還させるには、エリア内のどこかにある鍵3つを使い、レバーを下げて装置を作動することが必要だ。」

mission11!



通報部隊が飛行機に3体乗っている。彼らは逃走者の位置を見つけ次第通報する。阻止するにはエリアのどこかにある鍵を探し、鍵で封印を解いてレバーを下げ、帰還させなくてはならない。また、このmissionは時間無制限で、レバーを下げない限り通報部隊はエリアに生存する。

また、このmission内容には書いていないが、装置はレイクピアキャッスル内部、テン・カウント入り口周辺、キャンドル・ムヨーノ内部に入っている。

しかし、そのうちキャンドル・ムヨーノは鍵がかかっているため、宝箱の中から鍵を探さなくてはならない！

赤ヨツシー「このmissionは行ったほうがいいな・・・といつても、こんな所に居れば絶対通報されないんだけど。」

それもそのはず、赤ヨツシーはホテル・シーサイドスーペリアの102号室にいる。

今回の逃走中では、建物内部には全て入ることができる。

だが、ハンターはそのようなところも見逃さず確認するため、安全な場所は0に近い・・・

だが、こんな逃走者も。

ウーフォーアイランド市街

ルカ「こんなmission、行く訳ないじゃん！」

だが・・・

通報部隊A「ルカ、ヨットハーバー周辺に発見した。ただちに向かえ。」

ハンター2「悪いんだけどさ、今バスケットボールやってんだよ。」

通報部隊A「フリースローか？・・・てかそんなことしてないで早く行けよ・・・」

ルカ「うわっ！」

ルカの走力ではまくことはできない・・・

が・・・

黄色ヨツシー「うわおっ！」

逃げた先に黄色ヨツシー・・・

ルカは逃げるのに集中していたため、黄色ヨツシーに移ったことを知らない・・・

黄色ヨツシー「のわあああああ！」

そしてハンターの狙いは黄色ヨツシーに移った・・・

黄色ヨツシー、逃げられるか!?



## 遊覧式通報部隊（後書き）

キャラ説明3

ジョー・ギブケン

ゴークイブル！。

一人称は俺。

missionは行く。

ルカ・ミルフィ

ゴークイイエロー！。

一人称は私。

missionは内容による。

鍵と装置の探索捜査始まらず（前書き）

前回のあらすじ

ルカにハンターをぶつけられた黄色ヨッシーが逃走。

鍵と装置の探索捜査始まらず

黄色ヨツシーがスカット・ボウル周辺を逃走。

黄色ヨツシー「ここでスカット・ボウルの前に出れば・・・行ける！  
うおおおおお！」

バアアアア！

ハンター4「！」

しかし、2体のハンターに囲まれた・・・

黄色ヨツシー「え？」

いくら足が速くても、道幅の狭い道で挟み討ちさせられては逃げ道も無い・・・

「ポン」

黄色ヨツシー「嘘——————！」

声は全土に響いた・・・

ハラハラつり橋

青ヨッシー「何か町のほうから悲鳴が聞こえたような・・・」

アクアイド「誰か捕まったのかな・・・」

プルルル

ピンクヨッシー「何！？黄色ヨッシー確保残り47人!？」

その時、ヨッシー族に衝撃が走った・・・

赤ヨッシー「何で48人じゃないんだ？」

・・・人数のほうに。

月村サトシ「なあ、アクアイド。俺達間違っただけだよな？」

アクアイド「そうだが、最初から全員合わせて50人だった。」

ピンクヨッシー「ここは危険です！早く逃げましょう！」

ハカセ「わ、分かった！」

動かずの時計台前にいる2人。ピンクヨッシーは迷いをせずにハカセとともに逃げだした。

ハカセ「な、何で逃げるの！」

ピンクヨッシー「黄色は確かにヨッシーの中じゃ一番足は遅い。だけど、ハンター1人にあっさり捕まるようでは無い。一部を除けばそう、ハンターに捕まる可能性が一番高いケース・・・それは・・・

「挟み討ち」だよ。」

ハカセ「えっ、じゃあ周辺に2体いる可能性があるから早めに逃げたの!？」

ピンクヨッシー「ていうかスタミナ切れか、転ぶ以外でハンター1体には絶対に苦戦しない！それが結論だ！」

一方

鎧「行きましょう！これはクリアしないとけません！」



鎧は鍵を探しに行った。

赤ヨツシー「さて・・・そろそろ行くか。」

すると下で・・・

支配人「お客さん！鍵！鍵忘れ・・・行っちゃった・・・」

赤ヨツシー「どうしたんですか？」

この時点で赤ヨツシーは忘れたのが鍵だということを聞いていない。

支配人「あのマントをかけた客が、この袋を忘れちゃって・・・」

赤ヨツシー「任せとけ、俺が行ってやる！」

環状線第一トンネルへ走り出す。

だが・・・

赤ヨツシー「うわっ、あいつ俺の走力でも追いつけない！」

その男は速すぎた・・・

だがそこに・・・

鎧「うわっ！何ですかあの人！」

赤ヨツシー「丁度良かった！その人を止めてくれ！」

鎧「ちょっと止まってー！」

マントの男「う、うわあああ！」

赤ヨツシー「ええええ！お前が鍵を持っていたのか！？」

鍵を取り戻せるか！？

今回も説明なし。

## 逃走中影の侵略者（前書き）

今回から次回予告始動！

そして、投稿者変更にし掛かる伏線・・・

次回予告があるので、次回まとめて紹介します。

## 逃走中影の侵略者

逃走中が行われている中……

ウェッジ島

ここも一応Wii sports resortの舞台となっている。

ホテル ナインティーン

?「はあ、やっとアクアイドに頼まれた逃走中のセット内容が完成した……」

彼はどうやら、アクアイドの身内らしい。

1階

?「そういえばまだ昼食ってなかったや……」

支配人「どうぞ、裏メニューのスタミナ冷やしうどんでございます。」

?「これってさ、うなぎと山芋っていう結構高めの物が600円っていう、結構安めで食べられるのがいいよな。」

一方

アルファ「し、しまった!」

ベータ「そうだ！今日あの宝箱の存在を忘れて、海に投げちゃったんだよ！」

ガンマ「あの宝箱の中には、タブーの力を最大に発揮した、アルテイメッターなる、強大な力の超人が封印されていたのに……」

アルファ「ラーミラの奴、あの鍵を持っていったな……だがもう遅い、俺が捨てた……」

ラーミラ「そ、そんな！僕の苦勞が……」

鎧「お前、何者だ！？」

ラーミラ「僕は聖剣伝説3の技をマスターした男、ラーミラ……」

赤ヨツシー「お前もメルザスの一員だったのか！」

ラーミラ「ならこれからいくか……カッターミサイル！」

ズバババババババ！

なんと、両斧が飛んできた！

赤ヨツシー「うわっ！」

スパアア！

鎧「なっ、真っ二つに……」

赤ヨツシー「なあ、鎧、変身できないのか？」

鎧「あ……はい！許可は得ています！それでは……ゴーカイチ  
エンジン！」

「ゴーカイジャー！」

ラーミラ「アックスボンバー！」

ドガアアアア！

赤ヨツシー「のあっ！」

鎧「行きます！ゴーカイスピア！」

スパッ！

ラーミラ「ぐわっ！」

ラーミラ「よし、火遁の術！」

ポオオオオツ！

2人「ぐはああああ！」

アルファ「続いて雷神の術！」

ラーミラ「はああああ……！」

バゴオオオ！

2人「ぐあああああ！」

ベータ「よし、真空波動槍だ！」

ラーミラ「よし！」

シュイイン！

鎧「ぐあつ！そこまで威力は無いはずなのになんだかすごく効いて  
ませんか！？」

赤ヨツシー「それはさっきの攻撃で魔法攻撃力と防御力が下がった  
からだ！」

ガンマ「行けっ！魔法陣斬！」

ラーミラ「うおおお！」

ズバシユガ！

赤ヨツシー「ぐあああああ！」

鎧「あ、赤ヨツシーさん！」

赤ヨツシー「だが俺は実は最初の火遁の術を吸収していた・・・俺  
は炎属性だからな・・・」

鎧「さすが！」

赤ヨツシー「いくぜ！カイザークラッシュ！」

ラーミラ「だが、プロクテトアップ！」

赤ヨツシー「だが！マリオテニスでは俺の効果はストロークパワーアップ！物理攻撃力が高くなる！」

ドガアアア！

ラーミラ「ぐわあ！な、なぜ！？確かに攻撃力が高くて、プロテクトアップをかければ攻撃力を殺げるのに・・・」

アルファ「だってお前、さっきプロテクトをプロクテトって言ったじゃないか！」

ラーミラ「そ、そうか！」

レーヴァス「ぐおおおおお！」

アルファ「あ、お前居たんだ。」

レーヴァス「ひでえ！俺は今着いたのに！」

ベータ「じゃあ、言えないじゃん！」

アルファ「まあ、ラーミラ、召喚魔法を使え！」

ラーミラ「空を見る！星を見る！宇宙を見るー！」

アルファ「何歌ってんだ！それと、レーヴァスはコンドルに変身だ



「！」

レーヴアス「うおおおおおー！」

赤ヨツシー「速い！」

バシツ！

2人「ぐあつ！」

レーヴアス「そりゃ！」

ガシツ！

鎧「うおわあああ！」

赤ヨツシー「鎧！火炎弾！」

ドガアツ！

レーヴアス「ぎゃあああ……」

赤ヨツシー「しまった！鎧も一緒に……」

「ゴーオンウィングス！」

赤ヨツシー「鎧！」

鎧「赤ヨツシーさん！ゴーオンジャーがいなかったら今頃海の底ですよー！」

鎧「このまま突撃！」

バシバシ！

ラーミラ「うわっ！こういう時に使えるのは……」

アルファ「ホーリーボールで攻撃しろ！」

ラーミラ「てか僕、今までずっとポケモンみたいにずっと指示を受けてばっかじゃないか！」

バシ！

鎧「うおわっ！」

赤ヨツシー「行くぞ！火炎放射！」

ラーミラ「効くか！マジックシールド！」

赤ヨツシー「何っ!?!？」

ラーミラ「アースクエイク！」

赤ヨツシー「そんなもの、火炎放射で焼いて……」

隕石に炎が纏われた。

赤ヨツシー「キックだ！メテオストーム！」

ドガアアア！

ラーミラ「ぐわあああああ！」

アルファ「ラーミラ！」

ラーミラ「こうなったら・・喰らえ！召喚魔法フレイア！」

ズガガガガ

赤ヨツシー「あ、あれ！？まさか俺たちが小さくなった！？」

鎧「ま、まずいですよ！」

一方牢獄

月村サトシ「なんかあの飛行機こっちに来ないか？」

ウイイイイイン…

そこにいたのは、テレサだった。

だが、頭にパーティ用のトンガリ帽子をしている。

？「すいませーん。ここに、ウエスタンハットをしたヘイホーを見  
ませんでしたか？」

アクアイドは今がかぶってはいないが、普段はウエスタンハットを  
かぶっている。

月村サトシ「ああ、それならニュー・タウンにいますよ！」

アクアイド「まあ、それなりに行ってると思った。mission  
頑張ってくれるかな！」

ガチャツ

ベクトル「よっ、アクアイド！」

アクアイド「お前はベクトル！」

話によれば、アクアイドは仮の主催者で、全ての小説を主催してい  
たらしい。

そしてベクトルが逃走中の全ての仕事を終えたため、ベクトルが本  
当の投稿者だった。

月村サトシ「そうか！わかったぞ！」

月村サトシ「つまり1か月の間に・・・投稿者の名前がベクトルに  
なるんだよ！」

牢獄の中の逃走者「な、なんだったってー！」

本当になります。

アクアイド「ベクトルは俺の親友だ！それより大変なことが！」

赤ヨツシー「はあ、やっと元の大きさに・・・」

ラーミラ「マルドゥーク！」

バリーーーーッ！

赤ヨツシー「……………」

鎧「……！？……！」

マルドゥークの効果は沈黙！

言葉を話せなくなってしまう！

ベクトル「よしわかった！この俺が改造した改造飛行機で助けに行こう！」

アクアイド「任せた！」

ベクトル「お前の一つ右の家に住まわせてもらうな！」

アクアイド「よし、行け！」

ベクトルは旅立つ！

彼らを救うために……………

その頃

ベビルイージ「ウィンドパークにいれば、順風で勢いに乗って速く逃げられる……………」

そこに……………

ハンター3「！」

ハンター・・・

ベビイルイージ「ハンター！？よし！行くよー！風になるんだー！」

だが・・・

ベクトル「待つてるよ赤ヨッシー！鎧！フルスピードだ！」

ビュオオオオ！

ベビイルイージ「えええええー！嘘ー！」

なんと、ベクトルの飛行機が通った時の風で風向きが逆になってしまった！

ベビイルイージは風の抵抗を受けないハンターから逃げられない！

「ポン」

ベビイルイージ「嘘ー・・・肝心な時に限って風が逆になるなんて・・・」

ベビイマリオ「そんな・・・ウインドパークでベビイルイージ確保残り46人。弟が捕まっちゃった・・・」

ジヨー「お前は弟が捕まって悲しいのか？それなら、弟の分まで逃

げ切るんだ！約束しただろ！」

ベビィマリオ「分かった！ベビィルイージ、僕は逃げ切る！」

## 逃走中影の侵略者（後書き）

### 次回予告

飛びあがれ！ベクトルの改造飛行機！

改造飛行機は2人を助けるために！

ベクトル、彼の改造が飛行機に施したものは！？

そして、ラーミラを倒し、通報部隊を帰還させられるのか！？

新キャラの登場で、話が180°動いた！

### 次回第61話

「改造飛行機天を飛べ！」

君たちも、天へ飛び立つ翼となれ！



## 改造飛行機天を飛べ（前書き）

話をしよう。

あれは・・・3日前の出来事だったかな。

次回予告だったね。

あれをやめるよ。

マリオ「またか」

そして、残りの追加逃走者はいつかにします。

## 改造飛行機天を飛べ

滝の下登山道トンネル

ブラウンクリッター「ハンターなんて、逃げればいいんだろ？簡単！」

しかし、近くの行き止まりの陰で・・・

ピンクヨッシー「ハンターなんて、速すぎる。だから、かくれんぼだよ。逃走中は。」

言っていることと足の速さがまったくかみ合わない2人。

しかし・・・

ハンター1「！」

ハンターに見つかった・・・

ブラウンクリッター「ははっ、逃げればいいんだろ？」

だが、ブラウンクリッターは足が遅い。まあ、クリッターでは速いんだが・・・

気付いた時には、5mとなっていた。

ブラウンクリッター「……………！？ギャハー！」

「ポン」

ブラウンクリッター「油断しすぎた……」

ピンクヨッシー「ほら言わんこつちやない……」

自信を持ちすぎた故の結果だ……

遺跡公園入口

ブルークリッター「ブラウンクリッター確保残り45人……」

ドガアア！

ブルークリッター「な、なんだ!？」

そう、テン・カウントでは……

赤ヨッシー「ファイアーブラスト!」

バシュバシュ!

ラーミラ「グレートデーモン!守れ!」

グレートデーモン「ごわあ!」

ラーミラ「避けてどうす!ギャアアアア!」

鎧「行くぞ!」

ラーミラ「させるか、ラミアンナーガ！」

チャルメラ攻撃が2人を襲う！

ラーミラ「チャルメラ言うな！」

赤ヨツシー「昼ご飯はチャルメラに限るよな！」

鎧「あ、はい！そうですよね！」（本当は全然食べてないけど赤ヨツシーに乗った）」

ブルークリッター「陰からでも凄い勝負だな・・・見てて分かる。」

トントン。

突然、誰かが肩をたたく。

ブルークリッター「？」

ハンター5「はい！」

「ポン」

ブルークリッター「えええ！いつの間に!？」

キングテレサ「ブルークリッター確保残り44人」

ラーミラ「なんか悲鳴が聞こえたか!？」

ファイヤーミサイル！

ドガア！

ラーミラ「あつ！お前ら、人の隙を見て攻撃するな！」

ベクトル「悪い！俺が攻撃した！」

ラーミラ「な、何だお前は！？」

ベクトル「ガトリング砲！」

ドドドドド！

ラーミラ「うわあ！」

アルファ「2人とも、いったん帰還！」

ラーミラ「はい！トランスシエイプ！」

赤ヨツシー「なっ・・・消えた...！？」

とりあえず、退けることはできた。

鎧「じゃあ、鍵は1人につき1つしか開けられませんから、手分け  
しましよー！」

赤ヨツシー「じゃあ、2つ持って、誰かに渡すよ。」

鎧は周辺の散策を始めた。

その頃

ベータ「アルファ、ダイビング・スポットにアルティメッターの箱を発見した。今から運ぶ。」

ガンマ「あーあ、こんなことになるんなら鍵そのまま持っていけばよかったかな。」

アルファ「よしよし、これで宝箱は取り戻せる・・・1からになるが・・・」

鎧「あっ！テン・カウントに帰還ボックス発見！えっと、鍵を回して、レバーを引けばいいのか・・・」

バリバリバリ・・・

鎧「えっ？」

ババーツ！

鎧「え！光線！？」

通報部隊C「速く誰かを通報したいな・・・」

バー！

通報部隊C「ぎゃああー！なんじゃこれはー！ー！ー！？」

ドッカーン。

青ヨッシー「何ださっきのは……」

プルル

アクアイド「青ヨッシー。どうした？」

青ヨッシー「あれは帰還というより爆破では……」

アクアイド「いいや爆破じゃない例え爆破だったとしても

爆破という名の帰還だ！」

青ヨッシー「はあはあ、そうですかい……」

水色ヨッシー「あっ！宝箱……」

パカッ

キャンドル・ムヨーノキー

これは、ムヨーノの扉をあけることができる。

つまり、通報部隊の帰還は水色ヨッシーに託された……

テレサ「おおー、これは！」

テレサもレイクピアキャッスルの帰還ボックスを発見した。

テレサ「そうだ、鎧に連絡するかな・・・」

ハンター4「！」

だが、ハンターに見られた・・・

鎧「テレサさん、どこにあるんですか？」

テレサ「ああ、あのレ・・・ってえ！？ぎゃああー！」

鎧「テレサさん！？ちょっと！？」

テレサ「のわあああ！」

テレサは絶叫の滝をつなぐ橋を渡り、なんとかまいた・・・

赤ヨツシー「鎧、テレサは何て言った？」

鎧「それが・・・」「レ」らしいです。」

赤ヨツシー「えーと、レで始まるスポット・・・あつた！」「レイクピ  
ア・キャッスル」だ！」

鎧「行ってみてください！」

だが、こうしている間にも次のmissionが始まる・・・

ベータ「よし、引き上げるぞー！」

ゴゴゴゴ・・・



箱が動いた。

残り46時間

ブルルル

青へいほー「mission12・・・」

紫キノピオ「うわ、今から30分以内にほかの逃走者の携帯のコードを読み込ませないと強制失格だって。」

デイジー「今は、通報部隊もいる・・・結構ハードね・・・」

赤ヨツシー「とりあえず、誰かを見つけて鍵を渡さないと・・・」

おい、デュエルしろよ

ベータ「アルファ！あれは全くの違う箱！ウェッジ島に本物があつた！」

アルファ「そうか、海底洞窟に鍵があるらしい。どっちがどっちで行くか……」

じゃんけ……

アルファ「遊戯王で決めよう！」

ええーっ！時間かかるぞ！？

ベータ「お前！遊戯王といえばこの前、俺とガンマでケーキをかけてやった時にお前食べたたる！」

アルファ「では、遊戯王のカードをセットだ！」

ベータ「無視するな！ちなみにカードは全てオリジナルだ！」

ベータ・ガンマ「デュエル！」

ベータ HP 4000

ガンマ HP 4000

ベータ「先攻は俺だ！俺はレベル1のメカヨッシーを召喚！」

メカヨッシー レベル1 攻撃力500 守備力200

ガンマ「なんだ、ザコか。」

ベータ「メカヨッシーのモンスター効果！メカヨッシーは1回目の召喚時のみ、プレイヤーの手札にあるトラップカードの数だけタマゴトークンをフィールドに呼ぶことができる！」

ベータ「俺の手札にトラップカードは2枚！タマゴトークン2体召喚！」

タマゴトークン 攻撃力100 守備力300

ベータ「タマゴトークン1体を守備表示にし、カードを1枚伏せてターンエンド！」

ガンマ「ドロー！俺はガレオン・ハンターを召喚！」

ガレオン・ハンター レベル1 攻撃力700 守備力300

ガンマ「カードを1枚伏せて、ターンエンド！」

ベータ「ドロー！タマゴトークンのモンスター効果！」

ガンマ「何っ!?!」

ベータ「タマゴトークンが1ターンたった時、タマゴトークンを生贄に攻撃表示からロードヨッシー、守備表示からパラインヨッシーが特殊召喚される！」

ガンマ「な・・・」

タマゴトークンが割れ、中から聖騎士ヨッシーと勇者ヨッシーが生まれた。

ロードヨッシー レベル3 攻撃力1500 守備力1000  
パラディンヨッシー レベル3 攻撃力900 守備力1700

ガンマ「うわっ！強い奴2体も出しやがった！」

ベータ「メカヨッシーで、ガレオン・ハンターを攻撃！」

メカヨッシー「ビームプラスト！」

ドガガガガ！

ガレオン・ハンター「グワアアアア！」

ドガアアア！

ガンマ「ぐあっ！」

ガンマHP 4000 3800

ガンマ「ガレオン・ハンターのモンスター効果！ガレオン・ハンターが破壊されたとき、手札にあるガレオン族を全員特殊召喚する！」

ガンマ「俺の手札にあるのは、ガレオン・シユラウドとガレオン・バーナー、ガレオン・ウイング！」

シユイーン！シユイーン！シユイーン！

ベータ「3体だと!？」

ガレオン・シユラウド	レベル3	攻撃力300	守備力1900
ガレオン・バーナー	レベル2	攻撃力1000	守備力700
ガレオン・ウイング	レベル2	攻撃力900	守備力800

ベータ「ガレオン・シユラウドはかなり守備力が高いな・・・カードを1枚伏せてターンエンド！」

ガンマ「ドロー!俺はガレオン・シユラウドを守備表示に変更する。そしてガレオン・ウイングでメカヨツシーに攻撃！」

ガレオン・ウイング「ウイングブーストアタック！」

ズガアア!

メカヨツシー「・・・」

ドガアン!

ベータ「のわあああ!」

ベータHP 4000 3300

ガンマ「よっしやー!」

ベータ「甘い!トラップ発動!」レベル+「!」

ベータ「このカードはフィールド上にいるモンスターが2体以上の

時、いずれかが破壊されたときに1体のレベルを足して特殊召喚ができる！」

ベータ「俺はパラディンヨッシーを生贄に、ソードマスターヨッシーを召喚！」

ソードマスターヨッシー レベル4 攻撃力1900 守備力1500

ガンマ「うわ、結構強そうだ・・・カードを1枚伏せてターンエンド！」

一方本家では

黒へいほー「クツパ、お前折角いるんだから認識させようぜ。」

クツパ「ああ。」

ピピッ

黒へいほー クツパ 残り2人

黒へいほー「お前、よく残ってるな、あの黄色ヨッシーでさえ早々に敗退したのにお前は足が遅いながら、1日も残ってる。」

クツパ「ああ！」

一本杉

青へいほー「ああ・・・何でここにきてこんなmissionが・・・

」・

5分前

青ヘイホー「ここなら一本杉で通報も隠れてしにくいし、みつかったもデング・ナマンガ火山の円形の形でうまくやり過ごせるぞ。」

青ヘイホー「な、何でこんな時に……動けば通報……でも動かないと強制失格……誰か通って……」

しかし……右からハンターが来た……

青ヘイホー「あわわわ……ハンターだ……」

少しずつ体を動かし、なんとか見つからずに済んだ……

ルカ「おっ!!」

青ヨツシー「よし、ケータイ認識つと!!」

ピピッ!

ルカ 青ヨツシー 残り2人

一方手頃な感じの無人島では

ベータ「ドロー!ロードヨツシーで、ガレオン・シユラウドに攻撃!!」

ガンマ「おい!俺のガレオン・シユラウドは守備力1900!お前

のロードヨッシーは攻撃力1500だぞ!？」

ベータ「リバーズカードオープン!「パラメータスロット」!これは、スロットで選ばれたモンスターの関係ある能力値を、2倍か、2分の1にする!」

スロットの結果

ガレオン・シユラウド 2分の1

1900 950

ガンマ「なっ・・・」

ロードヨッシー「キラーセイバー!」

ズシアアアアア!

ガレオン・シユラウド「ギヤアアア!」

ドカアアア!

ガンマ「だああああ!」

ガンマ HP 3800 3250

ベータ「どうだ!」

ガンマ「だ・・・だが!トラップ発動!「パワーエナジー」!」



ガンマ「これは破壊されたモンスターの攻撃力をほかのモンスターに移せる!といても、300しかないけどな!俺はガレオン・バーナーに300ポイントプラスする!」

ガレオン・バーナー 1000 1300

ベータ「俺はカードを2枚伏せて、ターンエンドだ!」

ガンマ「ドロ!俺はガレオン・ウイングに伏せカード「スナイパーライフル」を使用!」

ガレオンウイング 900 1400

ガンマ「行け!ガレオン・ウイング!」

ベータ「こうなったら、トラップ発動!」

ガンマ「そのカードは・・・!?!」

次回、ベータが出す謎のカード・・・

必殺、遊戯王は運とデッキ（前書き）

あらすじ

ガンマ「ガレオン・ウィングの特殊効果！装備カードが装備されている場合、ガレオン・ウィングはダイレクトアタックができる！」

ベータ「なら、このカード！トラップ発動！」



ベータ「残念ながら、このカードは最初の行動にしか使えない！」

ソードマスター「ヨッシー」隼切り！」

シュパアアアア！

ガンマ「どあっ！」

ガンマ HP 2550 1600

ベータ「カードを2枚伏せ、ターンエンド！」

ガンマ「ドロー！俺はガレオン・ウイング、ガレオン・バーナーを生贄に、ガレオン・ウイングDXとガレオン・マニューバーを召喚だ！」

ベータ「な！あのDXだと！・・・でもDXは4だぞ？」

ガンマ「リバーズカードオープン！「階段一つ飛ばし」！これはレベルを1つ飛ばして召喚できる！」

ガレオン・ウイングDX レベル4 攻撃力2000 守備力12

00

ガレオン・マニューバー レベル3 攻撃力1000 守備力10

00

ベータ「マニューバーは1000・・・これは裏がある・・・」

一方

緑ヘイホー「滝見橋は水で水分補給ができていいな・・・」

そこに

ジョー「おっ・・・逃走者か・・・」

ベビイマリオ「あっ！あっちからも・・・」

緑パタパタ「みなさん！」

緑ヘイホー「奇遇ですね！あっさりmissionクリアです！」

ピピッ

緑ヘイホー ジョー ベビイマリオ 緑パタパタ mission  
クリア

赤ヨツシー「誰か鍵の後継者を探さなくては・・・」

だが、キャンドル・ムヨーノの鍵は水色ヨツシーの手に！

赤ヨツシー、水色ヨツシーと出会えるのか！？

必殺、遊戯王は運とデッキ(後書き)

短編です。

変幻自在のケータイ認識術（前書き）

ベータ 伏せカード2枚

ガンマ 伏せカード0枚

mission12補足

逃走者3人のケータイを読み込ませないといけない。

最近ニコニコ大百科を見て気付いた。

まさかラストストーリーのエルザがウルトラマンゼロの声と一緒にだつたとは。

マリオ「所さんもびっくり！」

全員「するか！」

## 変幻自在のケータイ認識術

ガンマ「俺はガレオン・ウィングDXでロードヨッシーを攻撃！」

ズバア！

ロードヨッシー「くっ！」

ドガア！

ベータ「のわあああ！」

ベータ HP 1900 900

ベータ「ラーミラに借りてた聖剣伝説3のカードを使ってみるか・  
・トラップ発動！「ハーフバニッシュ！」」

ベータ「このカードは攻撃したモンスターと破壊されたモンスターの攻撃力の合計÷5を相手に与える！」

バシューーン！

ガンマ「うおおああ！」

ガンマ HP 1600 900

ガンマ「それなら・・・ガレオン・マニューバーでソードマスターヨッシーに攻撃！」



ガンマ「こいつのモンスター効果は、1回攻撃するたびにパラメータが変わる！1回目は上になる！その次に攻撃するときは下のパラメータが変わる！」

上 攻撃力2000 守備力500  
下 攻撃力500 守備力2000

ベータ「何！」

ドガアアア！

ソードマスターヨッシー「のわあああ！」

ドガアア！

ベータ「くっ！」

ベータ HP 900 800

ガンマ「よし！これでもうお前には勝ちはない！ターンエンド！」

ベータ「駄目だな、君……」

ガンマ「何！？」

ベータ「ドロー！俺はマジック「ユニコーンヘッド」を使用！」

ガンマ「それは一体……」

ベータ「これは、1番これを使う前に速く倒されたモンスターの攻

撃力÷2を相手に与える！」

ガンマ「何ー！」

ズバアア！

ガンマ「うわ・・・もうちょっとという所で・・・」

ガンマ HP 9000

アルファ「じゃあ、ベータは宝箱ひきあげ、ガンマは海底洞窟の鍵を持って帰ってくれ。後、ラーミラ、レーヴァスもな。」

4人「はっ！」

一方

通報部隊B「おっ・・・いたぞ・・・」

通報部隊B「？、星くずビーチにいる。」

ハンター3「OK。じゃ行くか！」

通報されたのは・・・

パタクリボー「ぎゃああああー！」

パタクリボー「・・・」

ラクダ岩を通る！

パタクリボー「よし、この先のパウダーホワイトビーチなら広いから振り切れるはずだ！」

だが・・・

マーベラス「何ハンター連れて来てんだ！」

キングテレサ「ひゃああああー！」

2人も巻き添え・・・

パタクリボー「うおわああああー！」

「ポン」「ポン」「ポン」

なんと3人そろって牢獄行き・・・

かと思いきや・・・

キングテレサ「高圧レーザー！喰らえー！」

バーツ！

ハンター3「ギエエエエエエエエエエ！」

ハンター3は灰になった…

そして、さっきのはフェイク。3人は確保を免れた。

マーベラス「お前、俺をよく助けてくれたじゃねーか。気に入った。

」

キングテレサ「そりやどうも。」

テレサ「おおーっ、キングテレサが高圧レーザーでハンターを焼いたため、ハンターは4体に減った。やった！」

その後

赤ヘイホー「凄いですね！実は僕もあのハンターを警戒してたんです。」

キングテレサ「おっ！4人そろった！」

マーベラス「そうだな、ケータイ使うか。」

ピピッ

マーベラス キングテレサ パタクリボー 赤ヘイホー miss  
ionクリア

プール・テラス近くの海岸

紫キノピオ「よし、2人と出会ったと。」

赤マーレ「!?!?ない!」

ボスパツクン「な、ないぞ!」

紫キノピオ「ええーっ!ケータイをなくした!?!」

どうやら話によると、2人は3分前、パーム・ツリー・ロードでハンターに襲われたが、同じ場所に居合わせたハカセに狙いを向けていたが、そこで落としたりらしい。

・・・で、そのハカセはどうなったかというと。

ハカセ「うおおああ!」

ブラッディカロン「さっき巻き添えにされた!」

・・・が。

心臓破りの坂付近

ハンター2「あれーっ……どこ行つたんだ……」

ハカセ「良かった……このスポット「ダイチャブ岩のカケラ」に隠れて良かった……」

ブラッディカロン「全くだよ……」

その頃2人のケータイは

パーム・ツリー・ロード

ルカ「何これ？」

2人で同行動を続けていたルカと青ヨツシーに拾われていた。

青ヨツシー「……ケータイだな。誰かが逃走中に落として行ったんだろう。」

ルカ「ねえ、これ認識して良くない？」

青ヨツシー「……そうだな。別に拾ったケータイじゃ駄目っていうルールは無いし。」

ピピッ

ルカ 青ヨツシー missionクリア

赤マーレ ボスパックン いつの間にか後1人ずつ

ルカ「・・・というかさ、もうこのケータイ同士認識させ合っ  
て良くない？」

青ヨツシー「そうだな。」

ピピッ

赤マーレ ボスパツクン いつの間にかmissionクリア

青ヨツシー「どうやらこれは赤マーレとボスパツクンのケータイ  
みたいだな。」

ルカ「いい忘れたけど、認識させると、そのケータイを持っている  
逃走者の顔が認識画面に登録されるからね。」

青ヨツシー「じゃあ同行動を続けて、赤マーレとボスパツクンを見  
つけたら返そう。」

ボスパツクン「ごめんな・・・」

紫キノピオ「あーあ・・・せっかく出会えたと思ったのに・・・」

赤ヨツシー「まずはレイクピア・キャツスルへ行つて1体帰還、そ  
の後、鍵の後継者を探さなくては・・・」

赤ヨツシーは今、鍵の後継者を探しながら、滝見橋の近く、滝の下  
登山道トンネルを通り、レジャー・ビークルが止まっている所を通  
って、レイクピア・キャツスルへ向かっている。

一方、水色ヨツシーは、先程ネコス・ナデスの砂地で鍵を取り、暗

い洞窟を通り、怪しいと感じたキャンドル・ムヨーノへ向かうため、心臓破りの坂を自転車キットで走り抜けた。今自転車キットの期限が切れ、レッド・ゲート・ブリッジを渡っている。

果たして、この2人が出会うことはあるのだろうか！？

そして次回、通報部隊が通報を重ねる！



変幻自在のケータイ認識術（後書き）

結構書けたような気がする。

**通報部隊とハンター（前書き）**

今回はミニストーリーです。

## 通報部隊とハンター

通報部隊A「あつ！あつちに・・・アイム、森林公園にいる！」

ハンターA「オツケー。」

通報部隊A「あ！ジョー、遺跡公園入口にいる。」

ハンターB「行くぜ！」

通報部隊B「レッドクリッター、嘆きのダイチャブ岩にいる。」

ハンターD「あ・・・ああ！」

通報部隊B「あつちにも・・・黒ヘイホー、スイート・ビーチにいる。」

ハンター4人「いい加減にしろ！」

通報部隊2人「はあ？早く捕まえに行けよ！」

ハンター4人「お前らは確かに通報するだけだよ、俺たちは捕まえに行かなくちゃならないんだぞ！その大変さが無いからだ！」

ハンターD「（そうだ、こんな作戦は・・・）」

ハンターA「（ああ・・・）」

通報部隊A「全くやになるな・・・」



ルイージ「このため、ハンター2人 通報部隊4人となり、ハンターに出会うことが少なくなったものの通報を受けやすくなった。」

ヨッシー「これって意味があるんですかね……。」

## 復讐を誓うハンター

通報部隊A「前回の事で立場が逆転された・・・」

そう、通報部隊がハンター、ハンターが通報部隊になった。

だが、飛行機は2つしかないため、飛行機を帰還させると、一気に2人減らすことができる。

ハンター1「さーて、早速通報するか・・・」

ハンター2「よし、見つけたぞ・・・」

通報されるのは・・・

ベビィDK「通報部隊が増えて大変だ・・・」

ベビィDK・・・

ハンター1「ベビィDK、ラクダ岩周辺にいる。」

通報部隊A「くっ……しょうがない！行くぞ！」

ベビィDK「ひ、ひえー！」

通報部隊はハンターより少し遅いとはいえ、ベビィDKの速さでは巻き切れるはずがない……

「ポン」

ベビィDK「うわ……捕まった……」

ハンター4「通報によりベビィDK確保。残り43人。いい具合に確保できてるじゃん。」

通報部隊A「くっ……逃走者を追うのがこれ程までにも辛いこととは……」

一方

ハンター5「おっ、あつちにタイニーコングが……通報っと。」

その頃

ルイージ「あつ、宝箱。」

パカッ

中に入っていたのは、電波器が付いたりモコンだった。

ハンター5「えーと、タイニーコング・・・」

ルイージ「レバーがある。引いてみよう。」

グイッ

ガガガガガ・・・

ハンター5「なんだ！？急に通報装置が使えなくなっただぞ！？」

よく見ると、宝箱の中に説明書があった。

ルイージ「えーと、これは「通報通信妨害機」レバーを引くと1回きりのみで、5分間通報が不可能になる。よし、いいものを出した。」

その頃

ルカ「あっ！いたよ！」

赤マーレ「ああ、良かった！」

こうしてホテル・シーサイド・スーペリアでケータイは返された。

その後

紫キノピオ「よし、4人も来てくれたおかげであっさりクリアだ。」

ピピッ





プルルル

黒ヘイホー「ハンター帰還ボックス2つ目が引かれ、残るは1機になった。ちなみに、mission12は裏でいる進み、残り8人となった。その8人を紹介しよう。なお、認識は3人認識させていても出来るようになってる。」

青ヘイホー 残り2人—（近くを通りかかったクツパジャーと認識しあつたが、ハンターが来て結局今も一本杉にいる）

テレサ 残り1人—（キングテレサ、ボスパックンと同時に認識、今は第二環状線トンネルの近くにいる）

水色ヨツシー 残り1人—（ムヨーノへ向かう途中の動かずの時計台のあたりでジョーと認識し合い、今はサンセツト岬）

赤ヨツシー 残り1人—（鎧と一回合流して認識、その後レジャー・ピークル近くにて緑ヘイホーと出会う。今はダウリング湖。）

ジョー 残り1人—（水色ヨツシーと出会った後、ジヨギングエリアにてブーメランプロスと出会う。）

青キノピオ 残り1人—（星くずビーチにてアイム、ハナチャンと出会った）

ブラッディカロン 残り1人—（ハンターから隠れた時にハカセ、見晴らしの丘でルイーダと出会った）

キノピコ 残り2人—（嘆きのダイチャブ岩でヨツシーと出会った）

赤ヨツシー「キャンドル・ムヨーノに早く行ってみたい……」

怪しいと感じたようだ……

だが、早く行くための救世主が目の前に！

その正体やいかに!?

## 風に乗って灯台へ

水色ヨツシー「いい忘れましたが、僕はチャンバラ・コロシウム付近でレッドクリッターさんとも交しましたよ。」

赤ヨツシー「これは・・・ハンググライダー！」

マイク（特別出演）「ああ、これは新作で出たやつで、もう新しいのに替えるからあげるよ。」

赤ヨツシー「それにしても、マイクってさ、初見が見た瞬間「あっ！ダウンタウン松本だ！」って言われるからさ、もうまともに名前変えたら？」

マイク「それは禁則事項です。」

赤ヨツシー「よし、行くぞー！」

バサツ・・・

ハンググライダーが、ゆっくり翼を動かしつつ飛び始めた。

赤ヨツシー「ん？なんだ？」

鳥たちが、ハンググライダーを突き始めた！

赤ヨツシー「うわああ！やめる！これは食べるものじゃない！」

ビュン！

赤ヨツシーは何とか翻した・・・

が！

ゴオオオオ！

赤ヨツシー「何だか風がすごく強くなってきたような・・・」

赤ヨツシーの目に飛び込んできたのは、まぎれもなく風車だった！

赤ヨツシー「し、しまった！キャンドル・ムヨーノよりまっすぐ北に当たるところから飛ぶと、最悪なポイントがあった！」

そう、ウィンド・パークだ・・・

ゴオオオ！

mission12終了まで残り2分

赤ヨツシー「ひゃあああああ！」

風に流される赤ヨツシー・・・

その頃

森のダイチャブ岩

キノピコ「あれは一体・・・」

ハンググライダーを見て不思議に思うキノピコ。

そこに・・・

ジョー「お、逃走者か・・・」

青キノピオ「やった逃走者です！」

キノピコ「あー、良かった。2人認識させないといけなかったから。」

ピピッ

キノピコ ジョー 青キノピオ missionクリア

青ヘイホー「あわわわわ・・・」

青ヘイホーはハンターに敏感すぎて、一步も動けていない。

そこに・・・

パタパタ「あ、青ヘイホーさん。」

デイジー「奇遇だね、ここで出会うなんて。」

青ヘイホー「あああああ・・・良かったあ・・・」

ピピッ

青ヘイホー missionクリア

テレサ「灯台に誰かいそうな気が・・・」

水色ヨツシー「あ！テレサさん。」

テレサ「良かった！水色ヨツシーはまだクリアしていないのか？」

水色ヨツシー「はい、認識しましょう！」

ピピッ

水色ヨツシー　テレサ　missionクリア

これでmission未クリアは赤ヨツシー、ブラッディカロンと  
なった。

水色ヨツシー「でも肝心の鍵を持っていないんですよね・・・」

残り30秒

ブラッディカロン「一時期はカロンが俺だけになったこともあった  
しな・・・残りたい・・・」

そこに・・・

ブラッディカロン「あ、逃走しよ・・・」

通報部隊B「・・・」

ハンターとなった通報部隊・・・





そのまま、ウーファーアイランドを飛び出してしまった！

「赤ヨツシー」もう逃走中なんてどうでもいいや。観光しようとする……」

ドガア！

赤ヨツシー「グハッ！」

海上にあったスポット「ポセイドンの指輪」に真正面から突撃してしまっただ！

ヒュウウウウウ……

バシャーン！

赤ヨツシーはそのまま漂流することになった……が、3分後に戻ってきた。

mission12終了

水色ヨツシー「それっ！」

グイッ

ドララララ……

オーロラレーザーが放たれた。

ハンター1「さっきの確保情報によると、ブラッディカロン確保残

り42人らしい。」

ハンター2「はあ・・・」

バシューッ！

飛行機は凍りついた。

ヒュウウウウ・・・

ガッシャーン！

ホテル・シーサイド・スーペリアに墜落。もちろん中にいた住民全員死亡ですよ！？どーしてくれんの！？

プルルル

赤ノコノコ「mission12は赤ヨツシーが強制失格になった残り41人。mission11はクリア。」

これまでの確保者

キャサリン

ワリオ

クリボー

ワルイージ

黄キノピオ

黄色ヘイホー

デイデュー

カロン

青モンテ

青マール

緑カメック

黄色モンテ

ドンキー

カメック

ブルーカロン

ノコノコ

黄色カメック

チヨロプー

緑キノピオ

ピーチ

キノじい

赤モンテ

ディクシー

ファンキーコング

ヘビィピーチ

黄色ヨツシ

ベビィルイージ

ブラウンクリッター

ブルークリッター

ヘビィDK

ブラッディカロン

赤ヨツシ

確保者 32人

生存者 41人

マリオ「あれ？76人じゃないのか？忘れてたら通報願いまーす。」

一方

ベータ「よし、宝箱が引きあがったぞ！」

その時、なぜかウーファイランドに向かう高速ライナー・アルバトロスに26体のハンターが転送された・・・

そして着いた時・・・

ハンターA「よし、上がるぞー！」

25人「おう！」

緑ヘイホー「な、何だあれ、大勢のハンターが・・・」

その時

プルルル

クツパ「なんだ？mission13・・・」

黒ヘイホー「ベータが宝箱を引いた時、遠隔操作で装置が起動してアルバトロスから26体のハンターが放出された。」

青キノピオ「そこで突然だが、君たちにはスイート・ピーチ号に乗り込んでいってほしい。モニターが付いているので、それからの指示は着いてからにする。」

青ヨッシー「一体何が始まるというのです？」

ルカ「行くしか無いじゃん。」

青ヨッシー「……」

グイッ！

青ヨッシー「お、おい！引っ張るな！」

この2人、意気投合したのか、いろんな意味で仲のいいコンビになった。

次回、mission13の真の目的！

風に乗って灯台へ（後書き）

牢獄でトーク

マリオ「・・・なんか久しぶりだな。」

赤ヨツシー「はあはあ、身が引き裂かれそうになった・・・」

バタ！

デイディー「おおい！早く救急車を！」

テレサ「お化けの救急車」

「ゴーゴーファイブ！」

デイディー「いらねえ！救急車もつ来てるし！」

救急員「だ、大丈夫ですか！？」

赤ヨツシー「大丈夫だ、問題無い。」

バタ！

救急員「全然大丈夫じゃない！」

特殊隊結成！

45時間20分

アクアイド「良く考えてみると、これは通報部隊を休ませるいい機会かもしれない。おい、2人とも、休んでおけ。」

通報部隊2人「はい！」

だが・・・

赤ヨツシー「こちらレーヴアス、応答願います。」

ラーミラー（ハラハラつり橋周辺）「レーヴアス、良くやったな。お前は一度見た物をコピーできる。あの試合で見たよな。」

赤ヨツシー「はい。うまくやってやりますよ・・・」

アクアイド「さて、こっちもこっちだ。仕事を進めよう。」

一方

クイーン・ピーチ号

青ヨツシー「さて、これで全員そろったわけだが・・・」

プルルル

黒ヘイホーのケータイからのみ鳴った。



黒ヘイホー「これからの情報をモニターに映すといったが、予算の都合でベクトルに頼んだ。」

ベクトル「というわけで、mission13だよー！」

アクアイド「あ、そうそう、このmissionはこっちの奴らも関係するぞ。」

黄色モンテ「あ、そうなの!?!」

ベクトル「皆も知っている通り、26体のハンターが現れた。」

アクアイド「そこで、ハンター消滅隊を結成する。」

ベクトル「今からくじを引き、5人を選ぶ。」

「  
アクアイド「まず、確保者5人の特殊隊が10分間、滝見橋、レツドゲートブリッジより東のエリアで13体のハンターに軽い冷凍ハンドガンで攻撃し、数を減らす。その後、生存者5人の特殊隊が滝見橋、レツドゲートブリッジの西で13体のハンターの数を減らす。」

ベクトル「ちなみに、第一、第二環状線トンネルよりも南のみのエリアを使う。」

「  
アクアイド「じゃあ、交互にくじを引いていくぞ。まずは確保者がらだ。」

「  
アクアイド「じゃあ、まず1人目。」

ダラララララ……

ジャン！

アクアイド「緑キノピオ！」

緑キノピオ「よし！やっと活躍の場が来た！」

ベクトル「こっちの1人目！」

ダラララララ……

ジャン！

ベクトル「ルカ！」

ルカ「じゃあ、やっていこうかな。」

アクアイド「2人目、入りまーす。」

ダラララララ……

ジャン！

アクアイド「えーと、青マーレだつて！」

青マーレ「やった！」

ベクトル「次行きまーす！」

( r y

ベクトル「青ヨツシー！」

青ヨツシー「よっしゃ！」

アクアイド「3人目だ！」

( r y

アクアイド「ベビイルイージ！」

ベビイルイージ「よし！少しの間活躍の場が見せられる！」

ベクトル「こつちも行くよー。」

( r y

ベクトル「ルイージ！」

ルイージ「一度はハンターにもなったけど、今回は逃走者のために頑張るよー！」

注 ルイージは普通の逃走者になっています。

アクアイド「4人目！」

( r y

アクアイド「ブルーカロン！」

ブルーカロン「あの確保はデイジーさんのために身代わりになったんです！今度もデイジーさん達の役に立ちます！」

ベクトル「4人目行くぜ！」

(ry

ベクトル「デイジー！」

デイジー「そつちもブルーカロンが入ったみたいだけど、私もそれなりの記録が出るように努力するわ！」

5人目

アクアイド「よし、最後だ！」

(ry

アクアイド「赤キノピオ！」

赤キノピオ「えっ・・・僕ですか！？この裏切り者の僕が！？」

アクアイド「何を言っている！ルイージだって努力しようとしてるんだぞ！」

周りを見ると、温かい目で見守る逃走者たちがいた。

赤キノピオ「はい！頑張ります！」

ベクトル「よし！最後行くぞ！」

(ry

ベクトル「……クツパ。」

ルカ「ちょっと！なんであんなのよ！」

青ヨツシー「そうだよ……お前全メンバーだったとしても一番足が遅いんだぞ？」

ルイージ「そうだ！なんでお前が出たんだ！」

デイジー「なんで！？あなた出たらガタ落ち！」

しかも……

緑キノピオ「全く……お前は出るなどあれほど言っただろっ!？」

クツパ「い、言ってん」

青マーレ「もう出るな！」

ベビールイージ「デルナーゼ！」

全員「デルナーゼって何だよ！」

ブルーカロン「僕の救ったデイジーさんの戦力が……」

赤キノピオ「はあ。」

月村サトシ「なあ、どうする?」

ベクトル「そりゃあ勿論ひき」

ビシャーナー（アクアイドの例の装置）

ベクトル「な・・・おさない!」

特殊隊メンバー

確保者特殊隊

緑キノピオ

青マーレ

ベビイルイージ

ブルーカロン

赤キノピオ

生存者特殊隊

ルカ

青ヨツシ

ルイージ

デイジ

クツパ

今回は確保者特殊隊のハンター狩り!

## ひと狩行こうぜ！（前書き）

ちなみに、森林公園などは確保者たちの専売特許。  
ハンターA～Mが確保者  
ハンターN～Zが生存者。

ひと狩りにじせー！

ゲームスタート

ベビルイージ「さーてと、まずはパーム・ツリー・ロードに……いた！」

ハンターM「あわわわわー！」

ハンターもそれなりの足の速さで逃げるが、ベビルイージもなかなか速い。

ベビルイージ「いけーっ！」

バシユン！

ドガッ！

ハンターM「……」

ハンター、凍結<sup>フリーズ</sup>……

残り12体

ハラハラつり橋

ブルーカロン「うわあ……こんな所でハンターと……」

ハンターH「俺たちは落ちたら死ぬかもしれない……」



ブルーカロン「今だっ！」

ハンターH「のあっ！」

ハンター、凍結<sup>フリーズ</sup>・・・

残り11体

青マーレ「心臓破りの坂・・・確かにハードね・・・」

ハンターA「良かった、ダイチャブ岩に隠れているなんて気付かずに・・・」

バシユ!

パキーン・・・

ハンター、凍結<sup>フリーズ</sup>・・・

マリオ「思っただが、これも番外編として入れて良くないか?面白くない。」

というわけで、これは番外編としてやる・・・かな。

カッティングネオ!

全員「なんだよそれ！」

つつわけで、両方2体ずつ残り、4体で行くことになった。

あっさり終わった回はサブストーリーを。

サブストーリー1

ラーミラとレーヴアスの買い物

アルファ「よし、ベータ良くやった。後はガンマが鍵を持ってくるだけだな。」

ベータ「なあ、これからの生活用品を買って来てくれないか？」

ラーミラ・レーヴアス「パシリかい！」

市街

レーヴアスは人に変身、ラーミラは顔の部分をフードで隠している。

ラーミラ「ここだ、「何でも総菜屋」」

ウィーン

店員「いらっしやい！」

レーヴアス「どうする？」

ラーミラ「……そうだな、「大根の煮物」は決まりだ。」

レーヴアス「ああ、2つ目は「鳥とブロッコリーの照り焼き」はど  
うだ？」

ラーミラ「ああ、でもなあ……」「鯖の味噌煮」もいいんだよ……」

2人「……」

ウィーン

店員「どうしました？」

2人「デュエル！」

なんと惣菜を決めるだけでデュエルすることになってしまった！

勝つのはどっちだ！

2を作る機会があったら続く

## 封印！史上最悪のハンター軍団

残り45時間

ガンマは海底トンネルの通路を通り、アルティメッターの鍵を探していた。

ガンマ「はあ、ここまで攻撃を受けるとは……」

40%は進んだ。

しかし……

ガンマ「扉が閉まっているな……あれ、こんな所にボタンと張り紙？」

「このボタンを押すと、扉が開く。」

ガンマ「なんだこりゃ。押すに決まってるじゃん。」

ポチ！

ヴオオオオオオン……

すると、海底トンネルに12体のハンターが現れた……

それだけではない……

曲がりくねった洞穴内部

そこにも12体のハンター・・・

ネコス・ナデスの砂地

なんと、ここにも12体のハンター・・・

滝の下登山道トンネルの先の行き止まり

ここにも12体のハンターが現れた・・・

環状線第一・第二トンネル

それぞれに6体のハンター・・・

なんと、これでハンターが60体現れた・・・

そして、2日目最悪のmissionが始動・・・

プルルルル

緑ヘイホー「レッドクリッターさん、missionが届いています

よ！」

レッドクリッター「mission14。」

ルイージ「トンネルにまつわる4つの場所に12体のハンター、2つの場所に6体のハンターが現れた。何だこの大雑把な説明は……」

デ이지ー「これから残り44時間までに、5分単位で12体のハンターがいるハンターボックスから1体ずつ現れ、10分単位で6体のハンターがいる場所から1体ずつハンターが放出され、合計60体のハンターが放出される。今の合計と合わせて、その数は最大64体まで増える。ええ！？はつきり言わないでよ！」

青ヘイホー「阻止するにはウーファイランド各地にあるハンター消去ボックスのレバーを引かないといけない。」

クリッター「なーんだ。こんなの簡単じゃん。」

紫キノピオ「だが、この消去ボックスは色によってハンターの消えるボックスが決まる。その組み合わせは下記参照。」

赤〓 海底トンネル

青〓 曲がりくねった洞穴

黄色〓 ネコス・ナデスの砂地

緑〓 行き止まり

水色〓 環状線第一トンネル

黄緑〓 環状線第二トンネル

青ヨッシー「いや……待てよ。これって普通に引くだけでもガ

ンガン減っていくんじゃないか？」

ルカ「そもいかないみたい。続きを読んでみて。」

お前らまだ一緒にいたのか。

青ヨツシー「さらに、これは番号の小さいものから引いていかないと作動しない。何だと!？」

ルカ「つまり、2を見つけても、1を引かないと駄目ってこと。」

青ヨツシー「なお、放出した場合、その番号の次の番号のハンターボックスは引くことができる。引けるかどうかは、上についているランプで分かる。」

mission 14

ガンマの押したボタンによって、4か所に12体、2か所に6体のハンターが入っているハンターボックスが転送された。

12体のハンターボックスは5分単位、6体のハンターボックスは10分単位でハンターが1体ずつ放出されていく。

阻止するハンター消滅ボックスは、色に対応している。

だが、番号の小さいものから引いていかないと、ハンターが消滅しない。

テレサ「これって12体のハンターボックスを消滅させる奴だよね  
・  
・  
・」

ダウリング湖にハンターボックスを見つけたテレサ。

色は緑、番号は3だ。

テレサ「そうだ・・・このボックスを画像を付けてほかの逃走者に  
一斉送信して、分かるようにしようかな・・・」

ハンター3「・・・」

テレサ「えーと、まずはあのボックスを撮って・・・」

テレサ「これがボックスです」一斉送信！」

ポチッ

テレサ「よし！これ・・・ってうわああ！ハンター来たー！」

テレサは必死に逃げる。

一本杉へと続くトンネルを潜り抜けるテレサ！

だが！

青へいホー「あれ・・・何で走ってるんだろ・・・」

テレサ「ハンターが来たー！」



青ヘイホー「ちょ、ちょっと！なに連れて来てるんですか！」

青ヘイホーはデング・ナマンガ火山の中へ駆け込む。

だが、ハンター3の狙いはずっとテレサのまま。

だが、テレサは異常なほどまでに粘り、なんと一周してきた！

このままでは埒が明かないと考えたテレサ。

テレサ「こうなったら・・・滝の下登山道トンネルを抜けて滝見橋の近くまで抜ける！」

しかし、ここからではかなりの距離がある。

テレサ「でも・・・生き残るにはこれしか道は無い！」

テレサは逃げることを決意した。

・・・なのだが、いよいよトンネルへ入るという時に・・・

クツパジャ「え!?!」

タイニーコング「ちょwwwwwwハンター連れてくんなww」

緑パタパタ「おわああああ！」

なんと、3人を巻き添えにした……

緑パタパタ「……？　そういえば、復活時に「激辛チョコレート」  
っていうアイテムもらったけど……これ、どうやって使うんだろ  
う……まあいいや、食べちゃえ！」

あかんそれ！死亡フラグや！

パクツ！

緑パタパタ「……ひええええ！辛すぎる！」

ドドドドドドド！

4人「ええええええ！」

辛さで走りが速くなった！

タイニーコング「きゃあああああ！」

テレサ「くっ……どうにかして、ここを通り抜けるまでに耐え  
きれないといけない！」

バツ！

何とか出られたのだが……

タイニーコング「きゃあああああああああ！」

タイニーコングが犠牲になってしまった・・・

が・・・

ハンター3「あ・・・あれ？ハンター3、アーチエリー・初級エリ  
アで逃走者を見失いました。」

ハンター1「じゃあ、その辺にまだいるかもしれない。とりあえず、  
探してくれ。」

ハンター3「了解！」

タイニーコング「はあ・・・助か×t」

「ポン」

タイニーコング「ってちょ！？」

ハンター3「あ・・・こちら3、あっさり見つかりました。」

ハンター1「良くやった。これからもがんばって確保に出向いてく  
れ。」

ハンター3「はい。」

牢獄

マリオ「タイニーコング確保！」

ドンキーコング「うわー！やられたー！」

キノじい「ってちょっと待ってくださいね。という事は……」

デイディー「コング全滅だよー！」

コング全員「うわー……」

ワリオ「やかましい！」

キングテレサ「残り40人か……ただでさえ難しいのに数が減るとさらに心細くなるよ……」

逃走者たちは、ハンター放出を阻止できるのか！？

次回、ハンター放出の嵐！逃走者たちは、本当に阻止できるのか！？

大事なことなので2回言いました。

マリオ「いらん！」

封印！史上最悪のハンター軍団（後書き）

補足として、海底トンネルのハンター達はマリンバイクで砂浜に上陸します。

## 天才クイズ君

テレサ「ああ……大変な目にあつた……」

テレサは今、絶叫の滝から町へ向かっている。

黒へいホー「どうした、テレサ？」

黒へいホーとも合流した。

テレサ「じゃあ、町で探しに行こう！」

ルイージ「おつ……黄色の2か……」

森林公園でハンター消滅ボックスを発見したルイージ。

その近くで……

赤へいホー「このあたりにボックスは無いかな……」

ハンター2「！」

しかし、ハンターに見つかった……

赤へいほー「わあ！ここで見つかるとは！」

だが、赤へいほーが逃げた先は「イカロスの崖」。最早逃げ道は無い……

赤へいほー「よし……行くぞー！決死のイカロスダイブ！」

なんと、赤へいほーは地面に体を向けて飛び降りた！

ドガアアアアア！

赤へいほー「ぎいいいいいやあああああ！」

赤へいほーは体を強く打ちつけ、行動不能になってしまった！

ルイージ「何やってるんだ……」

ブルルルル

水色ヨツシー「赤へいほーが逃げようとして崖から落ち、骨を多く骨折したため、強制失格。残り39人」

ハカセ「もう40人切ったのか……早いね……」

彼らは2人で行動している。

謎の遺跡テン・カウント

黒へいほー「あれ？これって……青の1だ！」



黒へいホーがボックスを見つけた。

黒へいホー「うわあ・・・後2分か・・・やっぱり1回で4体もでるのなら結構焦りが来るな・・・まあいいや、レバーを・・・」

グイッ

なぜか、レバーが下がらない。

黒へいホー「あ・・・あれ・・・？あ・・・下にモニターと「レバーを引く前に押してね」っていう張り紙があるボタン・・・まあ、押してみるか。」

ポチッ

パカラカジャジャーン！

黒へいホー「な、何だ！？」

クイズ君「どうも！僕はクイズ君です！いきなり問題！」

ジャジャ！

黒へいホー「・・・？」

クイズ君「この問題はなぜとかなくってはならないのでしょうか！」

黒へいホー「え〜と、「正解しないとレバーが下がらないから」だろっ。」

ジャツジャジャーン！

クイズ君「正解！後、ヒントとして、問題は解かれるたびに難しくなり、今から、ケータイのメール機能は使えなくなるよ！」

モニターからクイズ君が消えた。

黒へいほー「よし！」

グイッ

シュン！

その時、青のハンターボックスから1体のハンターが消え、残りは59体となった……

次回も、クイズに答え、ハンターを消去せよ！

## デュエルセカンド(前書き)

チャンバラ・コロシウムでのデュエル。

## デュエルセカンド

ラーミラ HP4000

レーヴァス HP4000

ラーミラのデッキ 聖剣伝説シリーズ

レーヴァスのデッキ ドラクエシリーズ

ラーミラ「先攻は僕が行こう！ドロー！僕はラビリオンを召喚！」

ラビリオン level1 attack600 defense  
400

ラーミラ「カードを3枚伏せてターンエンド！」

レーヴァス「ドロー！俺はスライムベスを召喚！」

スライムベス level1 attack700 defense  
e300

レーヴァス「カードを2枚伏せてターンエンド！」

ラーミラ「ドロー！僕は伏せカード「アクセラレータ」を発動！このカードが陣地にある場合、ドロー時に2枚のカードを出すことができる！」

ラーミラ「そして、マイコンドを召喚！」

マイコンド level1 attack300 defense

300

レーヴァス「あのモンスターなぜ能力値が低いんだ・・・？」

ラーミラ「カードを1枚伏せてターンエンド！」

レーヴァス「ドロー！俺は伏せカード「身削り」を使用！これは自分の体力500につき1レベルを増やし、特殊生贄召喚ができる！俺は2000ポイント体力を減らす！」

レーヴァスHP 4000 2000

レーヴァス「そしてスライムベスを生贄に、マジックアーマーを召喚！」

マジックアーマー level5 attack2800 defense2700 def

ラーミラ「4ターン目から攻撃力2800だと！？」

レーヴァス「さらに伏せ装備カード「デモンスピーア」をマジックアーマーに装備！」

マジックアーマー attack 2800 4300

ラーミラ「えええ！ありかそんなの！？」

レーヴァス「そして、マイコニドに攻撃！瞬殺！」

かっこっけんな！

レーヴァス「月村こんなところまではいってくんない！」

マジックアーマーが槍を構え、マイコニドを襲う！

ラーミラ「瞬殺はおあずけだ！」

レーヴァス「おい！させる！そのほうがいいだろ！」

ラーミラ「トラップ発動！「アンティマジック」！このカードは相手モンスター1体にかかっているマジック、装備カードの効果は無効にする！」

レーヴァス「何！」

マジックアーマーのデーモンスピアが消えた。

attackは2800になった。

レーヴァス「まあいい・・・攻撃！」

ズバツ！

マイコニド「ビイイイイ！」

ドガアア！

ラーミラ「くっくっく！」

ラーミラHP 4000 1500

レーヴァス「カードを1枚伏せてターンエンド！」

ラーミラ「アクセラレータの効果でダブルドロ―！僕はマジック「オーラウェイブ」を発動！これは自分のカード1枚を破棄するかわりに、自分、相手プレイヤーのHPを足した数を、500ずつ使い、自由に召喚ができる！」

ラーミラ「合計の体力は3500！つまり使えるレベルの数は7！」

ラーミラ「僕はラビリオンに3つ使い、生贄召喚でソードマスター、4つ使い、ニードリオンを召喚！」

ソードマスター	level 4	attack 2400	defense 2300
ニードリオン	level 4	attack 2300	defense 1400

レーヴァス「うわ、それなりな奴出してきやがった！」

ラーミラ「カードを1枚伏せてターンエンド！」

伏せカード

ラーミラ 2枚

レーヴァス 1枚

その頃逃走中では

青ヨツシー「なあ、ルカ、これって2人がかりで探したほうが効率

よくないか？」

ルカ「そうか。じゃあ、分かれて効率よくと！」

2人は分かれた。

青ヨツシースタッフ「あの、何であんなことを？」

青ヨツシー「いやあ、あいつ絶対ハンターが来たら「捕まってる」なんて言うだろう。だから別れた。」

テレサ「おおっ！ハンターボックス緑の1！ボタンを押す！」

ポチッ

クイズ君「合体漢字です！木＋？＋心＋自ちなみに、これは2字熟語だよ！」

テレサ「えーと、簡単だな。「休息」だろう。」

クイズ君「正解！ロックを解除します。」

グイッ

行き止まりのハンターが消え、58体となった・・・

残り1分

次に放出されるハンターは残り2体・・・



## 頭脳プレイ、ハンターチェイス

レッドクリッター「待てよ……これってさ、一番洞窟から遠い場所が一番いいんじゃないか？」

地図を見ると……

レッドクリッター「一番遠いのは星くずビーチか……」

レッドクリッターは向かっていった……

一方……

レーヴァス「俺のターン！ドロー！俺はマジックアーマーにマジック「ダブルチェンジ」を発動！これはデビルアーマー系統のモンスターの色を変え、能力を変えられる！」

レーヴァス「俺はオレンジ色のバーニングを水色のアイス、黒のダークを黄色のサンダーにチェンジ！」

マジックアーマー attack 3600 defense 1200

ラーミラ「攻撃力3600！？どうやら攻撃特化型か……」

レーヴァス「さらに、ドラキーを召喚！」

ドラキー level 1 attack 600 defense 300

レーヴァス「そして、マジックアーマーでニードリオンに攻撃！」

ラーミラ「トラップ発動！「ルナティック」！このカードは相手の攻撃力を20%減らす！20%は720！よって、マジックアーマーの攻撃力は2880になる！」

レーヴァス「だが！それでも580の差があるぞ！」

ラーミラ「連続トラップ！「パワーダウン」！これは、攻撃力が下がった時、その下がり方をもう一回相手に与える！これでお前のマジックアーマーの攻撃力は2160だ！」

ニードリオン「トゲスパイラル！」

ズババババ！

マジックアーマー「ぐわああああ！」

ドガアン！

レーヴァス「うわあ・・・これはどうすればいい・・・!?」

レーヴァス HP 2000 1860

レーヴァス「まあいい！カードを」

ラーミラ「トラップ発動！「ポイズンバブル」！このカードは伏せトラップカードを全て毒に侵し、level1の生贄として自分が使える！」

レーヴアス「何ー！」

ラーミラ「そして相手のターンを強制終了！ダブルドロー！もう生贄を使うまでもない！ソードマスターで、ドラキーにアタック！」

ソードマスター「真空剣！」

ズバアア！

レーヴアス「ぐわああああー！」

レーヴアス HP 18600

ラーミラ「よっしゃー！これで今日の夕飯は鯖の味噌煮だ！」

緑へイホー「チャンバラ・コロシウムでなんかやってますね・・・  
って思ってたら、赤の1発見！」

ポチ

クイズ君「90×3は？」

緑へイホー「270」

クイズ君「正解！」

緑ヘイホー「よし！これで後1つ！と思ったら、もう時間が30秒しかない！」

グイッ

現在の封印ハンター 57体

黄色の1があるのは、レジャー・ビークル・・・

このmissionは、短時間で多くのハンターが放出される上に1回の時間が短いのが特徴だ・・・

## メルザス幹部4人衝撃の過去（前書き）

やっぱり2日目を今年中に終わらせて、その後から新マリオストーリーを気長にやって行こうかと。  
でも今回は短いです。

## メルザス幹部4人衝撃の過去

今、レジャー・ビークルに一番近いのは、クツパ。

その距離は60mだ。

クツパ「おおっ！あんなところにランプの点いた黄色の1が……」

クツパ「到着！」

残り15秒

クイズ君「19mの針金は何cm？」

クツパ「分かった！1900cmだ！」

クイズ君「正解！」

ガチャ！

これで、1クール of 消去装置は全て終わった……

だが、行きつく暇なく2クール目が始まる……

赤の2 ホテル・シーサイドスーペリア 入り口前

青の2 スイート・ビーチ

黄色の2 コイン・トスの噴水

緑の2 一本杉

水色の1 レイクピア・キャッスル内部  
黄緑の1 サンセット岬

一方・・・

ベータ「おーい！皆！」

アルファ「どうした！ベータ！」

ベータ「地下室があるんだよ！」

アルファ「何！？それは俺も知らなかった！」

ラーミラ「面白そうです・・・行ってみましょう！」

レーヴァス「ああ。これは楽しくなりそうだよ！」

なんと、ベータが掃除をしている途中、地下室を見つけた！

アルファ「何も無い・・・あるのは、1枚のメモ、4つのワイプ装置、そしてなぜか、キャンディ20個。」

ベータ「メモか・・・何だか、怪しいな・・・」

ベータはメモを読んでみた。

「ベルーガ、ジャド、ラーミラ、レーヴアス。君たちは、実は仮面ライダーBLACK RXの四大隊長の力を受け継いだ者たちだ。」  
ラーミラ「何！？僕たちが！」

レーヴアス「まさかな・・・後、これを変換すると真魚。」

アルファ「そんなこと言うな！」

「ベルーガはガテゾーンの手で造られた人間、ロボットが半分ずつ分かれているロボット。」

ジャドはマリバロンの手で訓練された妖族。実はマントの裏には、おぞましい姿が隠されている。

ラーミラはボスガンに強化された獣人だった。今は人間として生活している。

レーヴアスはゲドリアンの怪魔異生獣だ。いろいろなものに姿を変えられる。」

アルファ「そんな過去が・・・」

ベータ「そうだ、ベルーガとジャドを生き返らせる方法がある。あの逃走者たちの中から1人の細胞を取ってくれば、生き返らせることができるぞ。」

アルファ「よし、搜索はラーミラ、レーヴアスに任せる。その間に細胞再生装置を準備しておこう。」

ベルーガとジャド、再生の危機！



ハンター、悪を討て！

緑キノピオ「はあああ。牢獄ってつまんねえな……」

と、第一環状線トンネルの方から……

水色ヨッシー「うわああ！」

ハンターB「待てーっ！待たないと捕まえるぞ！」

牢獄全員「お前の仕事じゃねーか！」

ハンターB「あ……？そうか……って、あれ、水色ヨッシーは？」

全員「お前がそんなことしている間に逃げたぞ！」

ハンターB「どっちへ行つた!？」

キャサリン（久々の出演）「砂浜の方！」

ハンターB「分かった！有難う！」

マリオ「（キャサリンに嘘を言えって、先に言っておいたんだよ……）」

その頃水色ヨッシーは

水色ヨッシー「はあはあ、ハラハラつり橋の中ごろに来ました。も

う来ないみたいですね……」

その時、自分の足が何かにぶつかった。

水色ヨツシー「ラッキー。宝箱だ。」

中に入っていたのは

水色ヨツシー「40分進ませ時計」この時計のレバーを上げると、40分の時がたつ。missionはそこまでの時間の物がクリアとなる。上げてみましょう。」

グイッ

44・54・00

44・32・07

44・1?・??

プルルル

赤カメツク「水色ヨツシーが時計を使い、40分がたった。その間の2〜9クルのハンター達は全てクリア扱いとなった。よし、次は10……つてえ!？」

彼の見たケータイの逃走時間は……

44・10・00

ガゴン

6体のハンターが放出された・・・

10体のハンターとなる・・・

残りは10体・・・

赤カメック「ど・・・どうして!?!まあいいか・・・」

次は11クール目・・・

その頃

レーヴアス「よし・・・あいつだ・・・」

コンドルに変身したレーヴアスが襲ったのは・・・

ピンクヨッシー「何っ!」

ピンクヨッシー・・・

ラーミラ「お前を誘拐させてもらっ!」

ピンクヨッシー「させるか!タマゴ投げ!」

ラーミラ「うわっ!抵抗するな!ロケットランチャー!」

ピンクヨッシー「足の速さで対抗する!」

足が速いピンクヨッシーに攻撃が全然当たらない！

ラーミラ「だけど・・・スピードダウン！」

ピンクヨッシーの周りを時計が回り始めた！

するとどうしたことが、ピンクヨッシーの動きが遅くなってしまった！

ピンクヨッシー「どうしてだ？僕の速さが無くなっている〜」

ラーミラ「言葉も遅くなっているー！」

このままではくどいので、4倍速。

レーヴアス「チャラ！チャチャチャチャチャチャ！」

ラーミラ「トルラララララララ！」

バシバシバシバシバシバシ！

ピンクヨッシー「ぐわああああ！」

今度はラーミラとレーヴアスが何を言っているのか分からねえ！おいラーミラ、さっさと戻せ！」

ラーミラ「スピードアップ！」

ピンクヨッシー「隙ありいいいいいー！」

カシユイイイイイイイン!

レーヴアス「ぐあああああ!」

アップーカットが決まった!

レーヴアス「やるな……」

ラーミラ「でもあなたには少し眠ってもらいますよ……スリープ  
フラワー!」

花弁が落ちてきた。

ピンクヨッシーは眠らされた。

ラーミラ「とりあえず戻って、次の出撃にまた1人連れ去ってきま  
しょう……」

レーヴアス「そうだな……」

一方

ハンターA「メルザスを倒すための装置を、中にいる間に作ってく  
れないか?」

牢の中のハンター達「了解!」

次に狙われるのは……

誰だ……

矛盾のその後の話（前書き）

この話はメルザス視点のため、逃走中は全く関係ない。

## 矛盾のその後の話

メルザスでは、人質にしたピンククヨッシーから細胞を取り、再生装置で見事ベルーガを復活させた。その後、ラーミラは少し自分の部屋に残っていた。レーヴァスはすぐ2人目を連れ去りに行った。

ベルーガ「この姿で復活できた・・・これで、俺も晴れてまたメルザスの一員だ！」

アルファ「とりあえず、1人復活できて良かったな、ベータ。」

ベータ「・・・・・・・・・・」

アルファ「どうした、ベータ？」

ベータ「あのさあ、矛盾っていう話あるじゃん。あれ、結局どうなったんだ？」

そこに・・・

ラーミラ「あの、アルファ。次は何を・・・・・・・・」

アルファ「そうだ！「洗脳ビデオ」だ！」

すると、何故かビデオから放たれる光を2人に当てた。

2人は、何故か落ち着いた様子になった。

アルファ「ベルーガ、お前は矛と盾を2つの場所で売れ。ラーミラ

はベルーガの売る物を見るんだ。」

2人「了解！」

アルファ「ベータ、飛行用監視カメラで2人の様子を覗いてみようぜ。」

その頃

ジョギングエリア

ベルーガ「さあさあ皆さん！この矛はどんな盾でも貫きます！予約をすれば7日後に使いやすいように出来ますよ！」

全員「って、予約制かよ！」

動かずの時計台前

テレサ「何だかジョギングエリアの方が騒がしいな……っと思つたら、青の11発見！」

ポチ

クイズ君「だいぶ難しくなりました。ムーチョ君は母からカレーの材料のお使いを頼まれました。メモにはこう書いてあります。」



「ムーチョは良く食べるから、カレールーは多い量の多いものにしてね。でも、あまり資金を使わないものにしてね。」

クイズ君「ムーチョ君は1gあたりの資金が一番少ない物を選ぶことにしました。カレールーは3つありました。」

カレールーA	55g	200円
カレールーB	65g	300円
カレールーC	60g	250円

さて、ムーチョ君は何を選んだらいいでしょう?」

テレサ「分かった。」

$$200 \div 55 \parallel 3, 63$$

$$300 \div 65 \parallel 4, 61$$

$$250 \div 60 \parallel 4, 16$$

だから、答えはA。」

クイズ君「正解!」

ガチャ

残り9体

一方今度はニュータウン近くで……

ベルーガ「さあさあ見てくださいよこの盾!どんな矛盾でも突きとおせません!勿論予約制!」

全員「それも正しいから！」

すると、さっきのも2つとも見ていたラーミラが・・・

ラーミラ「じゃあ、その矛でこの盾を突いたらどうなるんですか？」

ベルーガ「あー・・・それは、実際にやってみましょう！」

ベルーガは矛で盾を突いてみた！

ズバツ！

ラーミラ「貫いた！」

と思いきや・・・

矛は中で止まっていた！

ラーミラ「え・・・！？」

アルファ「これを見てどう思う？」

ベータ「・・・まあ、矛の「盾を貫く」っていうのと、盾の「矛を通さない」はどちらもあるから、矛盾ではないな・・・」

矛盾はこの結末で終わった。

## ラッキーセブンイヤー

アクアイド「いきなりですが！」

ベクトル「この逃走中は今回で！」

全員「77話目になりまーす！」

アクアイド「いやー。こんな所まで行くとは！」

全員「まあ、これだけなんですけどね！」

だが、この後ラッキーが多く待ち受けていた……

デイジー「あっ！ラッキー！もう黄色の11を見つけてちゃった！」

テニス・コート近くの近くの砂浜で早くも消滅装置を見つけたデイジー。

ポチ

クイズ君「 $25 \times 8$ は？」

デイジー「ラッキー！簡単な問題だ！200！」

クイズ君「正解！」

グイツ！

残り8体

？「ギヤアアアアア！」

デイジー「何事！？」

黒へいほー「ギヤアアア！」

道路で黒へいほーが追われていた……

黒へいほーとハンターの差は縮まって行く……

ハンターC「いたっ！」

ドン！

いきなり、ハンターCが転んだ。

何があったかというと、4つ目の宝箱に躓き、転んだのだ。

黒ヘイホー「ラッキー……」

黒ヘイホーはパーム・ツリー・ロードの方角へ逃げて行った。

レーヴァス「見つけたよ……」

青キノピオ「な、何ですか!？」

レーヴァス「ジャドにはお前みたいな知的な奴がぴったりなんだよ……」

さらに、水色ヨッシー、ハカセも一緒にいた。

レーヴァス「丁度いい……全て知的じゃないか……一人でも捕まえれば……」

レーヴァス「はああああ!」

レーヴァスはマグロになった!

ハカセ「それがどうしたんだ！」

ドカドカ！バシバシ！

青キノピオ「速い！」

水色ヨツシー「確か・・・マグロは時速70〜100kmで泳ぐそうです！」

レーヴァス「そうだ！だから俺は止められない！」

青キノピオ「そうだ！オリジナル技「タイム・レード」」

パシーン・・・

すると突然、時間が止まった。

青キノピオは止まったレーヴァスに横切りを加えた！

パシーン・・・

時が動きだした・・・

バシャアアアア！

レーヴァス「ぐわああああ！」

レーヴァスは止まっている間のダメージを受けた！

レーヴァス「そうだ・・・」

プルルル

アルファ「どうした!? レーヴアス!」

レーヴアス「これって、捕まらなくても、細胞さえ取ってくればいいんですね?」

アルファ「ああ……」

レーヴアス「なら、俺の正体。見せてあげましょう……!」

青キノピオ「お前の正体って……お前の今の形態、レーヴアスじゃないのか!」

レーヴアス「うおおおおお……!」

レーヴアスは空で不気味に光る……

ハカセ「な、何だ!」

シューイイイイン!

3人「うわあああ!」

レーヴアスは放射能を発した……!

その正体が、3人の前に浮かんでいた……

3人を見ながら、正体はゆっくり地面に着いた……

## 再生！4幹部

青キノピオ「な、何だー!?」

シユウウウウウ・・・

レーヴアスー（黒猫）「ニヤア。」

3人「H U Z A K E R U N A - ! !」

ドカバキバキバキ!

レーヴアス「ぎゃあああああああ!!!!!!!!!すみませんすみません!レーヴアスが本当の正体で、からかっただけなんですよー!」

メルザスゾーン

アルファ「馬鹿があいつ。」

ベータ「はあ・・・」

ガンマ「なにやってんだ・・・」

ベルーガ「おいレーヴアス!聞こえるかー!」

レーヴアス「ああ、聞こえる!聞こえるぞ!この私に幹部からの声が聞こえるぞ!」



ラーミラ「とりあえず細胞を貰え！」

レーヴァス「変身！俺はラーミラに誘発されて聖剣伝説シリーズの敵にもなれるようになった！まずは3のファイアドレイクだ！」

シュイン！

ファイアドレイク「ファイアー attack！」

なぜ英語表記！？

ドガアアアア！

青キノピオ「うわっ！」

レーヴァス「細胞だけは貰う！」

そしてレーヴァスはメルザスゾーンに戻っていった。

ウオオオオン……

「  
ジャド「復活できたのは皆さんのおかげです。光栄に思っています。」

「  
アルファ「4人はウエツジ島に行って、別行動を取ろう。」

「  
4人「了解！」

係員「はい、ベルーガ、ジャド、ラーミラ、レーヴァスさんの4名様ですね。208号室が空いておりますので、どうぞ。」

ガチャ

5つの部屋がある。

1つはテレビもあるリビング、1つは寝室、1つはトイレ、1つは風呂、もう1つは遊ぶための部屋なんだろうが、4人は作戦会議室にしている。

ベルーガ「さて……どうする？」

ジャド「まあ、まずは怪魔を作ることから始めましょう。」

一方

青へいほー「一本杉が一番いいと思っていたのに、この心細さは一体……？」

そこに

クツパ「はあ、実はまだ書いてないけど、吾輩も実は裏切り者とか言われているからな……」

青へいほー「あ、クツパさん！怖いので話でもしませんか……？」

クツパ「ああ、いいぞ。前にやったゼロがなんだかの話だが、見たらポケのデントも同じ人だった。」

青へいほー「くだらねえ！」

クツパ「く……くだらないって！話しよって言ったのお前だろ  
！」

青へいほー「そんなこと言ってる場合じゃないです！ハンターが来  
た！」

クツパ「な、何！？」

**恐怖が始まる！悪魔の幕開け**

青へいホー「とりあえず、逃げましょう！」

青へいホーはやっと一本杉から離れ、ダウリング湖周辺まで逃げた。

クツパ「ぐわああああ！」

クツパは足が遅く、ハンターにも狙われてしまった。

が・・・

アイム「きゃあ!？」

アイムも巻き添え・・・

そしてクツパはアイムを抜き、ハンターの狙いはアイムに変わった。  
・  
・

さらに・・・

ズサアッ!

なんと、クツパが知らぬ間にアームに足払いをかけ、アームが転んでしまった！

「ポン」

プルルルル

デイジー「嘆きのダイチャブ岩周辺にてアーム確保残り38人」

ジャド「そうだ。まずはこの妖気で、ハンターをすべて放出させてやりましょう・・・」

ベルーガ「よし、やってみる。」

ジャド「はああああ・・・!!」

その瞬間、ハンターボックスから全てのハンターが放出された！

プルルルル

青キノピオ「何者かの仕業により、残り8体のハンターがすべて放出された！何!?!」

マリオ「誰がやったんだ・・・」

この出来事により、なんとハンターは18体になってしまった・・・

牢獄

マリオ「18体!?まだ1日半残っているのに!?!」

その時!

シュン!

牢獄に38枚のカードが入っている箱が転送された。

ベルーガ「ははははは!そのカードを牢獄の中の逃走者で4人選び、1人につき1枚引くがいい!」

アクアイド「どうした、皆?」

アクアイド、ベクトルが牢獄に来た。

ジャド「アクアイド!ベクトル!あなた達も相談の元、カードを引く人を4人決めるのです!」

マリオ「じゃあ、まずは俺が引く。」

シュツ！

カードには水色ヨツシーが書いてあった。

デイディー「おいらが引く！」

シュ！

鎧が書いてあった。

ワリオ「今度は俺が引くぞ！」

シュツ！

次に出てきたのは黒ヘイホー。

アクアイド「最後は誰が引く？」

ドンキー「俺が引く！」

シュツ！

最後に出てきたのはルイーダだった。

ベルーガ「協力有難う！では、そのカードは転送させてもらおう！」

シュン！

アクアイド「……何だか、嫌な予感がする……」

ベルーガ「頼むよ、俺の開発した怪魔ロボット1号、リグレード・  
」

・  
ベルーガは部屋で怪魔ロボットリグレードなる怪魔を作っていた・

リグレード」……」

リグレードは、暗闇の部屋の中で静かに止まっている……



## 4人を救う切り札

リグレードの開発が完成したところ、その近くで牢屋に入れられている奇妙な生物がいた。

牢屋の札に「APALL」と書いてある。

残り時間 44時間5分

確保者 67話の続き

タイニーコング

赤ヘイホー

アイム

ピンクヨッシー（復活の予定あり）

残り37人

全員もちろん知らないが、ピンクヨッシーがさらわれたため、本当は37人になる。矛盾をなくすために次の確保者を早めに出して書き換え、36人にしておく。

ブルルルル

いつものような着信何だが、何か振動がいつもと違う。

テレサ「何かおかしい・・・mission15!？」

キングテレサ「フハハハハ！このメールを打つたのは他でもない、ベルーガ様だ！・・・はあ!？」

マーベラス「少し前に牢獄の連中にカードを引いてもらい、4人が選ばれた！」

青へいほー「その4人は水色ヨツシー、鎧、黒へいほー、ルイージだ！」

デイジー「その逃走者達は35分後、つまり残り43時間30分になると強制失格になる！」

黒へいほー「・・・」

黒へいほーはメールを見るのをやめ、どこかに電話をかけた。

ブルルルル

アクアイド「えー・・・こちらアクアイド。」

黒へいほー「おい！俺を出した奴をケータイに出せ！」

アクアイド「呼んだらすぐ来いブザー」を使おう。」

ワリオ「……………」

ワリオは牢獄の隅で子供のように震えている。

アクアイド「ワリオ！」

ピー！

ワリオ「うおわあああ！」

ブルークリッター「な、なんだあ！？」

ワリオが浮き、牢獄の扉が何故か勝手に開き、外へ出て行った。

ちなみに、どうしても牢獄が狭いため、長さを縦横1aにした。

ワリオ「嫌だ！俺は絶対出たくない！」

まるで注射を怖がる幼稚園児のようだ。

こんな姿を青ヨツシーヤルカに見られたら、絶対笑われるだろう。

青ヨツシー「ぎゃはははは！ウケルー！」

嘆きのダイチャブ岩

ルカ「早く見せて！」

まーた合流したのか。

先程誰にも気づかれなかった5番目の宝箱「視聴部分音声流出へッ  
ドホン付き双眼鏡」を見つけ、牢獄の出来事を見ていた。

この双眼鏡で見ている場所で流れている音声が、電波を通してへッ  
ドホンにも流れる。

ルカ「何あれ！？あのめつちや意地悪なワリオの本性！ってか？」

青ヨツシーとルカ、本当に仲がいいコンビである。

この2人はしばらく数分、笑うだろう。

アクアイド「しょうがない。ベクトル、あれ。」

ベクトル「「ドリームDVD」」

このDVDに内容を書いて、背中に乗せて催眠電波を送って眠らせると、内容が夢になる。

アクアイド「黒ヘイホーにカードを引いたことを責められる夢」と書いて……」

アクアイドがワリオの背中にドリームDVDを乗せると、ワリオが眠りだした。

アーム「でも、このままでは私たちが夢を見ることはできません。」

マリオ「そういうこともあるかと……」「ドリームグラス」これかけると、」

アクアイド「もう内容は分かった。夢が見られるんだろ。人数分用意してあるから。」

全員が牢獄の外に出て、ドリームグラスを見た。

アクアイド「黒ヘイホー、もういいぞ。」

黒ヘイホー「ほんとか！？良かった。もう対策を考えてくれていたとは……」(ワリオの)

ワリオの夢の中

ジリリリリリリ

もう買い換えようとしている21年前のダイヤル式電話から、音が鳴った。

ワリオ「はい、どなたですかー？」

黒ヘイホー「お前だろ！俺のカード引いたの！」

ワリオ「ええええ！？えーと、あれはですね・・・」

黒ヘイホー「あれで強制失格になるんだぞ！お前のせいだぞ！もしも一生懸命やって。俺が強制失格になったら。100%の内49%お前のせいだ！」

ワリオ「え？俺より責任重大なやつがいる？」

黒ヘイホー「50%はブルーガのせいだ！」

ジャド・ラーミラ・レーヴァス「ジーーーーー.....」

3人は何かを疑うような目でブルーガを見る。

ジャド「どっかでブルーガのせいだ！って聞こえたような気が・・・」

「  
ベルーガ「俺なんか悪いことしたか？」

ワリオ「お、おい！お前の責任は！？」

黒へいホー「1%俺の責任だ！」

ワリオ「卑怯者ー！」

「一応キャラごとの性格に基づいています。

ワリオ「はあはあ・・・」

アクアイド「どうしたワリオ？」

ワリオ「なんか黒へいホーが責めてくる夢を見た・・・」

テレサ「ククククク・・・見ちゃったよ。ワリオの本性・・・」

なんとアクアイドは、夢を見る前に、全員に夢を映せる「ドリームモニター」を生存者全員に配っていた。

これにより、ワリオの夢を全員が見たことになった。

「えーと・・・このままだと俺、強制失格になるってことですか。」

水色ヨツシー「防ぐ方法はややこしいので、まず4人とも、動かすの時計台内部の、4つの装置で、自分の顔が書いてある物を下せ！以上！」

ルイージ「とにかく、動かすの時計台に行かなくちゃいけないのか。」

カードに書かれた全員の現在位置

水色ヨツシー ラクダ岩

鎧 滝の下登山道トンネル

黒ヘイホー コイン・トスの噴水

ルイージ ニュー・タウン

全員の時計台までの道のり



水色ヨツシー 600m  
鎧 300m  
黒ヘイホー 10m  
ルイージ 200m

黒ヘイホー「ラッキー。近くにいたおかげで、悠々と入れる。」

だが！

ハンター「……………」

なんとその肝心の入口の前で、堂々とハンターが立っていた！

黒ヘイホー「あれ……………おかしいなあ。アクアイドに電話しよう。」

「

プルルルル

アクアイド「何？ハンターが立ち止っている？」

ベクトル「おかしいなあ。ハンターは全員待ち伏せしたりしない。だって逃走中の時にとまると死ぬから……」

牢獄メンバー「マグロかよ！」

クリッター「本当なら、やってみるよ！」

すると、ベクトルがハンターSを持ってきた。

ベクトル「今は逃走中だ。止まれ。」

ハンターS「ぐあああつ！？はうあつ……あああ……」

確かに死んだ。

牢獄メンバー「マジかよ！」

黄色ハイホー「メモしておこう。「ハンターは止まっていると死んでしまう」」

アクアイド「マリオ、デイディー、ワリオ。素早く行くため、この「目的シャトル」で行ってくれ。」

3人「了解！」

アクアイドは札に「動かずの時計台入口」と書いた。

20秒後、3人は飛んで行った。

その頃30秒後の動かずの時計台入口

ヒュウウウウウウ・・・

黒へいほー「?なんだ?」

目に飛び込んできたのはシャトルだった。

黒へいほー「おわああ!危ねえ・・・」

ドガアアアアアン!

シャトルはハンターをも巻き込み、爆発した。

そこにいたのは・・・

リグレード「・・・」

怪魔ロボットリグレードだった。

ベルーガ「早々に分かったのか。まあいい。リグレード!あいつらを通すな!」

リグレードは頭、肩、膝、肘、手、足にドリルが付いている。

ドリル人間だ。

4人「これまでの内容と外見からしてどう見ても人間じゃねーだろ  
！」

リグレード「エルボークラッシュ！」

バキッ！

ワリオ「ぐわああああ！」

マリオ「ワリオ！」

リグレード「ニーズドリルシュート！」

バシユバシユ！

ズガアアアアン！

マリオ「ぎゃあああああ！」

ディディー「ひいやあああああ！」

マリオ「くそう・・・マリオファイナルだ！」

ゴオオオオオ！

だが、リグレードには全然効いていない！

ベルーガ「怪魔ロボットにそんな技がきくと思っていたのか!？」

マリオ「ならばビクトリーマリオファイナルだ!」

ベルーガ「パワーアップ技どこで覚えた!」

ゴオオオオオ!

リグレード「ぐわああああ!」

今度はかなりのダメージを与えたようだ!

マリオ「行くぞ!メテオナックルの強化型!コメットナックル!」

シュパッ!

マリオ「うわっ!」

黒へいホー「何だ今のは!」

そしてリグレードの近くに現れたのは、隼のようだった。

だが、翼の前に手が出ている。

ラーミラ「そいつは僕の作った怪魔獣人ガイナアパル!」

そう、隼の鳥人は怪魔獣人だった……

4人「なんでガイナアパル!？」

ラーミラ「えーと、「ガイナ」は怪魔獣人特有で、その後の名前どうやってつけようかな、って思ったんだけど。その時、前見たネプリーグで、ケータイ作る会社がどこですかっていう問題で、堀内が「APPLE（アップル）」って本当は書くところを、間違えて「APALL」って書きちゃって、それで日本語に直すとして母に聞いたら、「アパル」って返ってきたの思い出したから。」

4人「すっげえ適当な理由だな！」

ホテル・ナインティーン

レーヴアス「なあ、思うんだけど、怪魔異生獣ってほかの怪魔より優遇されてね？」

怪魔のそれぞれの登場人数一（ただしスカル魔はメジャーなので省く）後トリプロンは1体でまとめる。

怪魔獣人 8回

怪魔妖族 7回

怪魔ロボット 12回

怪魔異生獣 14回

ジャド「うわっ……私の作る怪魔妖族は怪魔異生獣の2分の1しかないんですか……」

彼らの作る怪魔も、いつか動く時が来るであらう……

## 生き返ったあの男

青ヨツシー「ははははは。あのワリオには面白くしてもらったよ。」

ルカと別れ、また絶叫の滝の下まで行く青ヨツシー。

ていうかさ、お前性格が冷静、ひねくれ者とか書いてあったけど、その性格が無くなってる気がするよ。だんだんルカと触れあううちにルカの性格が入ってきてる気がする。

その頃、リグレードとガイナアパルに4人は苦戦していた。

リグレード「ハンドスパークシュート！」

手に付いたドリルが電撃をまといながら来る！

バリバリ！



マリオ「しまった！麻痺して動けない！」

リグレード「ヘッドハリケーン attack！」

ズガアアア！！

マリオに頭のドリルが直撃した！

ズバーン！

マリオ「ぐわああああああ……」

マリオは反動で気持ちいいように飛んで行った。

ワリオ「マリオが……」

デイディー「あんな簡単に飛んでいくとなると、あいつら物凄い破壊力を持っている……」

ベルーガ「そろそつだ。本編と比べると、100」

ワリオ「なに！本家よりも100倍も強いのか！？」

黒ヘイホー「もう終わりだぜ！」

ベルーガ「……%倍の力を持っている……」

ドドドドッ！

全員がずっこけた。

ワリオ「なんだぞら！100%倍の力ってただの1倍の力じゃねーか！」

ガイナアパル「そんなこと言ってる暇があるのか!？」

真空波が飛んできた！

ズバア！ズバア！

ワリオ「ぐわあああ！」

デイディー「ぎゃあああああ！」

2人ともマリオと同じ、テニスコートの方角へと吹っ飛ばされた！

黒へいほー、どうなる!？

水色ヨッシー「ここから行くのは遠いからな……」

と思った、その時。

水色ヨッシー「そうだ！ウエイクボードキットだ！これで速くいける！」

すると、キットシリーズの12個の中のウエイクボードが出てきた。

水色ヨッシーはヨット・ハーバーへ向かって、飛び跳ねて行った。

リグレード「レッグクラッシュキック！」

グオオオン！

黒ヘイホー「ぐわああああああああ！」

黒ヘイホーも、怪魔2体に苦戦していた。

ガイナアパル「そこだああああああ！」

ズバツ！

ガイナアパル「ぐあっ！な、なんだ!？」

3人が見たものは、どこかで見たことのあるような、影だった。

？「俺は太陽の子！」

仮面ライダーBLACK！

RX！

V2！

黒へいホー「何！仮面ライダーBLACKRXV2!？」

だが、黒へいホーはその声に聞きおぼえがあった。

黒へいホー「でき、その仮面ライダーBLACK RX V2つてのは、どんな奴なんだ？」

RX V2「（省略）普通のBLACK RXの1億……」

黒へいホー「何！？1億!？」

RX V2「分の1億の力がある!」

ドドーツ!

RX V2「今だ！光子剣リボルケインカオス!」

ズバア!

リボルケインがガイナアパルに突き刺さった!

ズバアツ!

抜くと、ガイナアパルは膝を突き、爆散した。

ベルーガ「ふっ……やるな。今回は見逃しといてやるっ。」

R X V 2 は変身を解いた。

赤ヨツシー「よし、初戦から勝ったぞ。」

黒ヘイホー「な、お前が……R X V 2!？」

「一体どういづことなのか!？」

プロミネンス・ブレイブ（前書き）

行方不明の赤ヨッシーが生きていた！

## プロミネンス・ブレイブ

あれは……

1時間くらい前のことだった……

赤ヨツシー「俺はハンググライダーの材質をある特別能力で鉄に変えた。しかし無駄だった。すぐに鉄から戻ってしまった。」

赤ヨツシー「それから、俺は長らく漂流した……」

赤ヨツシー「……?ここは……?」

「手狭な感じの無人島」に着いた。

B社はもう引き上げている。



赤ヨツシー「そうか・・・漂流してここに来たのか・・・」

シュツ！

突然、何かが飛んできた！

赤ヨツシー「なんだ！？」

デビルハンター「お前は逃走者！」

赤ヨツシー「デビルハンター・・・話は聞いているぜ。行くぞ！」

赤ヨツシー「バーニングナックル！」

デビルハンター「衰弱銃！」

バシュ！

赤ヨツシー「グア！」

赤ヨツシーの体が弱って行く！

ドガア！

デビルハンター「ぐおわあああああああ！」

デビルハンターの安物だったのが、1発で倒せた。

が・・・

赤ヨツシー「俺の力は……もう無い……」

赤ヨツシー（俺は本当に死んでしまうのか？このまま逃走中のみ  
んなとも会えずに終わってしまうのか？俺は……生きて！）

その時！

シューイン！

赤ヨツシーに、急に日光が差し込んできた！

赤ヨツシーはその光を吸いこんだ！

赤ヨツシー「……？あれ……気のせいか？手が黒い？足  
も黒い？」

赤ヨツシーは何故かあった鏡で自分の顔を見た。

赤ヨッシー「……………!?これは……………伝説の仮面ライダー!」

そう。赤ヨッシーは仮面ライダーになったのだ。

その名は仮面ライダー BLACK RX V2。

赤ヨッシー「こうして俺は、仮面ライダーの能力を使って帰って  
ることができた。」

その頃……

ピンクヨッシー「マリオ ワリオ デイデリーの3人を発見。ただ  
ちに検出します。」

なんと、ピンクヨッシーが3人の細胞を取って行った……

一体どういふことなのか……

マーベラス「いつハンターが来るかわからねえぞ！」

テレサ「気を付けて、角は特に気を付けて……」

赤カメック「ちょっと偵察……」

ハンターN「！」

赤カメック「あ、しm」

「ポン」

マーベラス「逃げるぞ！」

テレサ「分かった！」

プルルルル

テレサ「ウーファータウンにて赤カメツク確保残り36人」

ピンクヨッシー「アルファ様。3人の細胞を取ってきて参りました。  
・・・」

なんとピンクヨッシーは、洗脳されていた・・・

新たな進撃！（前書き）

今回は新たな伏線！

新たな進撃！

クツパ「おいデイジー。この飲料を飲んでくれ。」

デイジー「いいわよ。」

デイジーは飲んだ。

デイジー「きゃあ!？」

デイジーの体に振動が走った!

バタツ……

デイジーは倒れた……

ワリオ「なあ、アイスを食べないか？」

デイディー「ああ、いいよ。」

デイディーはアイスを食べた。

デイディー「うっ!？」

デイディーの体に振動が走った!

バタツ・・・

デイディーは倒れた・・・

マリオ「おい!ワリオ!どうしたんだ!」

ワリオ「・・・・・・・・」

タツタツ!

ワリオは駆け出した!

マリオ「おい!待てよワリオ!」

だが・・・

マリオ「待て・・・・・・・・これは罠なのかもしれない。ここは様子を見よう。」

マリオは牢獄へ向かった。



だが、ディディーが残されていたことを忘れていた……

ジャド「良くやりましたね……クツパ、ワリオ……」

クツパ「はい……」

ワリオ「ジャド様の言うとおり……」

なんでこうなったかというと……

ピンクヨッシー「ベルーガにアルファに付くなって言われたけど・・・  
まあいいか。おっ・・・あれは・・・」

クツパ「あーあ、1人になっちゃったよ。」

ピンクヨッシー「丁度いい・・・悪の心になれ・・・」

バシユ！

クツパ「ぐっ！」

ピンクヨッシー「後一人・・・」

このようにしてワリオも悪の心になった・・・

クツパ「なあ、ワリオ。」

ワリオ「ああ。俺たちが力になれるのならそれでいいさ・・・」

ベルーガ「やったな。怪魔の装置をまさかなくしたとは思っまい・・・

「・

その時

アルファ「ベルーガ！なぜ「ダーク・ブラッド」を使った！しかも  
2つ！」

ベルーガ「それは分かるだろう！1つは俺たちの戦力を増やすため  
！そしてもう1つは・・・」

レーヴアス「お前たちを倒し、俺たちがリーダーとなるためだよ！」

全員「な、なんだってー！」

ラーミラ「つて！聞こえてるー！」

アルファ「・・・何！お前らー！」

リグレード「・・・最終兵器・・・自爆ドリルタックル！」

アルファ「何！リグレード！？」



ベルーガ「怪魔装置を無くしたことは無かったことにしよう。」

レーヴァス「なあ、俺たちの仲間がいつぱい来たぞ。そっだ。これからは階級制度にしないか？」

仲間

デルタ

イプシロン

イオタ

ラムダ

シグマ

オメガ

階級

上から順にえらい。

ベルーガ隊長

ジャド司令官

ラーミラ副隊長

レーヴァス副司令官

デルタ風来士

イプシロン煉獄士

イオタ爆裂士

ラムダ氷騎士

シグマ速騎士

オメガ兵士

用心棒。ピンクヨッシー

デルタ「私の名は風来のデルタ・・・風の戦士だ・・・」

イプシロン「俺は火炎使いのイプシロン！」

イオタ「俺は、爆裂の力を持つイオタだ！」

ラムダ「僕は氷騎士のラムダだ・・・」

シグマ「神速のシグマ！」

オメガ「まだまだ見習いのオメガだ！」

一応言つと、4人の差はほとんどない。

クッパ「そうだ・・・これで倒してやる・・・逃走者をこの「ダーク  
キャノン」で倒し、フィギュアにするのだ・・・」

ワリオ「よし・・・青ヨッシーを見つけたぞ・・・」

青ヨッシー「ウーフータウン！本当に南国って感じだよな。」

ルカ「ねえ、青ヨッシー。」

ワリオ「行けーっ！矢印光線！」

っておい！確かに矢印だが！

その時・・・

警察官「その人ー！その泥棒の奪ったものを返してください！」

泥棒「やべっ・・・」

青ヨツシー「おい！」

ガシッ！

泥棒「ぎゃっ！」

そこに矢印光線（お前、結局その名前採用したんだな）が飛んできた！

青ヨツシー「おい！この鏡だろ奪ったのー！」

ワリオ「行ける・・・行けるぞ！これで俺が青ヨツシーを・・・」

ピカーン！

ルカ「え！？ちよつと！」

バシューン・・・

その瞬間、ルカの体に矢印光線が当たり、ルカはフィギュアになっ  
た・・・

なんと、青ヨツシーが持った鏡で矢印光線が当たり、ルカに跳ね返  
ってきてしまった！

クツパ「まあ・・・よしとするか・・・」

バシューン！

ワリオ「って、ちょっと待・・・」

なんと、またなぜか跳ね返り、なんとクツパとワリオに命中！なん  
と2人もフィギュアに！

ていうかさ、ルカって別の世界の生命体だよね。何でフィギュアに？

ルカ「生命体って何！」

え！ルカいつの間に・・・

ズバアアアアア！

月村サトシ「ぎゃあああああああああ！」

「ゴーカイスラッシュで月村が斬られました。只今お待ちください。

」



青ヨツシーはルカには気付かず、行ってしまった。

今、先ほど何があったのかも気付かず……

警察官「あなたに100万円をさしあげます。」

青ヨツシー「ありがとうございます。」

ルカ、クツパ、ワリオもいなくなったため、また逃走者が減った。  
残り33人。

黒へいホー「さあ、中に入るか。」

そこには、4人の顔が書かれ機械が・・・

試しに、ルイジのレバーを引こうとした。

だが、上がらない。

どうやら、同じ人間でないと駄目らしい。

黒へいホー「じゃあ、引くか。」

ガゴン

すると、1つの宝箱が現れた。

どこかに・・・

黒へいホー「何何？」「誰かが自分の顔を書いた機械のボタンを押すことを3回繰り返すとクリア？」というと、これは協力missisonか・・・」

その頃

ベルーガ「ルカのフィギュア・・・よし。これはいい収穫だ・・・」  
ちなみに、4人（その他もろもろ）はメルザゾーンに越しまし  
た。

レーヴァス「ラーミラ、どうする？このワリオとクッパは。」

ラーミラ「使えないな。ほっといて、海にでも流そう。」

ジャド「はい。」

ジャドは2つのフィギュアを海に流した・・・

ルカ、フィギュアとなって捕まる・・・

レッドクリッター「この島はすぐチョコが解けるな・・・」

チョコ棒を食べているレッドクリッター。

緑キノピオ「その点トッポってすげえよな。最後までチョコたっぷ  
り。」

これは一発ネタです。

その頃

青へいほー「アジアジジ……夏真っ盛りで南国だ。そりゃ熱いですよね……」

気温は毎日30〜40度。

これは6月から9月までの気温だ。

青へいほー「あゝあ……アイスが食べたい……」

そこに……

広場に声が響いた。

アイス屋の主人「(26)「すみませーん！アイスはいかがですかー！今なら1つ！無料ですよー！」

青へいほー「あー……丁度良かった。買いに行こう。」

アイス屋主人「あ。いらっしやいませ。見てください。」

メニューー

ナッツバナナ

アーモンドチョコ  
レーズンパイ  
サイダーバールン  
ベリー・フォース

青へいホー「まあ、始めてならしょうがないですねこの品揃えは。数の事を言ってるんですよ。えーと……なめらかな物……」

アイス屋主人「お決まりになりましたか？」

青へいホー「じゃあ、レーズンパイを。」

アイス屋主人「ありがとうございます。」

そこに……

ハカセ「あつ。青へいホーじゃないか。」

青へいホー「ハカセさん、このアイス1つ無料ですよ。」

ハカセ「えーと、次にナッツバナナを。」

アイス屋主人「ありがとうございます。2人も開店から来てくれた！」

青へいホー「あ、はい。」

コーンに乗って2つのアイスが出てきた。

青へいホー「このレーズンパイ。甘み……と何かサクツとした感じが来ます。」

ハカセ「やっぱりバナナだよ。」

もうそろそろ食べ終わるといふ頃……

警察官「追いかけるー！泥棒だー！」

青へいホー「わっ何だ！」

この時のはずみで2つのアイスが路上に落ちてしまった！

と、思いきや……

トゥルツッ！

泥棒「ぎゃあ！」

なんと、レーズンパイで滑り、うつぶせに倒れてしまった！

バン！

今度はナッツアイスに顔から見事に入ってしまった！

泥棒「ど、どこだ！？前が見えない！」

泥棒は逮捕された。

警察官「どうもありがとうございます。あなた達のアイズで捕まえることができました。50万円をそれぞれに与えます。」

青へいホー「やった！」

ハカセ「よし！」

とりあえず2人は、賞金を稼げた。

ガンマの帰還・・・(前書き)

やはりペースを物凄く上げないと年末には間に合いそうもない・・・



ガンマの帰還・・・

ベルーガ「でもなあ・・・実は2回目の逃走中の開始、今から3ヶ月後になるかな・・・」

ラーミラ「結構後なんですか・・・」

ガンマ「アルティメッターの鍵を手に入れた・・・」

ガンマは、あれから小一時間の末、ついにアルティメッターの鍵を手にした・・・

緑キノピオ「お、なんだあれ？」

星くずビーチにて、見慣れぬ宝箱を発見した。

レッドクリッターも一緒だ。

良く見ると、宝箱に黒へいホーの仮面が。

パカッ

開けてみると、3つのボタンと紙が。

「このボタンは1人に付き1回しか押せない。また、このボタンを3個とも押すと、この宝箱では黒へいホーがクリアになる。」

緑キノピオ「押そう。」

レッドクリッター「ああ。」

ポチ

黒へいホー 残り1人

すると、中に冷凍銃が。

「前回の件ではすまないことをした。これは1回押すごとに1つ現れるので、最大で12体のハンターを消せる。つまり6体まででできるのだ。」

緑キノピオ「いいじゃん！」

— — — — —  
— — — — —  
— — — — —  
— — — — —

黒〓ハンター

白〓逃走者

そこに、丁度良くハンターが……

緑キノピオ「おおっ！ハンターが来た！」

レッドクリッター「に、逃げろ！」

緑キノピオ「なにやってんだ！冷凍銃！」

バシユ!

ハンターE「……………」

ハンター、フリーズ冷凍……………」

ハンター 残り17体

緑キノピオ「よし!」

レッドクリッター「このままいこうな!」

## メルザスゾーン

ガンマ「どうした……ベルーガ……!?!」

ベルーガ「はははは!俺たちがメルザスを略奪したのさ!」

ここでメルザスの皆さんの登場期間をざっと紹介。

ちなみに最初の3人は謎だった時からです。

アルファ 6話〜83話

ベータ 6話〜

ガンマ 6話〜

ブルーガ 27話〜41話、76話〜

ジャド 27話〜41話、78話〜

ラーミラ 47話〜

レーヴアス 47話〜

残りの皆さん 83話〜

ガンマ「おのれブルーガ！ゆるさん！」

ブルーガ「何かどつかで聞いたような言い方だな！だが！こちらにはあ！4人の幹部がいるのだあ！紹介しよう！副隊長！ラーミラ！」

ラーミラ「ども……」

ブルーガ「えーと……何か……なんだっけ……あれだよ！あの外でなんか当たる奴！」

ブルーガ達は異星人なので風が分からなくてもしょうがないです。

ガンマ「風か？」

ガンマは物覚えが速いです。

ブルーガ「もういいや！デルルウウウウタアアア！」

デルタ「何でプロレス風！？」

ベルーガ「シイイイグウウマアアア！オオオオオメエエ  
エエガアアア！」

ルカ「それやめなさい！」

ベルーガ「おい！女に……ってあれ？女なんていたっけ？」

デイジー「ふふっ。どうやら睡眠薬の効果が小さかったおかげで、  
早く助けだせたってわけ。」

ラーミラ「ベルーガ隊長！あんなことで資金を拒むから……」

ベルーガ「そうなんだよな。資金がない……って今言うことじ  
ゃねえ！」

ラーミラ「本当でした。」

デルタ「オウ！b a d t i m i n g！」

お前外人風かよ！さっきと全然イメージが違うぞ！

デイジー「あなた達をやっつける！」

ルカ「あれ？そっいえば猿は!？」

デイジー「あ……」

デイジーは自分が起きた時にすっかりディディーをはずみでメルザ  
スゾーンから落とし、海に落としてしまったことなど、言えるはず

もなかった・・・

デイジー「ああ・・・自分で帰った！」

ルカ「そう。」

デイディー「ひどいよ・・・。」

今度はデイディーが漂流者に・・・

ベルーガ「いけっ！デルタ！シグマ！オメガ！」

デルタ「風来切り！」

カキン！

ルカ「残念。」

デルタ「何！この俺の太刀を止めるとは……こいつ……できる！」

ルカ「こいつって……」

デルタ「え？」

ルカ「何よ……っ！」

バッキーン！

デルタ「ぎゃあああああああああ！」

デイジー「ロックフラワー！」

バシユ！

オメガ「ぐわっ！地面から岩の花が！」

月村サトシ「説明せねばなるまい。ロックフラワーとは、マリオス  
トライカーズにて、地面から岩の花を出し、相手を吹っ飛ばす、デ  
イジーのスーパーアビリティだ。」

オメガ「うおおおおおおお！メテオシュートキック！」

デイジー「ロックフラワー！」

ズバツ！

オメガ「ぎゃあああああ！」



デイジー「回転花飛ばし！」

バシユ！

菊が飛んできた！

ドガアアアン！

オメガは爆散してしまった！

オメガ「えええ！？ たった2回だけー！？」

そりゃしょうがない。2人の性格ならそうなる。

ベルーガ「性格……？ そうだ！」

ラーミラ「そうか！ 喰らえルカ！ 「性格反転レーザー」！」

バリバリ！

ルカはそのレーザーを喰らってしまった！

デイジー「ルカ！ 大丈夫！？」

ルカ「……怖い……」

デイジー「え？」

シグマ「今だー！」

ズバアアアアアア!

ルカ「きゃああああ!怖いー!」

デイジー「ま、まさか!?!」

ラーミラ「そうですそうですよ!この「性格反転レーザー」を喰らうと、性格が真反対になってしまうのです!ルカの場合、強気な性格が弱気な性格になってしまうのです!」

ガンマ「全く・・・ベルーガ!これを喰らえ!ゼクロスセイバー・アブソリユース!」

ベルーガ「何っ!?!」

ズバシユ!

ベルーガ「ぐあああああっ!」

ルカが弱気!人数では劣る!

いつの間にか手を組んだガンマ、腰ぬけベータ、弱気のルカ、デイジー!

何とかして脱出することはできないのか!?

あれ？そういえばベータは？

ベータ「アイスうめー。」

青エイホー「さっきと同じぐらいの、同じ味のアイスを、ハカセさんの分も作ってもらいました。なんだかすごく得した気分です。」

・ なんと、青エイホー、ハカセと、サイダーバルーンを食べていた・

ガンマの帰還・・・(後書き)

ベータ「何で俺腰ぬけなんだよ！」

お前姿を消しただろうか！

## アルファ達の過去

ルカは、この前の話でラーミラに「性格反転レーザー」を当てられ、弱気な性格になってしまった。

デルタ「行くぞ！サイクロン・アナザースラッシュ！」

するとデルタはルカを竜巻の中へ巻き込み、姿を消した。

中では、斬られる音が外からでも聞こえる！

デイジー「ルカ！」

シグマ「よそ見している暇があるのか！」

デイジーはシグマに翻弄され、攻撃が当たらない！

デイジー「くっ！速い！」

ガンマ「くっ！まずはラーミラから性格反転レーザーを取り返さねば！」

ラーミラ「やらせるか！セントビーム！」

また聖剣伝説の技か・・・

ラーミラ「だっしょうがないだろ！そういうキャラなんだから！」

その時、ラーミラの手から青い光線が放たれた！

ガンマ「そう簡単に食らうと思うか！」

ラーミラ「ああ駄目駄目駄目駄目！聖剣伝説のルールではねえ、魔法は絶対に当たることになって……」

ガンマ「隙あり！ダーク・エクレージ！」

黒い霧がガンマの剣を包み、ラーミラを斬り裂いた！

ラーミラ「ぐわああ！」

ラーミラが持っている銃を、ガンマが取り返した！

その頃竜巻の中では……

デルタ「行くぞ！これでとどめだあ！ハリケーン・クレイガード！」

その瞬間、ルカの悲鳴と、嵐のような音が2人に聞こえたような気がした。

デイジー「ルカ！」

シグマ「だからよそ見をするな！イクリップス・スライダー！」

デイジーに向かって音速の速さで突進し、デイジーは回転しながら吹っ飛ばされた！

が、受け身を取って手をあげながら立った！

評価は………？

ベルーガ 90点

ラーミラ 95点

ガンマ 95点

合計 280点

デルタ「出ました！280点！高記録です！ちょっと解説をしてもらいましょう。解説のルカさん！」

ルカ「はい。あのような音速の攻撃を受けながら立つのは至難の業です。凄いですね。」

全員「って、いつからオリンピックみたいになってんだよ！」

ガンマ「とりあえずルカを！」

ガンマはルカに性格反転レーザーを撃った！

ルカにレーザーが当たり、ルカは元に戻った。

デルタ「生きて返すか！サイクロンフラッシュ！」

バッシュ！

その瞬間、ルカとデイジーが切り刻まれ、メルザスゾーンから投げ出された！

ガンマ「ルカ！デイジー！」

ガンマはルカとデイジーを追って、メルザスゾーンから飛び出した！

ラーミラ「逃げられましたね・・・」

ベルーガ「まあいい・・・また確保してくればいいことだ・・・」

デイジー「きゃああああ！！！！」

牢獄付近

アイム「あれは・・・なんですか？」

アイムが空を向いている。

マリオ「あ・・・あれはデイジーだ！」

その頃

青へいホー「ベータさん、そろそろ動きだした方がいいんじゃないですか？」

ハカセ「そうだよ。そもそも何でこんな所にいるの。」

ベータ「いや・・・行っつてどこに行けば・・・」

その時！



ドカーン！

何かが落ちてきた！

青へいほー「ギャア！」

ハカセ「これは・・・ルカだ！」

そう。正体は倒れたルカだった。

ガンマ「お前ら！ルカをとりあえず牢獄へ俺が連れてって行く！」

ベータ「頼むぞ！ガンマ！」

その頃

マリオ「デイジーが落ちてくる！」

ガシッ！

マリオは何とかデイジーをキャッチした！

デイジー「有難う、マリオ。」

そこに・・・

ガンマ「おーい！皆！」

アクアイド「どうした、ガンマ！」

ガンマの腕には、傷だらけのルカが抱えられていた。

アトム「ルカさん!？」

ガンマ「事情は早く言いたいので言っぞ!かくかくしかじかくいむーぶ……」

なんだそれ!

アクアイド「何!?!ベルーガがメルザスを裏切り、さらに新たな幹部が多く登場!?!」

デイジー「うっ!」

デイジーが苦しんでいる!

ガンマ「2人とも、大きなダメージを受けている!いったん急用を取らせてやれ!」

ベクトル「分かった!」

2人はとりあえずテントの中で休養をとることにした。

アクアイド「ベクトル、とりあえず牢獄は任せる。俺は、ベータと話がしたい。」

ガンマ「分かった。」

その頃

ルイージ「到着！」

ポチ

ルイージの宝箱が、どこかに設置された・・・

その時

水色ヨツシー「到着・・・ってルイージさんも来てたんですか。」

ポチ

水色ヨツシーの宝箱も、どこかに設置された・・・

ちなみにmission開始からすでに15分が経っている。

残るは鎧のみ・・・

ニュー・タウン アクアイドの家

ベータ「・・・で、アクアイド。何だ話って。」

アクアイド「なあ。ベータ。お前らはなぜこの地球を襲った？そして、お前らは何者なんだ？」

ベータ「そうか・・・じゃあ、教えよう。」

ベータ「あれは4カ月前・・・4月20日の事だった。」

ベータ「まず、俺達は何者なのか教えよう。」

ベータ「俺達はこの地球がある銀河とは別の星の・・・シャルグ星に生まれたシャルグ星人だ。」

アクアイド「シャルグ星人・・・」

ベータ「ここで信じられないかもしれないが、実は俺達はベルーガ達よりも権力やそのものの力が劣っていたんだ。」

アクアイド「何！？・・・その前に、お前らは何者なんだ？」

ベータ「俺達3人は、元々シャルグ星の戦闘軍団、シャルグ・エクレイスに勤める騎士団だった。」

ベータ「だが・・・その4月20日。同じ銀河にあるエリクル星の、エリクル星団、通称メルザス・バイブレーションがシャルグ星を侵攻した。シャルグ星は滅ぼされてしまった・・・」

アクアイド「そんな過去が・・・」

ベータ「だが、俺達はエリクル星団に確保された。ある一団が、俺達を利用してまた別銀河の星を侵略する、特別指令を受けた。」

ベータ「実は・・・その彼らが・・・ベルーガとジャドだった・・・」

アクアイド「何!？」

ベータ「ベルーガは俺達を操った。そして、この地球へと攻め込んできたのさ・・・」

ベータ「だが、その侵略の中で、ベルーガは自分で戦いたいと言出し、ジャドとともに俺達が地下室から出し、最初はいなかったように見せかけていながら、表に顔を出した。」

アクアイド「あれ、じゃあ、洗脳はベルーガしかできないんだろ？何で倒されてから復活するまでの間もお前らを洗脳できたんだ？」

ベータ「あいつにはルイージと意識を取換えた「チェンジビーム」という技があることを知っているな？実は厳密に言うと、プロミネンスビームを受けた後、すぐさま近くにいた市民にチェンジビームを当てた。」

つまりその市民は犠牲となったのだ・・・

ベータ「そして、ブルーガは1人でラーミラとレーヴァスに俺達を出向かせ、仲間にさせた。」

アクアイド「ちょっと待った。それってその2人もエリクル星人ってことか？」

ベータ「まあそうなるが。それがどうした？」

アクアイド「なんでエリクル星人が地球にいるんだ？」

ベータ「じつはエリクル星人侵略の前の3月15日・・・エリクル星の、ブルーガ達が住んでいるハルエリア地方とは真反対の、ラーミラ達が住んでいるジャステル地方に無数の小型隕石が降り注いだ。」

ベータ「その前にジャステル地方の全員は脱出、全員どこにいるか消息不明だったが、地球に2人、つまりラーミラとレーヴァスが見つかった。」

アクアイド「だから地球に・・・」

ベータ「だが、ブルーガはリグレードにパワーを注ぎ込みすぎたのだろう。俺達の洗脳が解けた。」

アクアイド「だけど、何で洗脳された時のことまで覚えてるんだ？」

小さなロボット「それは私が。」

マイクロほどの大きさのロボットが出てきた。

初登場だ。

ベータ「ああ。こいつはシャルグ星の科学で作られた、カメラロボット。だが、このロボットは軍事用で、一般用より性能が高い。正式名称はアル・レイズ・メカニカルなのだが、皆オリジナルの名前を付けている。もちろん軍事員達もだ。色は多くあるのだが、俺は青色で、レーブと呼んでいる。だから、アクアイドもレーブと呼んでくれ。」

レーブ「よろしくお願いします。」

アクアイド「ああ。よろしく。さて、利用されていたと分かれば、これから本当のメルザスを倒すために協力してくれ！」

ベータ「ああ！」

こうして、ベータ、ガンマが仲間になった・・・

クッパ「今さ。結構賞金が上がってきてるよね。自首しようかな？」

コイン・トスの噴水前にいる、クッパの息子・・・

逃走時間は3日間、つまり72時間。そのうえで賞金が2000万円になる……

が、アクアイドは逃走時間と賞金アップ金額が分からないため、アクアイドの思いがままに賞金が動く。ちなみに、残り43時間50分。これまでにたっている時間は28時間10分……

今のあたり、アクアイドは700〜800万円の賞金を与える。

自首用電話は、サンセット岬と、テン・カウントに置かれている。

だが、エリア内には現在時点で17体のハンター……

確保されれば賞金は……0

クツパジャ「えーと……今近い自主電話は……サンセット岬か。行こう！」

どうやら、自首を決めたようだ……

チャンバラ・コロシウム  
噴水



—  
—

だが・・・そこにハンターが接近・・・

？  
クツパj rはいち早くハンターに気付き、確保を逃れられるのか！

## アルファ達の過去（後書き）

本家を見ながらやっていた。

本家を見ながらやると本当に勉強になりますね。

## ハンター減少時間

クツパジャー「えーと……次はここを右に……」

ハンターJ「！」

クツパジャー「あ」

「ポン」

クツパジャーは、ハンターJと鉢合わせ。

ただでさえ足の遅いクツパジャーが、ハンターと鉢合わせして逃げられるわけがない……

テレサ「あー……今なら冷凍銃を使ってたかもしれなかったのに……」

40秒前

テレサ「あれ？ジヨギングエリアに水色ヨツシーの宝箱？」

パカッ

テレサ「よし、冷凍銃！」

水色ヨツシー残り2人

テレサ「というわけで。」

バシユ!

なんと、テレサは角からハンターに氷を当てた!

ハンター 現在16体

テレサ「よし。」

プルルル

キングテレサ「えーと・・・クツパジャー確保。残り35人か。」

その時、なぜか後方から何か近づいてくる音がする・・・

振り向くと・・・

ハンター「うおおおおおおお！」

キングテレサ「ぎゃあああーっ！」

なんと、ハンターがケータイの音に反応してしまった！

キングテレサ「あれ？あれって……」

心臓破りの坂に、ルイージの宝箱が！

キングテレサ「スイッチ？」

ポチ

ルイージ残り2人

キングテレサ「冷凍銃！」

バシユ！

ハンター 現在15体

多くの逃走者が宝箱から冷凍銃を手に入れ、ハンター達を冷凍していく……

その頃・・・

鎧「ああ・・・大変だった・・・でももう少しでウィーフトウンに・・・」

ハンターE「！」

ハンターD「！」

鎧「うおわー！何でこんな時に2人もー！」

鎧はもう少しという所でハンター2体に見つけられてしまった！

鎧「誰かー！」

青へいホー「なんだこれ？」

ハカセ「2つのスイッチ？」

2人は先程テレサが冷凍銃を手に入れたところに来た。

ポチ

ポチ

水色ヨツシー missionクリア

青ヘイホー「これは冷凍銃・・・」

鎧「うわああああ！」

ハカセ「鎧!？」

青ヘイホー「ハンターが2体・・・行きますよ、ハカセさん！」

バシユバシユ!

2体のハンターを凍結させた・・・

ハンター 現在13体

青ヘイホー「よし！」

しかし、鎧はハンターが冷凍されたこともしらず、ウーフータウンへ入って行った・・・

マリオ「またさらに新逃走中の全貌が明らかになったぞ。どうやらドラえもんからは

ドラえもん

野比のび太（表し方はのび太）

剛田武一（表し方はジャイアン）

骨川スネ夫（表し方はスネ夫）

源静香（表し方は静香）

出場決定。また、自由自在さんの小説のような性格ではなく、原作通りの性格らしい。

ステージはまだ調べ中。」

逃走中second season

進行中・・・



## 2日目の終結・・・（前書き）

まだ今回は終結しませんが。

1日目よりストーリーを充実させた分、夜はすぐ終わります。

現在のmission状況

宝箱の位置

黒ヘイホー 星くずビーチ

水色ヨツシー ジョギングエリア

鎧 不明

ルイージ 心臓破りの坂

スイッチ状況

黒ヘイホー 残り1個

水色ヨツシー クリア済み

鎧 残り3個

ルイージ 残り2個

凍ったハンター

D

E

I

J

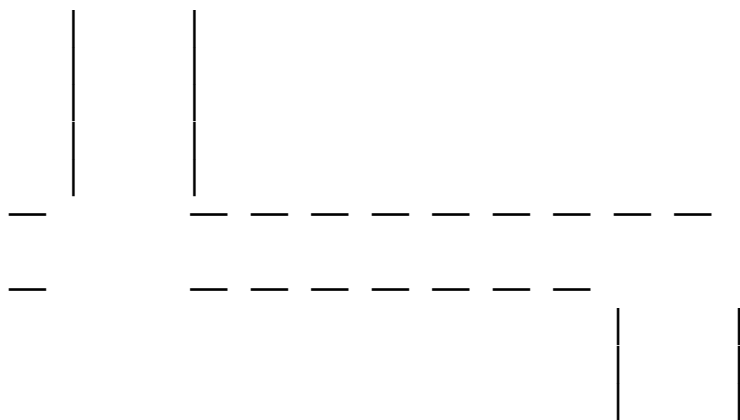
L

## 2日目の終結・・・

### 川の小道

緑へいホー「そついえば作者、3話前ぐらいから逃走エリアのハンターと逃走者を書いてたよね。今書いてみてくれ。」

アクアイド「じゃあ、こんなだったよな？」



緑へいホー「ああ。そうそう。・・・で、これはどついつ状況？」

緑へいホーは冷や汗をかきながら、質問した。

アクアイド「・・・ああ。ハンターに見つかったな。」

ハンターN「！」

緑へいほー「ぎゃあああああ！」

緑へいほー「・・・あれ？そうだ！僕にはopening game  
でgetした羽があるじゃないか！」

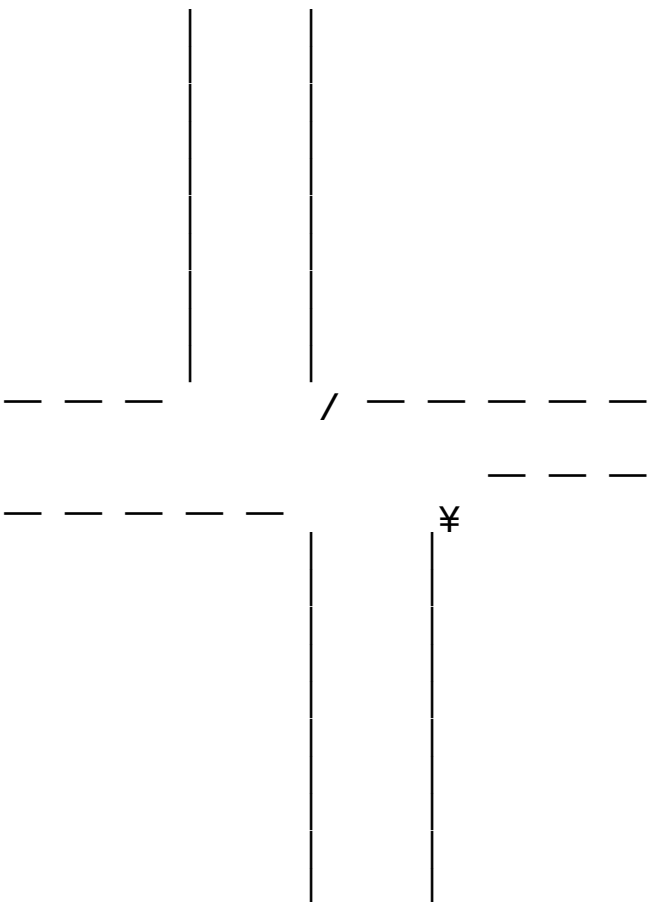
緑へいほー「あれ？なんだこりゃ・・・」

「アクアイドの勝手な判断により、1回目のopening game  
eで手に入れたアイテムは全て無かったことになりました。」

緑へいほー「ぎゃあああああああああ！」

緑へいほーはアイテムにも頼れず、逃走を続ける・・・

ニュータウン付近



ベビィマリオ「あっ、ジョー。あそこで緑へイホーが何か走っているよ。何だろ？」

ジョー「おい！ハンターがいるぞ！」

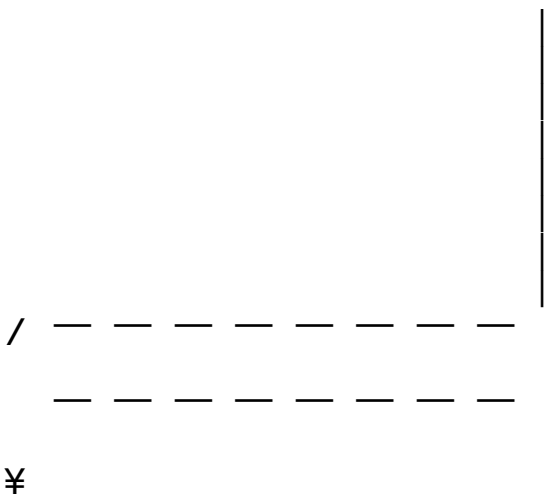
ベビィマリオ「あー！巻き添えとかひどい！」

ジョー「しょうがない。彼は逃げる・・・つまり自分が確保されないようにすることが精いっぱいだからな。逃げるぞ！」

2人も逃げ出す。

が、緑へイホーは左に曲がったため、2人は影響を受けなかった。

しかし・・・



ハンマーブロス「ああ〜・・・ブロス久しぶりの登場・・・つて！緑へいホー！ハンターをこっちに連れてくるなよ！」

緑へいホー「それはあなたがここにいたのか、ハンターに見つかってしまったかの、どっちかのせいです！」

が、緑へいホーにハンマーブロスがあっさり抜かれてしまった・・・

「ポン」

ハンマーブロス「久しぶりの登場だということにもう終わりかい！」

が、緑へいホーの追跡をハンターは止めない！

鎧「はあ、最後か・・・」

ポチ

これにより、鎧も押し、全員が押すことができた。

緑へいホーはサンセット岬周辺まで逃走してきたが、まだハンターを撒けない！

ヴオオオオン・・・

緑へイホー「いたっ！」

何かが足元に出現した。

緑へイホー「これは……宝箱！」

中にはスイッチ。

そう、鎧の宝箱だった。

ポチ

すると、手元に冷凍銃が。

緑へイホー「助かった！」

バシユ！

緑へイホーは咄嗟の判断でハンターNを凍らせた。

ハンター 現在12体

プルルルル

青キノピオ「ハンマーブロス確保残り30人……」

青キノピオ「さっきまでいた人が、姿を消していく・・・例えば先ほどまで一緒だった人が次に消えていく・・・」

青キノピオは、難解な考え方をしているようだ・・・

マリオ「まーた分かったぞ、新エリア。どうやら、メルヘニックポツプエリアの上に菱形のエリアで、最新技術で自然に積もった雪がところどころにある「スノーエルス」エリアがあるらしい。」

その小説で不思議な事が起こった

牢獄……

赤ヨツシー「どうも。」

アクアイド「赤ヨツシー。生きてたのか。」

赤ヨツシー「俺、新しい力を身に付けたぞ！」

アクアイド「そうか。この通り、デイジーは傷も癒え、逃走中に参加したが、ルカがまだ傷が癒えていない。さらに、ワリオ、クッパ、デイデーが消えた。そこで、お前にはマリオと戦ってもらおう。」

赤ヨツシー「そういえば、ベータ、ガンマがなんでここに？」

省略

赤ヨツシー「そうか……ベルーガが次期隊長を乗っ取り、アルファが死亡……」

アクアイド「お前も、戦ってくれる決心がついたか？」

赤ヨツシー「ああ！」

ガンマ「どうやらあのハンター達を放出させたのは俺らしいな……」

ベータ「俺たちも何か協力したい、ということで、ハンターの数



減らし、missionクリアにすることで償いとしてくれるか？」

アルファ「ああ。」

シユン

プルルルル

テレサ「いい加減この着信音も飽きてきたな……。」

キングテレサ「ハンターの数か8体に減り、」

レッドクリッター「さらにmission15は全員がクリア……

ってハンターが来た！」

バシユ！

どうやら、冷凍銃は残るようだ。

ルイーダ「さらに7体に減った。」

ハンターはA Gまでが残った。

一方……

クツパ「あああああああ……」

アクアイド「おおクツパ。無事だったか？」

クツパ、デイジー逃走中復活。

というかよく考えてみれば、ワリオとデイディーもう確保されてた。

こっからややこしくなるぞ。

アクアイド「えーと、まず、ルカ達がいなくなったところで33人  
って書いたけど、ワリオはもう確保されてたから、本当は34人。  
それで、デイディーもすでに確保されてたから、本当は33人だ。  
つまり、

前まで

36人 33人

33人 31人

現在で直すと

36人 34人

34人 33人

ルカ、デイジー、クツパの分を取ると、現在の人数は本当の人数よりも3人少ない。で、この前にハンマーブロスが確保され、30人・

・・・あれ？待った。」

アクアイドはこの小説を見始めた。

アクアイド「分かった！クツパジャーが確保されたときに、活動報告に気付かず、35人と書いてたんだ。」

アクアイドは理解した。

アクアイド「活動報告も併せていくと・・・

12月15日 ルカ、クツパ離脱 34人

16日 デイジー離脱 33人

22日 クツパジャー確保 32人

24日 ハンマーブロス確保 31人

つまり現在の本当の逃走者数は31人か・・・」

そして、現在33人になる。つまり、ルカも復活して34人だ。

アクアイド「ややこしかったが・・・良く見ると不思議なことが多発しているな・・・」

そこで、この小説のその時不思議な事が起こったを見ていこう。

24話

メールの回想シーンの時！

その時不思議な事が起こった！

なんと、マリオ、赤エイホーと共に、11話で確保されたはずのクリボーがいたのだ！

が、実はこの後、このクリボーはパタクリボーであることが判明した。

587

84話、85話

一発ネタなどの話の時！

その時不思議な事が起こった！

緑キノピオが、レッドクリッターと一緒にいたのだ！

しかも・・・

## 75話

なんと、緑キノピオが牢獄にいたのだ！

どうやら、紫キノピオと間違えたらしい。

とりあえず今は修正しない。

何故かは知らないが。

そして今回で2日目終了です。

あまりの時間ガラ空きですが。

## 新年逃走中の幕開け（前書き）

今年も宜しく願います。

いきなり時間が12時間以上飛んで、3日目の午前6時です。

## 新年逃走中の幕開け

8月23日 午前6時

残り時間 30時間

アクアイド「新年！」

マリオ「あけまして！」

全員「おめでとーございます！」

ベクトル「今年も！この逃走中とアクアイドの小説を！」

全員「宜しく願います！」

そして時間は本編へ……

プルル

デイジー「というわけで、3日目だ。ルカは復活した。だが、ここでmission16。」

テレサ「正月限定missionを行う。まずは全員牢獄へ集まれ。」

アクアイド「じゃあ、mission16の説明だ。7体のハンターが、正月遊びの道具を身に付けてより強力になった。」

ベクトル「道具の力を失わせるには、あちこちにある装置から赤外線を発射し、消去することだ。ちなみにこのmissionは時間無制限だ。」

逃走者人数 残り34人



アクアイド「では全員、逃走中に戻れ。」

青ヨツシー「ルカが復活……か。ルカとは関わりたくないな……

」

ガン！

青ヨツシー「いてえ！」

青ヨツシーは誰かとぶつかった。

青ヨツシー「ちゃんと前を見て歩けよ！」

紫キノピオ「悪い悪い。緑と間違えられて最近出番のなかった紫だ。

」

青ヨツシー「ここはルカとぶつかるのがお約束だろ。」

レイクピア・キャツスル

テレサ「この当たりに赤外線装置は無いかな・・・」

／  
／

赤外線装置を探すテレサの近くにハンター・・・

ハンターF「！」

テレサ「うわっ！ハンターを見つけてしまった！」

すぐさま逃げ出すテレサだったが・・・

ハンターF「そうはいくか！俺達はパワーアップしたんだ！」

すると、なんと羽子板と羽根を服から出した！

ハンターF「粘着スマッシュ！」

すると、羽根をテレサ目がけて打った！

ハンターF「この羽根は、地面に粘着させるのさ！」

しかし、テレサは何事も無かったかのように逃げ続けている・・・

ハンターF「あ、あれ……!?」

そこに

ハンターA「どうした!？」

ハンターF「かくかくしかじかしくいむーぶ……ってまたこれ  
かよ!話を省きすぎだろ!」

ハンターF「おかしいんだよな……粘着剤も塗ってるし……」

ハンターA「お前!足のないテレサには意味無いぞ!」

ハンターF「あっ……しまった!テレサには足がなかった!」

痛いミスを新年からしてしまった……

## キー・デュエル ガンマVSシゲマ

デイジー「キヤー！」

開始早々、ハンターBに追われるデイジー。

ハンターB「俺の武器はこれだ！」

そうやって出したのは、凧上げの糸と三角凧だった。

ハンターB「行けーっ！トライグ！」

三角凧「ギシャーツ！」

なんと、凧は生きていた！

そのまま、デイジーに突進してくるではないか！

デイジー「薔薇の棘切り！」

ズバーツ！

トライグは体を切り裂かれ、穴が開いた。

ハンターB「トライグーっ！」

生きた凧、トライグ。

ここに散る……

そんな事をしているうちにデイジーは行ってしまった。

ベルーガ「これでもう既にここに用は無い。3回目の場所に行くだけだ。が……」

ラーミラ「どうしました？」

ベルーガ「アルティメッターの鍵を持っているのはガンマだ……」

ラーミラ「つまり、アクアイド側の勢力を倒さないといけないってわけですか……」

シグマ「私が行ってまいります。」

ベルーガ「そうか、シグマ。頑張れよ。」

ラーミラ「ねえ、ベルーガ隊長。これってサブタイの「VS」は、どちらも同じぐらいの力で、シグマ ベルーガ だから、つまり、

ベルーガ シグマ ガンマじゃないですか。だから、あなた自身い

けばいいんじゃないんですか？」

ベルーガ「ラスボスは普通最後に行くだろ。」

デルタ「ああ。だから、今回はシグマに行かせよう。」

ラーミラ「戻らないようにワープ不可能装置つけときますね。」

シグマ「行くぞ！」

シュン！

シグマは行ってしまった。

赤マーレ「あれって、赤外線装置？」

レイクピア・キャツスルの中に赤外線装置を見つけた赤マーレ。

しかし、近くにハンターDがいて、思うように動けない。

その後、1分の時が経ってしまった……

赤マーレ「私の足なら、渡りきれるかもしれない……」

一か八かの賭けをした赤マーレ。

赤マーレ「うおおおおお！」

ハンターD「やらせるかあ！」

ハンターDは独楽を出した！

ハンターD「行けーっ！スパイラル・チェルスター！」

独楽が赤マーレの体に当たった！

赤マーレ「きゃあああ！自分の思い通りに足が動かない！」

ハンターD「この独楽を受けると、体は思い通りに動かなくなるのだ！」

赤マーレに迫るハンター！

ハンターとは12m、装置に5m。

赤マーレ「行けーっ！」

ガシッ！

赤マーレは見事、レバーを持った！

グイツ！

そして赤外線装置が作動！

すると、ハンターDの持つ独楽、赤マーレの行動が普通に戻った！

赤マーレ「やったわ！」

赤マーレは速く、成す術がないハンターDを振り切った。

ガンマ「この鍵は、もう何にも役に立たない……。一つ言っと、この鍵をメルザスに渡さないこと」

シグマ「うおおお！」

バシユ！

ガンマ「ぐわっ！」



ガンマは鍵を弾かれた！

シグマ「いただきっ！」

ガンマ「渡すか！」

ガシッ！

ガンマは鍵をすぐに抜き取り、左手の剣で体を突いた！

シグマ「ぐおおっ!?!」

シグマは砂浜に落ちた。

シグマ「シャドー・・・attack！」

なんと、シグマが10人になり、ガンマを追い詰める！

バシッ！

ガンマ「しまった！」

なんと、鍵を取られてしまった！

そして、ガンマの前に並んで10人が立った。

シグマ「さあ、どいつが鍵を持っている本物かな!?!」

全員が言った。

ガンマ「よし・・・」

ガンマ「全体攻撃！フュージュゾーン！」

エナジーが吸い取られそうな力のゾーンに、シグマは巻き込まれてしまった！

シグマ「ぐああああああ！」

ゾーンが消えた後、シグマは1人になっていた。

シグマ「これで負けるわけには行くか！性能吸収！」

シグマは手に持っていたスライム（ドラクエではない実際のスライム）と同化した！

シグマ「液体人間シグマ！」

ガンマ「液体人間！？斬つてやる！」

ズバア！

シグマは簡単に斬られた！

シュイン！

分かれた2つのゲル状の液体が合体した！

シグマ「俺は液体だ！斬られてもどうしよつても倒されない！」

シグマはダッシュからジャンプパンチ！

ガンマに的確に当てた！

ガンマ「ぐわああああ！」

ガンマはゲル状の液体人間を倒すことはできるのか！？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9996v/>

---

逃走中firstseason スーパーマリオスタジアム編

2012年1月6日20時50分発行